

スル制度ヲ設クベシ、世界ノ進歩ハ須臾モ止マラズ少シク油断スレバ直ニ時勢ニ遅ル、中国人ノ弊トシテ校門ヲ出ツレバ往々勉学ヲ抛擲スルモノ多シ、後進指導ノ職ニ在ル教育者ヲシテ日進ノ知識ニ遅レザラシメントスルニハ短期長期留学ノ制度ヲ設ケ東西各国ニ向テ之ヲ派遣スベシ即チ一面日進ノ學術ヲ穿タシメ一面鼓吹ニ資スベシ

二、中学教育界初等教育界中ヨリ視察員ヲ短期派遣スル方法ヲ定ムベシ

教育者ヲシテ海外ニ派遣シ見聞ヲ廣クシ刺戟ヲ受ケシム之レ進歩ノ第一段ナリ予二回之ヲ実行シテ其効果ノ大ナルヲ確認セリ費ヲ節シテ之ヲ行フ勞少ナクシテ効甚大ナリ即チ各省内ノ優良教員毎年若干名ヲ撰拔シ撰賞ノ意味ニ於テ日本各地ニ派遣シ視察ノ目的ト範圍トヲ指定シテ視察セシメ其報告ニ徴シテ改善ノ資トナス、不良留学生ノ數ヲ減シテ此種ノ方法ニ費ヲ投ズレバ其効果數等ナラン

(各省之ヲ為ス能ハザレバ一省ヨリ若干名ヲ出シ三四省連合シテ一団ヲ組織スルモ可ナリ)

以上各項皆悉ク必要ニシテ忽ニス可ラザル事項ニ属ス若シ今日ノ如ク放任主義ヲ取ルニ於テハ國家ハ多大ノ經費ト優

良ノ人才ヲ徒費スルモノ、留学制度ヲ設ケ之ヲ実行セシ真意ニ反スル大ナリト云フベシ、是レ中国ノ現在将来ニ採リテ慎重ニ熟慮スベキ大問題ナリトス、以上論ズル所大要ニ過ギズ実施スルニ至リテハ詳細ナル研究ト周到ナル方法ヲ要スルハ勿論ナルモ目下ノ急務ニ対シ一日モ速ニ適當ノ方法ヲ設ケラレシコトヲ希望ス

多数ノ留学生ヲ收容シテ教育シツ、アル日本当局者ハ東亞文明ノ進歩向上日支兩國ノ幸福ヲ念トシ其留学生ノ優良ナル効果ヲ挙ケ將來國家ニ貢獻センコトヲ望ミ居ルモノナレバ前案各項中第二第四第五第七各項ニ就キ日本当局及教育家等ト協議セバ必ズ喜ンデ至誠所托ニ酬ユル所アルベキヲ信ズルモノナリ

非才ヲ顧ミズ愚見ヲ呈出スルコト斯ノ如シ此事ニ関シ若シ疑問アラバ條項ヲ指摘シテ下問セラレシコトヲ、

峰旗良充

事項一五 中国問題ニ関スル意見書雜纂

五九五 二月下旬 筑紫陸軍少將

帝國中華民国兵器同盟策

(極秘)

帝 國 中華民国兵器同盟策 大正三年 筑紫少將
二月下旬

東洋平和ノ覇權ハ帝國ノ自任シテ掌握スル所タラサル可ラス抑モ東洋ノ禍機ハ支那ニ伏在スルヤ言フ待タス今ヤ露國ハ北滿、外蒙古、新疆方面ヨリ英國ハ西藏、長江沿岸ヨリ仏國ハ雲南、独逸ハ山東方面ヨリ米國ハ内地ノ各地ヨリ各其ノ利權ヲ獲得ヲ進歩シツツアリ南滿及内蒙古方面ニ此ノ發展ヲ図ラントスル帝國ハ支那四囲ノ状況、就中露國ノ南進策ニ対シ確乎タル決心ヲ以テ東洋ノ禍機ヲ永遠ニ圧伏シ平和ノ覇權ヲ確實ニ掌握スルノ手段ヲ講セサルヘカラス増師國ヨリ急務ナリ中華民國ト兵器同盟ノ密約ヲ締結スルノ議亦之ト相讓ラサル焦眉ノ提案ナリト信ス

支那國民ハ三百年來四囲ノ圧迫ヲ受ケ或ハ國地ヲ削リ或ハ利權ヲ讓リ朝北暮南折衝ノ術ニ依リテ國家一日ノ安ヲ偷マント欲スルニ似タリト雖モ其ノ失フ所多キモノニ向テハ含

ム所亦從テ大ナラサルヲ得ス露國カ千六百八十九年尼布楚

條約ヲ始メトシ千八百五十八年愛璦條約尋テ千八百六十年ノ北京條約ニ依リ其ノ北境ヲ逐次強略シ今ヤ復タ外蒙古ヲ懷柔シテ南進ノ機會ヲ促進セントスルヲ最トシ帝國カ台灣ヲ取り朝鮮ヲ服シ關東租借權ヲ收受セシカ如キハ支那國民ノ就中忘ルル能ハサル所ナルヘシ露國ニ依リテ帝國ヲ控制シ或ハ帝國ニ依リテ露國ヲ制肘スヘキカノ問題ハ彼等ノ国力此ノ兩國ヲ一丸トシテ敵視スルヲ得サル限り常ニ其ノ胸中ニ往復シアラサルヘカラス独ニ依リテ仏ヲ制シ米ニ依リテ英ヲ扼シ或ハ彼此相噬マシムルノ小策ノ如キハ平和ノ大局上未タ以テ重視スルニ足ラサルナリ

平和ノ維持ハ兵力ヲ負フ外交ノ力ニ依リテ担保セラレ兵力ノ強弱ハ兵器ノ供給補充ニ関スルヤ大ナリ若シ帝國ニシテ支那ト兵器同盟ヲ締結シ其ノ陸軍ヲシテ本邦製造ノ兵器ヲ使用スルニ至ラシメンカ其ノ供給補充ノ策源地ハ帝國ノ内地ニ存在スルカ故ニ施テ支那陸軍ノ強弱ヲ左右シ終ニ彼ヲシテ帝國ノ行動ニ合致スルノ止ムヲ得サルニ至ラシムルヲ

得ン東洋平和ノ覇國タラントスル帝國カ平和ノ重点タル支那ニ於テ此ノ關係ヲ占有スルハ即チ平和ノ担保上重大ナル効果ヲ齎ラスモノト信ス

支那革命ニ次テ中華民國ノ各國ニ承認セラルルヤ彼ハ民国大政ノ方針ヲ定メ今ヤ國政ノ整理ニ着手セントシツツアリ此ノ機會ハ即チ千歳ノ一遇兵器同盟ヲ提唱スヘキ最好時機ナリト謂ハサルヲ得ス抑モ支那陸軍ハ從來各省分立ノ結果兵器ノ統一ヲ欠キ主トシテ各國ノ旧式兵器ヲ購買使用シ来レリト雖モ就中日独兩國ノ兵器ハ其ノ大部分ヲ占メ常ニ其ノ競争ヲ現ハシツツアリ革命中及革命後ニ於ケル独人ノ奮進ハ実ニ驚嘆ニ値スルモノ多シ此ノ際我ニシテ若シ一步ヲ誤マラハ支那陸軍ノ兵器ハ独人ノ占有スル所ト為リ永ク平和ノ保障ヲ害スルニ至ラン

中華民國ノ為ニ計ルニ師旅ノ整理ト兵器ノ独立トヲ併行実施セントスルハ愚策ナリ兵器ノ独立ハ何レノ國ト雖モ其ノ完全ヲ期シ得ルモノナシ難ヲ避ケテ易ニ就クハ新興國眼前ノ國是タラサルヘカラス即チ専心師旅ノ整理ニ向テ猛進シ兵器ノ供給、補充ニ関スル軍事上ノ要求ハ平戰兩時ニ亘リ其ノ目的ヲ達スルニ最モ確実、迅速且容易ナル位置ノ關係

同盟ニ依リテ實現スルコト

二、帝國政府ハ砲兵工廠ノ作品タル新式兵器ヲ實費ヲ以テ中華民國政府ノ陸軍ニ供給補充スルコトヲ誓約スルコト
三、中華民國政府ハ其ノ陸軍兵器ノ供給補充ヲ帝國政府ニ求ムル報酬トシテ左ノ事項ヲ承認スルコト

- (イ) 民国陸軍ノ兵器ハ漸次帝國陸軍ノ兵器ニ更新スルコト
- (ロ) 兵器ノ原料ヲ産出スル礦山及山林ノ採掘伐截ニ関シ帝國政府ノ優先権ヲ認ムルコト

(ハ) 兵器製造場ノ新設若ハ再興ニ當リ帝國政府ノ指導及補助ヲ求ムルコト

之ヲ要スルニ帝國ト中華民國トノ兵器同盟ハ目下ノ急務ナリ之ヲ成立セシムルト否トハ一ニ我当局者ノ手腕ニ在リ茲ニ兵器同盟策ヲ提議シ且ツ其ノ内案ヲ提供ス

(極秘)

帝國兵器同盟内容ノ大要

- 第一案(甲) 漢陽兵器製造所ヲ漢冶萍煤鉄公司ニ合併スル案

一、支那政府ハ漢陽兵器製造所ヲ民業ニ移シ漢冶萍煤鉄公司ニ松下クルコトヲ承認ス

ヲ有スル隣國ノ好意ニ訴ヘテ処決スルノ方針ヲ採ルコト緊要ナリトス此ノ点ヨリ論スレハ民国タルモノ須ラク独ヲ去リテ日ニ就クノ上策タルヲ首肯スヘシ

帝國ト中華民國トノ兵器同盟ハ彼我ノ利害上決シテ成立セサル問題ニアラス我当局者ニシテ東洋平和ノ保障ニ貢獻スヘキ一挙手一投足ノ勞ヲ惜ムナクンハ此ノ問題ノ解決実ニ易々タルノミ

以上論スル所ニ依リ帝國ト中華民國トノ兵器同盟ハ東洋平和ノ保障ニ對シ急遽解決スヘキ問題ニシテ又解決ノ決シテ困難ナルモノニアラサルヲ知レリ然レトモ支那國民ノ特性トシテ吾人ノ忖度シ得サルモノアリ即チ國家万年ノ謀ハ往々ニシテ眼前ノ利害ニ左右セラルルモノアルヲ見ル故ニ独人ノ提供スルモノニシテ彼等眼前ノ利益ヲ示スコト日人ニ優ルコトアリトセハ其ノ結果ノ如何ヲ考慮スルノ遑ナク一意独人ノ意ニ投合スルヤ必セリ於是乎兵器同盟ノ策トシテ採ルヘキ方針ハ唯兵器ノ定価ヲ低減シテ民國ノ負担ヲ輕減シ且ツ幾分ノ資財ヲ彼等為政者ノ間ニ贈ルニ在リ兵器同盟ハ密約トシ左ノ条件ヲ含有シアルヲ要ス

一、東洋ノ平和ハ兩國ノ提携ニ信賴シ兩國ノ提携ハ兵器ノ二、漢陽兵器製造所松下ニ要スル費用ハ日本政府ヨリ漢冶萍煤鉄公司ニ貸付クルモノトス(正金銀行ト公司トノ借款契約ニ依ル)

三、漢陽兵器製造所松下価格ノ評價ハ日支兩國政府ノ委員竝漢冶萍煤鉄公司職員間ニ協定スルモノトス
四、松下金ノ使用ニ就テハ支那政府ハ他ノ拘束ヲ受クルコトナシ

五、漢陽兵器製造所ハ湖南、湖北、江西、安徽、河南、陝西、甘肅、四川八省屯在ノ軍隊(約二十一個師団分)ニ對シ其ノ兵器ノ製造供給並修理ニ任スルモノトス但シ兵器ノ新調並修理費ハ支那政府ト公司トノ間ニ別ニ協定スルモノトス

六、支那政府ハ前項軍隊保管ノ旧式兵器ヲ漸次日本式ニ更新スルコトヲ約ス但シ其ノ更新ハ日本政府ノ承認ヲ經タル支那政府ノ計画ニ基クモノトス

七、右更新ニ要スル主要ナル兵器製造原料ハ公司ニ於テ日本工廠製品ヲ使用スル義務ヲ負担ス但シ細部ノ規定ハ別約ニ依ル

八、兵器製造所松下ニ要スル費用ハ漢冶萍煤鉄公司ノ債務

トシ公司ハ其ノ担保トシテ漢陽兵器製造所ノ全財産ヲ
日本政府（正金銀行）ニ提供スルモノトス
九、右借款利率ハ年六分トシ毎年 月公司ヨリ日本政府ニ
納付ス

十、貸付元金ノ償還ハ毎年 万噸ノ生鉄ヲ公司ヨリ日
本枝光製鉄所ニ交付シ製鉄所ハ其ノ代価ヲ正金銀行ニ
納付シ借款成立後 十年ニシテ完了スルモノトス
十一、日本工廠ヨリ公司ニ供給スル兵器製造原料ノ代金ハ
前条ノ方法ニ準シ公司ハ之ニ相当スル生鉄ヲ製鉄所ニ
製鉄所ハ其ノ代金ヲ工廠ニ払込ムモノトス但シ之ニ関
スル細部ノ規定ハ工廠、公司、製鉄所ノ協定ニ依ル

第一案（乙）漢陽兵器製造所擴張案

一、支那政府ハ漢陽兵器製造所ヲ復旧擴張シ其ノ作業力ヲ
増大ス之ヲ為要スル費用ハ日本政府ヨリ支那政府ニ貸付
クルモノトス
二、製造所ノ復旧及擴張ノ程度ハ先ツ從來ノ作業力ヲ恢復
シ且仕上工場及修理工場ヲ完備増設スルヲ目的トス
前項ノ実施ニ要スル経費ヲ控除セシ残余金ハ支那政府隨
意ノ使途ニ充ツルヲ得

利息据置次年度ヨリ逐次精算仕払フモノトス

第二案 奉天兵器製造所設置案

一、支那政府ハ東三省及北支那屯在軍隊（約二十個師團）
ノ兵器ヲ整備シ且其保統ヲ図ル為奉天ニ兵器製造所ヲ設
置ス

二、奉天兵器製造所設立ニ要スル経費ハ 円トシ日本
政府ヨリ支那政府ニ貸渡スモノトス其契約ハ別ニ定ムル
所ニ依ル

三、奉天兵器製造所ハ支那政府ノ直營トス

四、支那政府ハ奉天兵器製造所ノ作業及會計顧問トシテ日
本政府ノ指定スル日本官吏ヲ雇傭スルノ義務ヲ有ス

五、支那政府ハ東三省及北支那屯在軍隊保管ノ旧式兵器ヲ
漸次日本式ニ更新ス其計画ハ別ニ之ヲ定ム

六、右更新ニ要スル兵器ハ総テ奉天兵器製造所ノ製品ヲ使
用ス

七、奉天兵器製造所ニ於ケル主要ナル兵器製造原料ハ総テ
日本工廠製品ヲ使用スルノ義務ヲ負フモノトス

八、兵器更新ノ為ニ要スル日本工廠製兵器製造原料ハ日本
政府ヨリ原価ヲ以テ支那政府ニ売却ス

三、漢陽兵器製造所ハ湖南、湖北、江西、安徽、河南、四
川、陝西、甘肅八省屯在ノ軍隊（約二十一師團分）ニ対
シ其ノ兵器ノ製造供給並修理ニ任スルモノトス

四、支那政府ハ日本政府ニ対シ前項軍隊保管ノ旧式兵器ヲ
漸次日本式ニ更新スルコトヲ約ス其ノ更新ハ日本政府ノ
承認ヲ經タル支那政府ノ計画ニ基クモノトス

五、支那政府ハ右更新ニ要スル主要ナル兵器製造原料ハ日
本工廠製品ヲ使用スルノ義務ヲ負担シ日本政府ハ其ノ原
料ヲ原価ヲ以テ供給スルコトヲ約ス但シ細部ノ規定ハ別
約ニ依ル

六、製造所擴張ニ要スル日本政府ノ貸付金ニ対シ支那政府
ハ担保トシテ漢陽兵器製造所ヲ提供ス

七、貸付金ノ利率ハ年六分トシ毎年 月支那政府ヨリ日本
政府ニ支払フモノトス

八、貸付元金ノ償還期限ハ五十年トス但シ支那政府ハ二
十ヶ年後何時ニテモ全部償還スルコトヲ得

九、支那政府ハ漢陽兵器製造所ノ作業及會計顧問トシテ日
本政府ノ指定スル日本官吏ヲ雇傭スルノ義務ヲ有ス

十、年々日本工廠ヨリ供給スル製造原料ノ代金ハ一ヶ年無

九、前項売却金ニ関シテハ別ニ定ムル借款ニ依リ処理ス

借款内容ノ大要

一、奉天兵器製造所設置ニ要スル経費 円ハ日本政府
ヨリ支那政府ニ貸渡スモノトス

二、奉天兵器製造所ハ先ツ仕上工場、修理工場及試験場ヲ
新設ス

前項ノ新設費ヲ控除セシ他ノ剰余金ハ支那政府ノ意ニ從
ヒ他ノ費途ニ充ツルヲ妨ケス

三、右貸渡金ノ利率ハ年六分トシ毎年十二月支那政府ヨリ
日本政府ニ仕払フモノトス

四、支那政府ハ右借入金ノ担保トシテ奉天兵器製造所ヲ日
本政府ニ提供シ且 ノ採掘權ヲ日本政府ニ譲与ス
ルモノトス

五、前項借入金ハ本契約成立後五十年後日本政府ニ償還ス
ルモノトス

六、日本政府ハ右償還金ノ受領ト同時ニ ノ採掘
權ヲ支那政府ニ返還スルモノトス

七、東三省及北支那屯在軍隊保管兵器新調及修理ニ要スル
日本工廠製兵器製造原料代金ハ年々一ヶ年間無利子ヲ以

スル兵器費ヲ年々日本工廠ニ前金払ヲ為スモノトス

画案

六、購買ニ要スル經費ハ支那政府ヨリ泰平公司ヲ経テ日本政府ニ納付セシム

七、兵器売買価格ハ日支兩國政府ノ協定ニ依ル但シ此價格ハ兵器ノ原価、運搬費及泰平公司ニ対スル手数料（原価ノ五分ヲ超過スルヲ得ス）ヲ合算シタルモノトス

八、支那政府ハ兵器代金払ニ換フルニ担保品提供ヲ以テスルヲ得之カ為ニハ別約ヲ要ス

帝 國 兵 器 同 盟 ニ 関 ス ル 内 案

一、兩国政府ハ先ツ支那陸軍ノ武拾箇師団ノ主要兵器（歩兵銃、野（山）砲）ヲ十年計画ヲ以テ帝国制式兵器ニ更新スルコトヲ密約ス

二、支那陸軍ノ一師団ニ要スル歩兵銃ヲ壹万挺野（山）砲
ヲ三十六門ト仮定シ之ニ別表第一号ノ属品及彈藥ヲ附ス
前項ノ兵器彈藥費ハ總額（第三項第^二号ヲ含ム）約一四、五〇〇、

三、帝國政府ハ左ノ事項ヲ履行スヘキ義務ヲ負擔ス
(一)密約成立ノ年月ヲ起原トシ向十ヶ年ニ亘リ毎年貳箇師
團分ノ兵器彈藥ヲ支那政府ニ交附ス
但シ其ノ運搬費ハ支那政府ノ負擔トス

(二)密約成立ト同時ニ前記総価格ノ約一割ニ相当スル金額

兵器彈藥費 二箇師分 約一、三〇〇、〇〇〇円

但シ約一割ノ益金ハ次年度ニ回収スルヲ得ヘシ
 民国政府者ニ贈与金 約一、五〇〇、〇〇〇円

(二) 次年度ヨリ毎年密約最
終年迄

(二) 次年度ヨリ毎年密約最終年迄 約一、三〇〇、〇〇〇円
兵器彈藥費

但シ約一割ノ益金ハ逐次々年度ニ於テ回収スルヲ得ヘシ

即チ帝國政府ノ支出額初年度ニ於テ約二、八〇〇、〇〇〇
円次年度ヨリ第五年度迄六年々約一、三〇〇、〇〇〇円ヲ
支出シ

リ其ノ他利息ノ關係ヲ表示スル事別紙第二号計算ノ通トス

二十箇師団ニ要スル主要兵器所要数量及価格表

員數		合		師		師	
二箇師團分		一師團分		二〇師團分		二〇師團分	
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三三、六〇〇	四〇〇	六七二、〇〇〇	四、三六八、〇〇〇	三、三八六、八八〇	六〇四、八八〇
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二二八、四〇〇	四〇〇	六七一、〇〇〇	四、三六八、〇〇〇	三、三八六、八八〇	六〇四、八八〇
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一六九、三四四	四〇〇	六七一、〇〇〇	四、三六八、〇〇〇	三、三八六、八八〇	六〇四、八八〇
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、二四〇	四〇〇	六七一、〇〇〇	四、三六八、〇〇〇	三、三八六、八八〇	六〇四、八八〇
一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、二四〇	四〇〇	六七一、〇〇〇	四、三六八、〇〇〇	三、三八六、八八〇	六〇四、八八〇

一五 中國問題ニ関スル意見書雜纂 五九五

八七一

品名	目	単価 (定価ニ一割 二分ヲ加フ)	員数 (一師團分)	合	二十聯隊分	總額
砲兵輓馬具	前馬用	一四六〇〇〇	七二	一〇、五二〇〇〇	二一〇、二四〇〇〇	八七二
砲兵輓馬具	中馬用	一四六〇〇〇	七二	一〇、五二〇〇〇	二一〇、二四〇〇〇	
三八式銃実包	紙函共	一七五一〇〇	七二	一二、六〇七二〇〇	二五二、一四四〇〇	
三八式野砲彈藥	彈藥	三六九六〇〇	三、〇〇〇	一〇、八八〇〇〇	二二、二七六〇〇	
三八式野砲彈藥	彈藥	一〇八四〇〇	四、八九六	五三、〇七二六四〇	一、〇六一、四五二八〇	
本表中、野砲兵隊ノ編制ヲ山砲兵 隊ニ改ムルトキハ其經費下ノ如シ	計			六四九、一六七八四〇	二、九八三、三五六八〇	
備考				五六七、六〇六九六〇	一一、三五二、一三九二〇〇	

一、一ヶ師團歩兵ノ銃數約一万挺及火砲三十六門ト定ム
二、彈藥ハ小銃一挺ニ付三百發、野砲一門ニ付百三十六發、又山砲一門ニ付百二十發トス

別表第老号参考

山砲兵二十ヶ聯隊(二十師團)ニ要スル主要兵器數量及價格表

品名	目	単価 (定価ニ一割 二分ヲ加フ)	員数 (一師團分)	合	二十聯隊分	總額
四一式砲	砲車	二、六八八〇〇	三六	九六、七六八〇〇	一、九三五、三六〇〇〇	
同 砲	砲箱	四〇三二〇	三六〇	一四、五一五二〇〇	二九〇、三〇四〇〇	
同 第一器	第一器箱	二六四〇〇	三六	九、五〇四〇〇	一九〇、〇八〇〇〇	
同 第二器	第二器箱	九七四〇〇	三六	三、五〇六四〇〇	七〇、一二八〇〇	
同 第一器	第一器箱	九五六三〇	七二	六、八八五三六〇	一三七、七〇七二〇	
同 第二器	第二器箱	一〇五一〇〇	七二	六、八四七二〇〇	一三六、九四四〇〇	
同 大架	大架用	一〇五二〇〇	七二	七、五七四四〇〇	一五一、四八八〇〇	
同 托架	托架用	六五〇〇〇	七二	三、三六〇〇〇	四六八、〇〇〇〇	
同 彈藥箱	彈藥箱用	八二七〇	四、三二〇	三五、七二六四〇〇	七一四、五二八〇〇	

別表第二号

兵器費収支計算書

大正三年六月二十七日

年度	計	入	支	出	差引支出額
中華民國ヨリ兵器ヲ收入スルモノ	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	
砲兵工廠益金ヲ收入スルモノ	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	
上二段ノ利子ヲ五分トシテ計算ス	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	
帝國ノ國庫ヨリ兵器代ヲ支出スルモノ	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	
同 上ノ利子ヲ五分トシテ計算ス	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	
計	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	一、四四〇、〇〇〇	

現金収支計算書（除利子）

年度	帝國政府ヨリ支 出スヘキ現金	作業上ノ利益及 第六年ヨリ支 那政府ヨリ償還 ヲ受クヘキ入	上二段差引
	支	出	実支出額 実収入額
1	1,000,000	1,000,000	2,000,000
2	1,000,000	1,000,000	2,000,000
3	1,000,000	1,000,000	2,000,000
4	1,000,000	1,000,000	2,000,000
5	1,000,000	1,000,000	2,000,000
6	1,000,000	1,000,000	2,000,000
7	1,000,000	1,000,000	2,000,000
8	1,000,000	1,000,000	2,000,000
9	1,000,000	1,000,000	2,000,000
10	1,000,000	1,000,000	2,000,000
11	1,000,000	1,000,000	2,000,000
12	1,000,000	1,000,000	2,000,000
13	1,000,000	1,000,000	2,000,000
14	1,000,000	1,000,000	2,000,000
15	1,000,000	1,000,000	2,000,000
計	15,000,000	15,000,000	30,000,000

註 右文書ヲ始メトシ以下宛名ノ記載モ説明モナキモノハ總テ

外務省又ハ外務大臣宛提出セラレタルモノナリ

五九六 七月二十日 在中国小幡臨時代理公使ヨリ
小池政務局長宛

北京在住某日本人ノ起稿セル「日本ノ執ルベ

キ対支外交私議」送付ノ件

附屬書 右対支外交私議

（七月廿七日接受）

拝啓別冊ハ当地某邦人ノ起稿ニ係ルモノニ有之候処稍露骨ナル外務省攻撃ノ筆鋒モ相見エ表向キニハ取次兼候者ニハ候ヘ共永ラク当方面ニ滞留シ支那政客有司ノ間ニ往来奔走セル末此觀察ヲ取纏メタルモノニテ中ニハ觀察ノ頗ル奇警ト認ムヘキ処有之候ノミナラス滿蒙五鉄道ノ我手ニ帰属スルニ至レル裏面ノ消息ノ如キ誠ニ難捨趣アル様存候儘内密転達申上候御一読ノ価値無之候ハ、便宜焼棄被下度將又何等カ御感興相惹候モノトシテ対支外交御経綸ニ資スルニ足ル節聊カタリトモ有之候ハ、芻漁屠樵ノ言モ亦明眼達識ノ士ニ遭フテ経世ノ大策ト相成候事ト存スル次第ニ有之候

頓首

大正三年七月二十日

小池政務局長殿

北京使署
小幡 西 吉

侍 曹

註 右対支外交私議ニ対シ當時支那通ヲ以テ目セラレ居タル公使館三等書記官高尾亨及中畑書記生ノ加ヘタル左記評言添付セラレタリ

- (一) 「露ノ中原横断の野望ニ留意セル所大ニ買ツテヤル値打チアリ、滿蒙五鉄道モ慥ニ一部ノ消息ヲ漏シ居ルモノト認ム、少シク文章ヲ直セバ物ニナルベシ 亨」
- (二) 「兎ニ角北京ニ於ケル支那研究会ノ觀察意見トシテ本省ニ転覧セシムル価値アルヲ信ズ其ノ我が国ガ所謂滿蒙五鉄道ニ随喜シタル内容ヲ喝破シタル辺ハ痛快ナリ後半段ハ論旨文章共ニ粗雑ニ傾キタルモ最後結論ノ一節ハ十分考慮ノ価値アリ、中畑榮祥見」

（附屬書）

日本ノ執ルベキ対支外交私議

我國ノ対支那關係ハ他列国ノ対支那關係ト全然其質ヲ異ニシ列国ハ其対支外交上多少ノ失敗アリタリトスルモ僅ニ其支那ニ於ケル利益ノ分配若クハ勢力ノ扶植ニ幾分ノ影響ヲ受クルノミニシテ其本国ニ対シテハ何等關係スル所無

シ、是ニ反シテ我國ハ其対支外交上縱令ヒ一部タリトモ錯誤アリタリトセンカ其影響ハ只ニ支那ニ於ケル利益分配若クハ勢力扶植ニ影響スルノミナラズ牽テハ我國ノ存亡ニ関ス、故ニ我國ノ対支外交ハ我國ノ存立策ト東洋ノ平和策トヲ経緯トシタル百年ノ大計タラザル可カラズ

然リ百年ノ大計ヲ策ス其利益ヲ受ル者豈ニ我國ノミニ非ズ東洋ノ享クル所ノ幸福ハ蓋シ是ニ過グル者無カルベシ、雖然國家百年ノ大計東洋永遠ノ長策ヲ定メントスルハ絶代ノ偉人カ非常ノ識見家ニ非ズンバ到底為シ能ハザル所ナリ

今回大隈内閣出頭シ總理大隈伯ハ其施政方針ヲ發表シ從來ノ対外方針ヲ變更シテ対支外交ヲ本位ニ置キ欧米ニ対スル外交ハ是ヲ第二位ニスベシト宣言セリ、這ハ対支外交ヲ重要視スル感念ノ増大シタル結果ニテ我帝國ノ外交方針ガ漸ク切実ナル方面ニ向ヒツツアルヲ見ルベキナリ、雖然其本位トシタル対支外交ハ果シテ如何ノ方針ヲ執ラントスルカ

支那ニ対スル列国ノ態度ハ革命以來各自ニ著シク其欲望ヲ逞フシ鉄道鉱山等所有ル利權ハ列国ノ掌中ニ収メラレタ

リ即チ支那ハ或ル意味ニ於テ既ニ分割セラレタリ
昨年以来列国ガ支那ニ向ツテ要求セシ鉄道鉱山ハ殆ド支
那重要ノ部分ヲ挙テ劃尽セリ而シテ其分配モ亦其国ノ勢力
相応ニ比例セラル

斯ク要求分配セラレタル中ニテ英仏独ノ鉄道敷設権ノ如
キハ其若干ヲ獲得スルモ甚シク恐ル、ニ足ラス雖然露国ガ
革命以来支那ヨリ要求獲得セシ外蒙地域ト美国ガ最近要求
獲得セシ延長石油馬尾築港ノ如キハ其取得ガ直ニ我国ノ存
亡問題ニ至大ノ影響ヲ与フ

露国ガ蒙古ヲ支那ヨリ分離セシメテ自国ノ底下ニ置キ白
耳義資本団ヲ驅ツテ支那東西貫通ノ海蘭鉄道及ビ陝西潼關
ヨリ北上シテ万里長城外帛化城ニ達スル鉄道敷設権ヲ獲得
シ、更ニ海蘭鉄道西端甘肅蘭州ヨリ四川ノ成都ニ延長スル
ノ権ヲ得彼ノ仏領安南河内ヨリ広西竜州ヲ經テ南寧ニ達シ
更ニ貴州ヲ經テ成都ニ達スル仏国鉄道線ト聯絡ス、乃チ露
国ガ数十年前計畫セシ對支那鉄道政策ハ茲ニ其目的ヲ貫徹
シ露都聖彼得堡ヨリ西伯利亞鉄道ニ由リ庫倫ヲ經テ帛化
城ニ出デ更ニ自国關係資本ニ由リテ築成セル鉄道ニヨリ支
那全国ヲ東西縱横ニ驅使スルヲ得ル、是ニ加フルニ西伯利

露国ノ對東方輸送力ノ増加セシ以上ハ我国ガ如何ニ増師
スルモ陸軍ノ對抗ハ望ム可カラズ

米国ガ支那沿岸ニ於テ海軍根拠地ヲ獲得セシ以後ハ我国
ガ如何ニ増艦スルモ海軍ノ對抗ハ望ム可カラズ、況ンヤ我
国ノ人口ト財政ハ或程度迄ノ増師増艦スラ許サザルニ非ス
ヤ

我国ハ此困難ナル地位ニ処シテ而モ自国ノ安固ト東洋ノ
平和ヲ策セザル可カラズ

抑モ我国ノ安危ハ專ラ對岸支那ノ成行如何ニ由リテ決
ス、而シテ二十世紀ニ於ケル世界列国ノ其勢力扶植ニ最モ
注意競争セントスルハ支那問題ナリ

我国ハ東洋ニ於テ霸權ヲ掌握スト自称スルモ其実国力ノ
微小ハ霸權ヲ実行スル事能ハズ、支那ガ自ラ騷擾スルモ他
国ノ為メニ攪乱セラル、モ日本ハ常ニ是ニ對シテ只ニ霸權
の行動ヲ執ル能ハサルノミナラズ却テ其波瀾ニ振蕩セラレ
テ周章狼狽スルノミ

偶支那ガ脱線の行動ヲ敢テシ国际上若クハ友誼上ノ干渉
若クハ勸告ヲ試ミザル可カラサル場合モ常ニ先ヅ列強ノ意
向ヲ探リ未ダ曾テ霸權ノ發動ニ基因スル行為ニ出タル事ナ

亞鉄道復線既ニ成リテ遠東經營ノ機關具備ス早晚露国ガ支
那ヲ席捲シテ我国ニ復仇戦ヲ試ムルハ蓋シ免レザル所ナ
リ

米国ガ陝西直隸ノ石油採掘権ヲ獲得シ福建馬尾ノ築港ヲ
内約ス油礦ト築港其将来我国海軍ニ及ス影響ヤ絶大ナリ而
シテ米国ハ是ニ拠テ我国海軍ノ太平洋ニ於ケル勢力ヲ抑制
シ巧ミニ米支海軍同盟ヲ提唱シテ以テ支那ヲ利用シ太平洋
ノ制海権ヲ米国ノ手ニ掌握セントス

露国ガ支那領土内ニ軍隊輸送力ヲ増加スルハ直ニ我国ノ
国防ニ絶大ノ影響ヲ及ボス、而シテ米国ガ支那沿岸ニ海軍
根拠地ヲ獲得セバ是亦直ニ我国ノ国防ニ絶大ノ打撃ヲ加フ
今ヤ兩者共ニ既ニ其要求ト目的トヲ貫徹ス、則チ我国ハ
腹背ニ米露ノ勁敵ヲ受ケタルナリ而シテ此間ニ処スル支那
ノ態度如何ト云フニ、支那ハ露国ハ強大敵ス可カラズトシ
テ恐伏シ米国ハ富力恃ムベシトシテ心服ス、独リ日本ニ對
シテハ恐ル、ニ足ラス恃ムニ足ラズ而シテ同族相助ノ誼ヲ
忘レテ同種相剋スルノ挙ニ出ヅルヲ恨ム事切ナリ、故ニ若
シ我国ガ米露ノ何レニ對シテ戰衅ヲ開クモ必ズ支那ハ日本
ニ加担セザルベシ

シ

是レ要スルニ外交ノ不振タルモ其実我国ノ実力ガ希望ニ
伴ハザル結果ニシテ妄ニ外交不振ヲ以テ当局ヲノミ責ム可
カラズ

然則我国ガ自国ノ安固ト東洋ノ平和トヲ目的トスル百年
ノ經綸ヲ策スルニハ必ズ先ツ国力ノ伴ハザル自覺ヲ前提ト
シテ立案セザル可カラズ

国力ノ伴ハザルヲ前提トスル對支那策ハ現總理大隈伯ガ
宣言セラレタル英國資本ヲ利用シテ支那ニ事業ヲ經營スト
云フ一語ニ尽サレタリ、雖然日本ガ支那ニ於テ事業ヲ經營
シ所謂實業提携ヲ実行スル為メニ英國ガ容易ニ諾シテ巨費
ヲ融通スルヤ否ヤハ甚シキ疑問ナリ

日本ガ支那ニ於テ或事業ヲ經營スル為メ直接間接英國ノ
利益トナル方面ノ問題ナラバ兎モ角モナレトモ、實際然ラ
ズシテ現今ノ如ク英國ノ勢力範圍ト思為セル揚子江沿岸ニ
於テ英國ノ隙ヲ窺ヒ利権ヲ獲得セントスル野心ヲ懷ク者ナ
リト猜疑セル日本ニ對シ英國ガ投資スベシトハ信ズルヲ得
ザルナリ

然則此問題モ国力ノ伴ハザルヲ前提トスル主旨ニ相違ナ

(註 原 外 報)

キモ他人ノ懷ヲ当ニシタル空想ニテ其実行ヲ期シ難シ、(但シ大隈伯ノ胸中既ニ成竹アルモノナランニハ我國ノ利便是ニ過グルナク挙国一致其成効ヲ禱ルト共ニ其実行ニ力メザル可カラズ)

今仮ニ英國ガ其協議ニ賛成シテ融通ヲ肯諾シタリトスルモ其ハ啻ニ種々ナル制限約条件アルノミナラズ是ニ由リテ我國ノ対支政策ヲ了シタリト云フニ非ズ、我國ハ尚所有ル方面ニ於テ研究セザル可カラズ

吾人素ヨリ政治知識ヲ具スル者ニ非ズ又外交ノ事情ヲ解スル者ニ非ズ随テ為政者ノ処置ヲ評論シ若クハ私議スルノ資格ナシ、雖然今ヤ我國ノ地位ハ米露ノ大敵ヲ腹背ニ受ケ而モ此兩敵ヨリ導火線ヲ引キ何時炸裂スルモ測ラレザル爆彈の支那ヲ目前ニ擁ス此際ニ処スル我國ノ方針如何ハ直ニ我國ノ運命如何ニ関スルヲ以テ日本國民トシテ自ラ各分際相應ノ注意スル所アリ元ヨリ識者ノ一笑ニ値セザルモ敢テ卑見ヲ述ベテ以テ識者ノ教ヲ請ハントス

吾人ガ粗糲散漫ナル頭腦ヨリ按出セシ我國ノ対支策ハ大約左ノ如キ方針ト手段ヲ取ルヲ適當ト信ズ

一 支那ノ人心ヲ收攬スル事

間嶋問題ノ如キ海沙島問題ノ如キ其問題ノ甚小ナルノミナラズ其根柢ノ極メテ薄弱ナルニモ拘ラズ全力ヲ拵ゲテ是ニ傾注シ其失敗ニ終ルヤ啻ニ支那人ノ惡感ヲ買ヒタルノミナラズ實ニ笑ヒヲ取り、其結果日貨排斥ノ為メニ莫大ノ損失ヲ招キタリ

其他漢口兗州昌黎等ノ交渉問題ノ如キ悉ク小ニ得テ大ニ失スルノ嫌ヒアリ

是ニ反シテ米國ハ支那労働者移住禁止ノ為メ大ニ支那人ノ感情ヲ害シ遂ニ米國貨物排斥問題ヲ惹起スルヤ義和團事件賠償費ノ減額ヲ振廻シテ以テ人心ヲ收攬シ一時猛烈ナリシ米貨抵制論ハ暫時ニシテ消滅シ減額セシ賠償金ハ米國ニ遊學スル學生ノ資金ト成リテ益米國ガ対支勢力扶植ノ根柢トナル、斯ノ如キハ是小ニ失シテ大ニ得タルナリ

今我國政府及國民ガ支那ニ在リテ或事業ヲ經營セント企図シ其允許ヲ要求スルヤ支那ハ政府モ人民モ悉ク猜疑ノ眼ヲ以テ是ヲ迎ヘ政府ハ言ヲ左右ニ托シテ之ヲ拒ミ人民ハ呼号煽動以テ反對ヲ為ス、是ニ反シテ米國人ガ或利権ヲ要求スルヤ縱令ト將來支那ニ莫大ナル不利ヲ生スル問題タルニ拘ラズ喜デ是ヲ許シテ疑ハズ偶外人ノ是ニ注意ヲ与フル者

一 從來ノ支那ヲ認メザル外交方針ヲ改メテ支那ヲ認メタル外交ヲ行フ事

一 大陸ニ対スル領土的勢力拡張ノ限度ヲ定ムル事

一 露國南下ノ途ヲ成ベク英國勢力範圍内ヲ通過セシムル事ニ注意スル事

一 米國ノ海軍根柢地ヲ台灣以内ノ対岸ニ得セシメザル事

約斯ノ如キ大綱方針ヲ立テ其実行ノ手段ニ至リテハ臨機応変宜シキヲ挾デ誤ラザルヲ期ス、大綱既ニ立ツ手段ハ機ニ触レ時ニ乘ジ自ラ湧出シテ以テ順次ニ預定ノ方針ニ適合セシムルヲ得、今更ニ各項ニ付キ少シク是ヲ詳述セン

△ 支那ノ人心ヲ收攬スル事

國際ノ原則トシテ対手國ノ人心ヲ收攬スルハ外交ノ要義タルハ今更此ニ贅スルヲ要セザルモ我國ノ対支外交ハ此原則ト背反セル場合少シト為サズ、勿論國家ノ威信ト体面ニ関スル場合ニ於テハ戰爭モ敢テセザル可カラザル所ナルモ、斯ノ如キ時機ハ極メテ罕ニシテ而モ平素ノ人心收攬的政策ガ能ク行ハレ居ルニ於テハ極メテ罕ニ有ル衝突紛議モ更ニ快速了局シテ一層稀罕ナラシムルコトヲ得、視ヨ彼ノ

アルモ却テ是ヲ以テ米支間ノ離間ヲ行フ者ト思為ス

米國ノ人心收攬ヲ重要義トセル対支外交政策ノ結果良好ナル事斯ノ如クニシテ我國ノ人心收攬ヲ忘却シ去リタル対支外交政策ノ結果不良ナル事斯ノ如シ、是我国外交ノ最拙劣ナル所ニシテ当局者ノ宜シク反省スベキ処ナラズヤ

△ 從來ノ支那ヲ認メザル外交方針ヲ改メテ支那ヲ認

メタル外交ヲ行フ事

從來我國ノ対支外交ハ一定ノ方針ナシ、是固ヨリ歐米列強ノ東亞ニ侵蝕シ來ル勢力ノ猛烈ニシテ而モ我國ノ実力ガ是ト拮抗シ能ハザルヲ以テ勢ヒ列強ノ意向ヲ見テ其間ニ姑息ナル臨機応變ノ間ニ合セ策ヲ講ゼザル可カラザルニ基因スト雖、其實際内情ヲ解剖シテ是ヲ評セバ我国外交当局者ノ腦底ニ支那ナル者ガ充分ニ了解シ得ラレ居ラザルナリ

我國政府及ビ外交当局者ガ其目的物タル支那ヲ充分理解シ能ハザル限りハ是ニ対シテ終始一貫百年不變ノ外交方針ヲ確定シ能ハザルハ言ヲ待タズ

今仮リニ我國ノ人士ニシテ外交家ヲ以テ立ツ者或ハ經世家ヲ以テ自ラ任ズル者ニ就テ支那ノ將來如何ヲ質スニ其説ク所種々アルモ大約左ノ三説ニ歸着ス

一 支那ハ到底駄目ダ早晚列国ノ分割ヲ免レズ
一 支那ハ将来自発ノ分裂カ外迫ノ瓜分ヲ免レザルモ其ハ尚数次ノ転化ヲ経ルヲ要シ必ズ現執権者タル袁世凱ニ事故アリタル後ナルベシ

一 支那ノ前途ハ甚シク悲觀スルヲ要セズ袁世凱ノ現ニ執リツ、アル復旧政策ニシテ其目的ヲ達シ兎ニ角前清末路ノ情態ニマデ恢復シ得タランニハ外債ハ多少増加シ居ルモ昏弱ナル醇親王ト機擘ナル袁世凱トハ自ラ其運轉ノ法ヲ異ニス、四億ノ国民ト四百万方里ノ領土ヲ有スル邦家豈夫レ容易ニ滅亡スルアラシヤ敍上ノ三説ガ対支外交ヲ論ズル者ノ間ニ繰返サレツ、アル問題ニテ此三説中未ダ曾テ何レノ議論ガ論理卓越シテ他ノ所論ヲ圧伏シタルヲ見聞セズ、否只ニ一般論者ガ是等議論ノ中ニ彷徨スルノミナラズ我国政府ノ外交当局者モ亦此三旨ノ上ニ立テ進退シツ、アリ

前二者ハ絶対ニ支那ヲ悲觀シタルモノニシテ後者ハ極端ニ支那ヲ樂觀シタル者ナリ、而シテ我国ニ於ケル軍人方面ノ觀察ハ全然前者ニ属シ外務省方面ノ觀察ハ稍後者ニ属スルガ如シ

一 臨時約法ガ議會万能主義ヲ執リ大總統ノ權限ヲ過度

ニ束縛シタル事

一 財政ノ窮迫ガ中央政府ヲ維持シ難ク勢ヒ応急策ヲ專断セザル可カラサル事

袁世凱ガ臨時大總統ノ任ニ膺リタル時ハ国帑空乏官吏離散ノ際ニテ所謂財無ク人無ク実ニ心細キ仮政府ナリキ列国ハ未ダ一トシテ支那統治ノ政府ナリト承認ヲ与フル者ナシ、而シテ露国政府ハ其未ダ袁政府ヲ承認セザルニモ拘ラズ庫倫活仏ニ代リ蒙古自治問題ヲ提起シ来ツテ袁世凱ニ其承認ヲ迫レリ（維時在民国元年四月）

当時袁世凱ハ其未ダ内閣モ成立シ在ラザリシヲ以テ其回答ノ猶豫ヲ求メタリシガ八月ニ至リ露国ハ更ニ其承認ヲ催スト同日ニ英国亦西藏自治問題ヲ提起セリ

時恰モ孫逸仙黃興ノ北上セシ際ナレバ南方珍客ヲ欲待籠絡スルニ日モ亦足ラズ、偶科布多ニ於テ蒙古兵支那兵トノ衝突アリ科布多ハ全ク蒙古兵ニ蹂躪占領セラレシ報アリ、袁世凱ハ直ニ那彥圖ヲ烏里雅蘇台將軍ニ任ジ兵ヲ率キテ討伐セシメントセシニ露国公使ハ其任命ヲ見ルヤ直ニ袁世凱ニ左ノ詰問ヲ為シタリ、曰ク

支那ノ存亡ハ直ニ我国ノ存亡問題トナル其關係ヤ切実至重ナリ隨テ支那ノ状態如何ハ我当局者モ国民モ一日トシテ注視ヲ怠ル可カラザルノミナラズ自国ノ安固ト東洋ノ平和ノ為メニ確定セル方針ニ由リ臨機ノ処置ヲ為サザル可カラズ然ルニ實際ハ当局モ国民モ充分ニ支那ヲ理解シ居ラズ、更ニ当局ニ於テ外務省ト參謀部トガ各觀察ヲ異ニシテ方向ヲ同フセザル兩頭蛇タルニ於テハ豈寒心ノ極ナラズヤ

絶對悲觀論必ズシモ非ナラズ極端樂觀論必ズシモ是ナラズ、吾人ハ兩者ノ何レガ能ク支那ノ実情ヲ看透シ居ルカヲ批判スルヲ要セズ只支那現下ノ趨勢及ビ将来ノ預想ニ就キ先ツ自己ノ所見ヲ敍述セン

革命ノ機会ニ由リテ河南ノ草廬ヲ出デ運善ク大總統ノ權ヲ獲得シタル袁世凱ノ胸底ニ画セル支那統治策ハ支那民度ニ適當セザル政体ヲ運用スルノ不可能ナルヲ夙ニ断定シ居リ、只革命ノ主旨ヲ没却スル譏ヲ憚リ幾多婉曲迂廻ノ手段ヲ運シテ遂ニ專制ノ旧態ニ復シタリ

袁世凱ガ斯ク急劇ニ專制ヲ行フニ至リタル素ヨリ其胸底ニ画セシ所タルモ其ノ斯ク急劇ニ行ハザルヲ得ザルニ至ラシメタルハ左ノ二個ノ原因ニ激発セラレタルニ由ル

支那政府ハ科布多ニ於テ支那兵ト蒙古兵ノ衝突アルヤ直ニ烏里雅蘇台將軍ヲ任命シ兵ヲ率キテ討伐セシムト聞ク果シテ支那政府ハ蒙古ニ出兵スルカ、露国政府ハ蒙古ノ現状ニ鑒ミ今此ニ支那ヨリ兵ヲ蒙古ニ入ル、ハ偶以テ禍乱ヲ増大スルモノト信ズ、故ニ支那政府ニシテ出兵ヲ敢テスルニ於テハ露国モ亦相当ノ出兵ヲ為スベシ

袁世凱ハ此詰問ヲ受クルヤ露国ニ対シ支那ハ決シテ出兵セズト回答シタリ、此時袁世凱ノ胸底ニハ到底藩屏放棄ノ止ム可カラザルヲ断然決心セリ

雖然袁世凱ガ大總統ト成リタルハ外交ト軍事ニ手腕ト經驗ヲ有スルトノ世評ニ依リタルニ就任早々外交ニ於テ其手腕ヲ試ル能ハズシテ露国ニ屈シ軍事ニ於テ其經驗ヲ示ス能ハズシテ蒙古ニ辱メラル、ニ至リテハ袁世凱ノ大總統タル資格悉ク剥落シテ己ノ威望ト地位トヲ維持シ能ハザル恐アルヲ以テ只管事実ヲ隱蔽シテ時日ヲ遷延シ其間ニ於テ放棄ノ口実ト時機ヲ発見セント力メタリ

西藏問題英ニ譲ラザル可カラズ蒙古問題露ニ屈セザル可カラズ時恰モ宋教仁暗殺問題發生シテ南北感情遽ニ乖離シ国民党ハ議會ノ力ヲ借りテ以テ其是非ヲ争ハントシ孫逸仙

黃興李烈鈞柏文蔚等ハ到底北部ノ陰險ナル徒ト融合シ能ハザルヲ覚悟シ南北分離ハ到底免レザル形勢トナレリ

露国ハ時期乘ズベシト為シ暗ニ蒙古ヲ煽動シテ内蒙東蒙ノ地ニ出兵セシメテ脅迫ヲ行フ袁世凱ハ南方第二次革命ト北方蒙古ノ南下ト腹背敵ヲ受ケ且露国ガ表面ヨリ先ニ代提セシ蒙古自治ノ承認ヲ迫ル事益急ナリ而シテ日本民間ノ輿論ハ悉ク南方ニ加担シテ袁世凱ヲ攻撃ス

此時ニ於ケル袁世凱ノ胸底ハ英露ニ対シ藏蒙問題ヲ讓歩セザル可カラザルヲ覚悟シ居ルモ是ニ承認ヲ与ヘシ時ハ日本ハ必ズ滿洲ニ於ケル或種ノ問題ヲ提起シテ要求スル所アルベシ、日本ガ果シテ如何ナル意思ヲ有シ居ルカハ預メ測知シ置カズンバ藏蒙問題モ輕忽ニ解決ス可カラズ、且日本ノ對南方革黨援助ノ意特ニ革黨ヲ愛スルニ非ズ只革黨成効セバ夫レニ由ツテ滿蒙問題ノ解決ヲ為スハ言ヲ待タズ若シ革黨成効スルニ至ラザルモ南北對立曠日弥久セハ必ズ漁夫ノ利ヲ得ラルベシトノ深意ナルヲ以テ是ニ對スル策ヲ講ズルハ最モ急務ナリ、此ニ於テカ孫宝琦李盛鐸ノ渡東問題起ル

孫宝琦李盛鐸ノ渡東當時ハ民国二年六月乃チ南北既ニ分

一 日本政府ヲシテ南方ニ左袒セシメザル事

一 日本民間ノ南方援助輿論ヲ挽回スル事

則チ二氏ガ齎ラス所ノ使命ト携フル所ノ玉帛ハ叙上ノ如クニシテ尚是ヲ有効ニ使用シ無駄遣ヒト為ラザル方法モ充分ニ指示セラレタル者ト察セラル、故ニ駐日公使汪大燮ガ態々神戸迄迎ヘニ出デ予メ打合セヲ為シテ然ル後東京ニ赴キタルナリ

其滿洲土產有効使用法トハ何ゾ、曰ク支那現下ノ狀況ハ到底英露ニ対シテ藏蒙問題ノ承認ヲ与ヘザル可カラズ然シ一旦是ガ讓歩ヲ為サバ続イテ要求ヲ提起シ来ル者ハ日本ナリ、故ニ日本ガ滿洲ニ対シ果シテ如何ナル深意ヲ有スルカハ予メ測定シ置カザル可カラズ、是ヲ測量スルニハ先ヅ實業提携ノ好辭ニ由リ滿蒙五鉄道敷設問題ヲ提起シテ日本政府ノ鼻息ヲ窺フ、若シ日本政府是ニ対シ歡迎ノ情態ヲ露ハサバ則チ日本ハ滿洲ニ対スル大野望ヲ有セザルナリ、何トナレバ若シ日本ニシテ果シテ蒙古ノ成行如何ニ由リテハ機ニ乘シテ滿洲ヲ要求全吞セントスル意思アランニハ区々タル其範圍内ノ鉄道敷設ヲ提議スルモ頗ニ受ケテ歡迎スルノ筈ナシ、其態度如何ハ以テ日本政府對滿洲野望ノ深淺ヲ精

裂シテ李烈鈞江西都督ノ任ヲ解カレタル際ニテ日本新聞ガ一斉ニ南方ニ左袒シテ袁世凱ヲ攻撃スル声ハ殆ド南方革命党ガ早ク第二次革命ノ旗ヲ翻サバルヲ憤慨スルノ情態タリシ、此際ニ於テ曾テ何レモ外国公使タリシ經驗アル二氏ガ突如日本ニ向フ、其齎ス所必ズ重大ナル問題アリシヤ言ヲ待タズ

二氏ガ出発ニ臨ミ在北京日本新聞記者ヲ招キ一席ノ宴ヲ開キタリ、彼ガ其席上洩ラシタル所ニ拠レバ中日ノ親交ヲ謀リ實業ノ聯絡ヲ計ル外政況ヲ視察スルニ在リト云ヘリ而シテ汪大燮（當時ノ駐日公使）ハ神戸迄迎ヘニ来リ居ル筈ニテ是ト協議ノ上ニテ上京シテ当局者及政治家実業家ト会见スベシト付言セリ

是則チ當時ノ公使伊集院氏ガ中日実業提携ナル對支政策ヲ標榜セシヲ以テ其辭ヲ藉テ以テ日本ノ深意ヲ測度セントシタル最モ巧妙ナル使節タリシナリ

袁世凱ノ二氏ニ言含メタル使命ノ用件ハ是ヲ簡單直截ニ掲出セバ滿洲五鉄道ヲ以テ土產トシテ左ノ三途ニ有効ニ使用スル事

一 日本ノ滿蒙ニ對スル深意ヲ謀ル事

確ニ窺知スルヲ得

既ニ日本政府野望ノ深淺ヲ窺知ス、其野望ノ深ニシテ大ナランニハ更ニ加フルニ或者ヲ以テシ講ズルニ或法ヲ以テス、若シ其野望ノ淺ニシテ大ナラザレハ是ニテ日本政府ノ深意ヲ探リ得タルト同時ニ其ヲシテ歡喜セシメテ南方ニ加袒スル如キ事ナカラシムルヲ得ル、更ニ是ヲ利用シテ實業提携ノ下ニ民間実業家ニ散リ撒キ以テ南方ヲ援助シ北方ヲ攻撃スル論調ヲ緩和セシム、即チ一物ヲ以テ三方ニ使ヒ分ケントゾスルナリ

此意味深重掛引甚大ナル使節ガ日本当局ト会见シ袖中携フル所ノ五鉄目錄ヲ提出シ日本ニ投資ノ意思アリヤ否ヤヲ詢フ當時我当局ハ此問題ニ対シ歡々喜々該兩使節ヲシテ一瞥ノ下ニ何等滿蒙ニ對スル意思モ計畫モ無キヲ看破セラレタリ、兩使ハ得タリト直ニ一電以テ袁世凱ノ安心ヲ為サシメ更ニ実業家方面ニ散リ撒ク、雖然當時南方既ニ第二革命ノ旗ヲ拏ゲタルヲ以テ戰爭好きノ日本国民ニハ砲声ハ耳ニ入ルモ斯ル際ニ実業等ノ談ハ耳ヲ傾クル者ナクシテ新聞論調緩和ノ目的ハ達スル能ハザリキ

既ニ日本政府ノ深意ヲ探リ且ツ其ヲシテ南方ヲ援助スル

無カラシメタルハ其使節ノ目的ヲ充分ニ果シタルモノナリ、否日本当局ガ歡喜ニ度ヲ過シタルヲ以テ該使節等ハ土産トシテ進呈スベカリシ五鉄モ尚其柄ヲ自国ニ保留シテ遣リ切リト為サズ只日本ヲシテ資金調達ダケニ過ギザラシメタリ

袁世凱ハ兩使ノ發セシ日本政府歡天喜地ノ一電ニ接シ、胸中煥然、惟フニ日本ニ外交家無シト微笑ヲ漏セシナラシ、最早日本ハ顧慮スルニ足ラズ大統領就任當時ヨリ既ニ覺悟セシ藏蒙問題ノ処分ハ其覺悟セシ如ク放棄スルモ何等外部ニ牽聯事情ノ發生スルノ恐ナシ、只余ス所ハ議會ニ於ケル若輩ノ囂々ノミ

日本政府ガ既ニ南方ヲ援助スル能ハザル收賄者ト成リタル以上ハ南方軍ニ何等後援アルナシ一挙殲滅スベシト遂ニ長驅進入革命軍ノ根拠ヲ覆スヲ得タリ

国民党ノ巨魁首領ヲ驅逐シ得タル袁世凱ハ特ニ直ニ議會若輩ヲ驅逐スル事ヲ為サズ却テ是ヲ利用シテ以テ憲法ノ一部ヲ制定シ正式ニ己ヲ選舉セシメ、其選舉僅カニ終ルヤ是ヲ破壊シテ又囂々スルヲ得ザラシメ其間ニ於テ露國ノ要求ヲ承認シタリ

レノ方針ヲ執リシカ

日本ノ対支關係ハ今更此ニ説クヲ要セズ、則チ露國ノ如ク全然支那ヲ無視シ能ハザルヤ明ナリ而シテ其対支實際ノ外交ハ常ニ英露ノ鼻息ヲ窺フテ支那ヲ眼中ニ置カズ

今仮ニ滿蒙五鐵道ヲ孫宝琦李盛鐸ガ齎シ來ツテ我当局ニ引出物ト為ス事ナカリシナレバ我國ハ露國ヲ憚リテ該鐵道モ未ダ要求シ得ザリシナラン、是レ対支問題デアリナガラ露國ヲノミ眼中ニ置キテ支那ヲ無視シタル結果ニ外ナラズヤ

若シ日本ガ資本ニ乏シキ為メ自由ニ利權獲得ヲ運動シ能ハズト云ヘバ何故孫李ガ贈物シ來リシ時ニ是ヲ謝絶セズシテ歡迎セシヤ、更ニ又該鐵道ハ我國ノ南滿利益關係上必要ナルヲ以テ露國ガ縱令ヒ喜バザルモ支那ガ縱令ヒ齎シ來ラザルモ我日本ハ当然要求スベカリシナリト云ヘバ何故ニ曾テ其調査ガ為シアラザリシカ、曾テ是等ノ鐵道ニ対シ計画ヲ立テシ事無カリシヲ以テ随テ是ガ調査ヲ為シタル事ナシ、調査シタル事ナキヲ以テ其贈付シ來ラル、ニ及ンデ只歡天喜地其實際ノ運用如何ヲ顧ルニ遑アラズ隨喜ノ余リ他ヲ語ルヲ忘レ遂ニ洮南熱河線ヲシテ空シク行止リノ地ニ終

叙上ハ袁世凱ガ大統領就任以來外交上ニ於ケル最モ苦辛セシ処ニシテ而シテ其露國ノ要求ニ承認ヲ与ヘシハ外交上ノ一大段落ヲ付ケタルナリ

西藏問題ト支蒙境界問題未ダ落着セズト雖其ハ藩屏放棄ヲ決心シタル上ヨリ見レバ何等重要視スルヲ要セズ、只不得要領ノ交渉ニ由リテ遷延シ置カシニハ幾分ノ權利保留ヲ得バ其ダケ利益ナリ縱令ヒ覺悟以上ノ利益ヲ保留シ能ハザルモ又他ノ問題發生ノ場合交換材料ト為シ得ベシトノ目的ニ外ナラズ

更ニ是ヲ列國ノ側ヨリ見レバ露英仏ノ対支外交ハ或ル意味ニ於テ支那ヲ無視シタル遣方ナリ米獨ノ対支外交ハ或意味ニ於テ列國ヲ無視シタル仕方ヲ為ス、是固ヨリ其國ノ他位關係ガ然ラシムル所乃チ露國ノ対支關係ノ如キ何等支那ヲ認ムル必要ナシ關係列國ニシテ異議ヲ挿ム所ナケレバ縱令ヒ如何ナル不条理ノ問題ニテモ敢然支那ニ向ツテ是ヲ遂行ス、米國ノ対支關係ノ如キ何等列國ノ鼻息ヲ窺フ必要ナシ支那其者ニシテ同意ヲ表スル所ナレバ縱令ヒ如何ナル重大問題ニテモ敢然列國ヲ顧ミズシテ是ヲ要求ス、顧ミテ我日本ノ対支政策ハ其何レノ地位ニ在リテ而シテ今日迄何

リ渤海ト通ズル聯絡線ヲ付屬延長スルヲ得ズ、而シテ渤海トノ聯絡線ハ却テ他國ニ奪ハル、其ハ我外務省ガ大正三年六月十五日声明セシ記事ヲ見テ知ルヲ得、其声明主旨

日本新聞紙ニ英國資本家ハ日本ガ一定ノ權利ヲ有スル南滿洲及東蒙古ニ於テ鐵道ノ利權ヲ得タリトノ報告ヲ掲載スルモ日本政府ハ日本ガ該地鐵道敷設ノ權利ヲ掌握シ常ニ着々歩ヲ進メツ、アル事ヲ列國ニ通牒シ列國ハ此權利ヲ尊重セリ故ニ日本ハ列國ガ日本ノ承諾ヲ受ケズニ日本ノ經濟上及戰略上ノ利益ニ關係スル利權ヲ取得スベク自國ノ資本家ヲ援助スル事ナカルベシト信ズ

一千九百十三年二月英支合資会社ハ京奉線ノ一支線ニ對スル利權ヲ切望シテ日本政府ニ申出タリ本支線ハ僅カニ延長八十哩ニシテ一部英國ガ投資シタル線ニ從屬スルヲ以テ日本ハ是ヲ承諾セシモ將來ノ利權ニ關シテハ英國ハ日本ト協議スベキ事並ニ英國外ノ資本ガ投資セラル、場合ニハ日本ハ均等ノ特權ヲ有スベキ事ヲ要求シ英國ハ是ニ同意セリ此声明中京奉線ノ一支線ニシテ延長八十哩ト云フハ錦州ヨリ朝陽ニ至ル線ニシテ此線ヲ一千九百十三年二月ニ於テ英國ノ英支合資会社ニ承認ヲ与ヘタルハ明ニ我当局者ガ洮

熱線若シクハ錦熱線ニ対シ何等ノ意思計画ヲ有セザリシヲ証明スル者ニテ同年六月孫李兩使ガ五鉄道ヲ齎シ来ルニ及ンデ初メテ僅カ四個月前ニ英支合資会社ニ承認ヲ与ヘタル錦朝八十哩ノ京奉支線延長ガ惜シクナリシモ如何セン既ニ遅シ、洮熱線ヲ敷設シタル岷海陸聯絡地点ヲ求メント欲セバ瀋州ニ出ルヨリ外ニ道ナシ而シテ瀋州ガ港灣タル働キヲ為シ得ルカ否ヤハ疑問ナリ

孫李既ニ歸来シ土産鉄道問題漸ク具体的ト成ルニ及ンデ或処ヨリ聞ク所ニ拠レバ支那政府ハ一旦蒙古問題ヲ露国ニ譲步セバ日本少クトモ南滿鉄道及關東州租借年限九十九年ノ延長並ニ鉄道ハ南滿線ヨリ小庫倫赤峰多倫諸爾ヲ經テ張家口ニ至ル線ヲ要求スベシト思為シ百方其意ヲ打明ケシメントシタルモ日本ハ其一端ヲ漏ラス事ヲモ肯ゼズ為メニ支那政府ハ日本ノ野望ハ更ニ大ナルベシト疑懼セシメタリ、詎其實際ヲ探リタルニ意外ニモ何等野望ヲ有セズ其案外ナルニ驚キタリ、只支那政府ハ列国ヨリ種々ナル要求ヲ受クルハ免レザル所ナレバ初メヨリ有体ヲ打明ケテ相談ヲ受クルヲ却テ心善シトス然ルニ日本ハ常ニ或希望ヲ有シテ是ヲ開襟ノ協議ニ訴ヘズシテ迂廻ナル策ヲ施ス是支那政府ノ甚

ハス、延長問題モ亦其本末ヲ失ヒ先ツ其中央ニ於テ交渉スル事ヲ忘レテ地方關係者ヲ求メテ姑息ノ交渉ヲ為ス、其米国人ノ奪フ所ト為ル怪ムニ足ラズ、是均シク支那政府ヲ無視シタル為メニ取りタル失態ニ外ナラズヤ

是ニ反シテ米国ノ対支外交ハ彼ノ一千九百〇六年支那労働者ノ米国上陸禁止法律ヲ制定スルヤ支那人ガ直ニ奮起シ米貨排斥ヲ試ミタルニ驚キ是ガ挽回策トシテ庚子賠償金ノ減額ヲ振り廻シ遂ニ首尾善ク排米思想ヲ消滅セシメタルノミナラズ是ガ為メ著シク親米思想ヲ惹起セシメタリ

米国ノ対支外交方針ハ「ルーズベルト」大統領以来既ニ確定セル所ニシテ「タフト」其方針ヲ繼イデ益其方向ニ猛進シ「ウイilson」是ニ代ルト雖其対支根本政策ニ於テハ終始一貫變更アルナシ、其対支計画及ヒ手段ニ於テハ悉ク成効セリト云フ能ハザルモ其方針ノ確定セル手段ノ支那ヲ主視シテ列国ヲ眼中ニ置カザル遣方ハ実ニ痛快ト云フベシ

一千九百〇八年東三省總督ト米国農具会社トノ合資事業ニテ吉林黒竜江ニテ米国ヨリ五百万弗ノ農具及ビ資本ヲ提供シ支那ヨリ其開墾土地ヲ提供シ以テ一大農業会社ヲ組織

ダ快ト為サザルノミナラズ却テ猜疑ノ為メニ大ニ感情ヲ害シテ融和ヲ妨グ

彼ノ西沢嶋問題ノ如キ、間嶋問題ノ如キ、安奉線問題ノ如キ、近クハ漢口兗州軍人侮辱問題ノ如キ、昌黎問題ノ如キ、南京問題ノ如キ、其性質ハ各異ル所アルモ要スルニ支那政府ヲ無視スルカ支那国民ヲ輕蔑シタル結果ヨリ出テタル問題ニ外ナラズ

其他尚最モ笑フベキハ漢冶萍借款問題ト延長石油問題ナリ漢冶萍モ延長モ中央政府ノ定メタル鉱業条例ニ従ハザル可カラザルハ言ヲ待タズ、単ニ些少ナル鉱業問題ナレバ支那当事者ト日本当事者ガ如何ナル事ヲ為スモ一々問フ限リニ非ザルモ此ニ大鉱業ハ支那ニ於テモ唯一ノ事業ニシテ日本ニ在テハ何レモ海軍ノ死活ヲ云云スル程ノ關係ヲ有シ表面商業家ガ頭ヲ出シテ運動スト雖背面ニハ政府ガ扣ヘテ外務省ガ執筆ス

此重大ナル問題ヲ運動スルニ当ツテ其運動ヲ為ス者先ツ是ヲ中央政府ニ当ラズシテ窃ニ地方關係者ト狐鼠々々ノ協議ヲ行フ、故ニ漢冶萍問題ハ地方ニ於テ契約完全ニ成立セリト雖中央ノ阻害ヲ受ケテ簽印ノ効力ヲ充分ナラシムル能

セントセシ如キ、滿洲鉄道中立ノ提議ヲ為シタル如キ、錦愛鉄道布設並ビニ連山灣築港ノ契約ヲ運動シタル如キ、殆ド世人意思ノ外ニ出ツ、是固ヨリ日露再度ノ戦禍ヲ免レル遠謀深慮ニ出ツト云ヘバ理由ナシトセザルモ叙上ノ事業ハ日露ノ反対スルハ言ヲ待タザル所ナリ而シテ敢テ是ヲ提出ス、是レ支那人人心ヲ收攬スル一ノ手段タルニ過キザルナラシモ其支那ヲ主トシテ列国ヲ眼中ニ置カザル方針ニ於テハ錯ル所ナク、而シテ其提議ハ預期ノ如ク反対ヲ受ケタルモ其支那人人心收攬策ニ於テハ預期ノ如ク其効ヲ収メタリ

則チ米国ノ此遣方ハ其標榜セシ問題ノ主体ヨリ云ヘバ單ニ支那ヲ認メテ列国ヲ無視シタル為メニ失敗ニ終リ遂ニ「ストレート」ガ露英ニ遊説シ最初ノ問題ヲ變更シテ貨幣改革滿洲実業振興資金ノ借款問題ト転化スルニ至リタルモ、其目的ガ最初ヨリ支那人人心收攬ノ一途ニ在リタリトセバ大々の成効ト云ハザル可ラズ

米国ハ是ニ由リテ支那人ノ排米惡感ヲ転換シテ親米思想ト為シ滿蒙ニ於ケル日露ノ行動ニ対シ一層深刻ナル注意心ヲ支那人ニ抱カシメタリ、是ガ為メ最近米国ガ延長石油礦ヲ共同経営ノ名ノ下ニ封鎖シタルモ夫レニ氣付カズシテ喜

デ是ヲ迎ヘ他ヨリ警告ヲ与フル者アレバ却テ米支ノ親交ヲ中傷阻隔セントスル者ト為ス、其他導准事業福建馬尾船渠事業ノ如キ、同ジク外資ノ侵蝕ニシテ利権ノ外溢タルモ其相手ノ米國タルノ故ヲ以テ聊カモ排斥の論議ヲ試ムル者ナシ、彼ノ英米煙草会社ガ米國人ノ關係アルヲ以テ支那ノ煙草專賣事業迄モ挙ゲテ是ニ允サントスルノ形勢アリ

即チ現今ノ列國對支那外交狀況ヲ列挙比較シテ其何レノ國ガ最モ成功得意ニシテ何レノ國ガ失敗不得意ナルカハ言ハズシテ首肯シ得ベク而シテ其成功ト失敗トハ其外交上支那ヲ無視セザルト否トニ在ルヲ的確ニ証明シ居レリ、吾人ガ我が對支那外交ハ徒ニ英露ノ鼻息ヲ窺フテ行動スル在来ノ失迹ヲ鑑ミ少クトモ對支那外交ハ我國ガ東洋ニ有スル實力ト權利トヨリ發シテ当然執ルベキ所ニ抛リ其領土保全ヲ聲明シタル支那ヲ認メタル外交タラザル可カラザルヲ痛論スル所以ナリ

△ 大陸ニ對スル領土の勢力擴張ノ限度ヲ定ムル事
我國朝野憂國ノ士ガ我國ノ現状及ビ將來ヲ論ズルニ當リテハ其主旨大略左ノ二点ニ帰着ス

一 大陸發展策ヲ執ラザレバ国力増大ノ時期ナク優勝劣

ッ有利ナル点ヨリ打算セバ論者自ラ所見アルベキ筈ナリ

雖然今ノ大陸發展論者ノ多クノ云フ所ニ拠レバ殆ド滿蒙解決ト福建ニ繩ヲ繫ケ置クト云フ二説ニ外ナラズ、是果シテ国力ト民力トヲ較量シテ國防殖民地トヲ打算シタル問題ナルカ

試ニ滿洲ニ付テ言ハシ、我國ガ滿洲ノ或部分ヲ支那ヨリ割取シテ日本ノ領土ト為ス、是レガ我國ニ對シ幾干ノ利益ヲ与フルカ、又我國ガ仮リニ滿洲ノ或部分ヲ割讓セシメタリトシテ其結果我國ノ領土の施設費及ビ國防費ニ多大ノ影響ナキヲ得ルカ、更ニ一步ヲ進メテ滿蒙処分ノ曉我國民ハ如何ナル大陸發展の基礎ヲ建ツルカ

既ニ滿蒙ノ或部分ヲ割取シテ我日本ノ領土ト為サンカ、其ニ伴フ領土の施設ヲ為サザル可カラズ、現在奉天省ノ財政狀況ヲ見ルニ政府トシテ人民ニ何等利便ヲ与フル政事ヲ為サザルモ其地方收入ハ支出ト相償ハザル所アリテ毎年中央ヨリ補助セザル可カラズ、縱令ヒ日本ガ割讓セシメタル後諸般ノ整理ヲ為シ幾分其收入ヲ増加シ得ルトスルモ其支出ハ更ニ幾倍シテ益々本國政府ノ財政ヲ困難セシムルハ火ヲ見ルヨリ明ニシテ我國現財政ノ堪ヘテ負担シ得ル所ニ非

敗競争場裡ノ敗者ト成ル

一 大陸發展策ヲ執ラザレバ年々増殖セル人口移殖ノ地ナシ

素ヨリ此二大主旨ハ我國ノ執ラザル可カラザル大綱中ノ大綱ナリ、雖然大陸發展ニモ自ラ国力相應ノ範圍アリ殖民政策ニモ自ラ國民能力ノ程度アリ、国力不相應ノ發展ヲ希望スルハ縱令ヒ其希望ヲ逞フスルヲ得ルモ是ヲ維持スル能ハズ、國民不相應ノ殖民ヲ企圖スルハ縱令ヒ其形迹ヲ作ルモ是ガ実効ヲ収ムル能ハズ、必ズ我國力ヲ量リ我民度ニ徴シ其為シ得ベキ範圍ト程度ニ於テ企圖計畫セザル可カラズ
現今一般ニ唱道セラル、大陸發展策ナルモノハ果シテ国力ト民力トヨリ打算シ来リ我國領土ヲ如何ナル方面ニ迄擴張セント希望セルカ

無論無所屬ノ山河ガ自然ニ委棄セラレタルニ非ズ、他國ノ疲弊ニ乗ジ其領土ヲ割取セントスル者ナレバ希望通りノ土地ヲ獲得シ能ハザルモノナレバ時期ト機會ノ問題ニテ預シメ言明シ能ハザランモ求ム可カラザルノ方面ニ望ヲ属スルヲ要セズ不要ノ土地ニ意ヲ注グヲ要セズ、乃チ其或時機ニ於テ求メ得ラレザルニ非ズシテ而モ我國ニ取リテ必要且

ズ

更ニ是ヲ國防ノ方面ヨリ見ルニ仮リニ日露兩國ガ再ビ滿蒙ノ地ニ於テ衝突スルトセヨ、其ハ戰線ニ於ケル兵力ノ多寡ト輸送力ノ遲速ニ由リテ勝敗ヲ決スルハ言ヲ待タザル所ナルガ露國方面ニ在リテハ吉林黑龍江兩省產出物資ヲ恃ムニ非ザレハ極東ニ大兵ヲ集注スル事能ハズ、然則チ北滿ノ物資ハ露國極東活動唯一必需ノ糧餉ナリ隨テ是ヲ保護シテ一朝有事ノ時ニ於ケル差支ヘ無ラシメントスルニハ如何ナル資金ト勞力トヲ投ズルモ厭ハザル所ニシテ若シ此北滿物資ニ對シ露國ノ需要ヲ妨害スル恐アル者發現セバ露國ハ其對手ノ何國タルヲ問ハズ是ヲ排斥セザレバ措カズ

然ルニ今滿蒙ノ或部分ヲ支那ヨリ分離シテ日露直接其境界ヲ接スルニ至レバ露國ハ北滿物資保護ノ為メニハ充分ナル防備ヲ施スベシ、露國ガ巨額ノ資金ヲ投シテ國境防備ヲ施シタル曉我日本モ是ニ相應スル防備ヲ為サザル可カラズ

今是ヲ現状ノ儘ニテ經過センカ日露ノ間ニハ自ラ一ノ支那ナル緩衝物ノ挿マルアリ而シテ直接行政費ヲ要セズ又境界防禦費ヲ要セズ、其實際ノ利益ニ至リテハ殆ド希望ノ如

ク是ヲ享有ス、是レ支那人ノ惡感情ヲ計上セズシテ既ニ利害ノ數甚ダ明ナリ、更ニ滿蒙問題ノ解決ニ由リ支那人ガ大々の敵愾心ヲ抱キテ我ニ臨マバ其我國ノ享クル損失ヤ莫大ニシテ而モ日露ノ衝突ハ是ニ由ツテ益其機ヲ早カラシム

斯ク論ジ來レハ人或ハ滿洲放棄説ヲ持スル者ト疑ハン、雖然決シテ滿洲ヲ放棄セヨト云フニ非ズ只其徒ニ大陸發展論ノ為メニ時機モ利害モ顧ミズ領土ノ擴張ヲ狂喜スルノ愚ヲ警醒スルノミ、又人アリ云フ既ニ大陸發展ヲ是認シ乍ラ滿蒙問題解決ニ反對スルハ甚シキ矛盾ニ非ズヤト、是レ大ナル誤會ナリ滿洲ニ於ケル日露ノ關係ハ世間既ニ是ヲ公認ス、故ニ何レノ國ト雖此ニ手ヲ附ケント敢テスル者ナシ、既ニ此ニ手ヲ着ケントスル者無キ以上ハ其時機ニ非ザルヲモ顧ミズシテ是ヲ割取スルノ必要ナシト云フニ在リ
更ニ大陸發展ニ付テ問ハントスル所ハ、大陸發展ナル目的ガ果シテ如何ナル程度迄發展セント企圖セルカ、勿論發展論者ノ理想ハ滿蒙ヨリ支那本土ニ發展セント希圖セルナランモ支那ニ對スル日本ノ領土の發展ハ偶以テ日本立國ノ基礎ヲ危フスルノ恐アリ、是ニ對シテ如何ナル所見アルカ

ト開辟ノ事アランカ此占領地ハ必ズ日本ニ不利ナル計画ヲ運ラサン

然則チ日本ノ所謂大陸發展策ナルモノハ、大陸ニ商業的發展ヲ主トシテ領土の發展ヲ企圖ス可カラズ、止ムヲ得サル場合ニ遭遇セバ其ハ我國ノ國防上必要ナル所ヲ挙ゲテ可成小区劃ノ要求ヲ為シ、支那ヲシテ日本ガ慾望ノ為メニ非ズシテ實際國防上或ハ東洋ノ平和上此ニ至リタルヲ諒セシムルヲ要ス

則チ大陸發展ノ其領土ニ関スル者ハ預シメ確定セル限度ヲ置キ安リニ甲ニ叶ハザル野望ヲ抱キテ列國及ビ支那ノ疑念ヲ惹起スルヲ避ケザル可ラザルナリ

△ 露國南下ノ途ヲ成ルベク英國勢力範圍内ヲ通過セシムル事ニ注意スル事

露國ノ對支那政策ハ鐵道敷設權獲得ヲ以テ唯一捷徑ト為シ二十年來專ラ此方針ヲ以テ進行ス、光緒二十四年比耳義シンデケートノ盛宣懷ト契約調印シテ敷設權ヲ獲得シタル京漢鐵道ハ當時ノ軍機大臣等ノ盲昧ナル比耳義ノ背後ニ露國ナル大々の影法師アルヲ注意セザリシナリ

露國ハ當時露清銀行及ビ仏國ノ資本ヲ並用シテ以テ比耳

日本ノ東洋ニ於ケル實力ハ支那トノ關係如何ニ由リテ大ニ輕重アリ、乃チ日本ト支那トガ互ニ融和親交セバ列強中如何ニ欧米ニ強ヲ誇ルモ東洋ニ於ケル日本ノ勢力ヲ如何トモスル能ハズ、是ニ反シテ日本ト支那トガ互ニ相反目スルニ於テハ日本ノ東洋ニ於ケル勢力ハ甚シク減殺セラレテ歐米列強ノ輕侮ヲ受ク、然則チ日本ハ支那ノ保全ヲ主張スルニ由ツテ列強ヨリ重視セラル、若シ支那ノ分割ヲ主張スルニ至ラバ日本ハ同族無視ノ孤立者トシテ欧米人ノ眼中ヨリ甚シク輕視セラル

則チ支那ハ日本ノ實力ニ由リテ欧米ノ瓜分ヲ免レ居ルト云フモ日本モ亦支那ノ多數ナル同族ニ由リテ其勢力ヲ増シ居ルヲ考ヘザル可カラズ

然則チ日本ノ大陸發展ナル領土擴張政策ハ徒ニ其大ヲ希フテ支那ノ存立ヲ危フシ支那民族ト仇讐の深恨ヲ結ブヲ避ケザル可カラズ

今仮リニ露國ガ蒙古ヲ占領シ更ニ進ンデ甘肅陝西山西ヲ占領シタリトセンカ一朝日露朔北ノ野ニ雌雄ヲ爭フ時機ニ際セバ此占領地ハ露國ニ不利ナル行動ヲ取ルベシ、是ニ反シテ日本ガ滿蒙直隸山西ヲ占領シタリトセンカ、若シ露國

義シンデケートヲ援助シ其敷設權獲得ヲ完カラシメタリ、露國ハ比耳義ノ名ヲ以テ京漢鐵道敷設權ヲ得ルヤ更ニ山西省ノ石炭ニ注目シ露清銀行ヲシテ京漢線正定ヨリ山西省太原ニ至ル鐵道敷設權ヲ要求セシメ、遂ニ山西商務局ハ該銀行トノ間ニ二千五百万法郎ノ借款ヲ以テ敷設スル事ヲ許シタリ

是ヨリ先キ露國ハ光緒二十二年露清銀行ヲシテ清朝ト東清鐵道会社設立ニ関スル條約ヲ締結セシメ以テ赤塔ヨリ北滿ヲ橫斷シテ浦塩ニ達スル線路敷設ノ權ヲ得ル

更ニ光緒二十四年（一八九八年）「パプロフ」條約ニ由リテ旅順大連ニ至ル支線ヲ敷設スルヲ得タリ

露國ノ對支鐵道政策ハ斯ノ如クニシテ着々進行セルヲ以テ英國政府ハ露國ノ鐵道政策ガ進ンデ支那中土ニ侵入シ英國ノ勢力圏中ニ蚕蝕セントスル恐アルヲ以テ清國鐵道ニ関スル英露ノ協約ヲ為シ英國ハ長城以外ニ於ケル露國敷設ヲ妨ゲズ、露國ハ揚子江一帶ニ於ケル英國ノ鐵道政策ヲ妨ゲズト約シタル當時其條約ノ特別協約トシテ香港上海銀行ト支那政府トノ間ニ其敷設ニ関シ既ニ貸借契約ヲ締結セル山海關牛莊間ノ鐵道ハ長城以外ニ在ルモ英人既得ノ權利ヲ尊

重シテ例外ニ置クヲ規定セリ

更ニ光緒二十六年（一九〇〇年）義和團事件發生スルヤ北京山海関鉄道（京榆）モ共ニ占領シテ是ヲ英國ノ保護管理ニ托シタリ

此関外線ニ関スル協約ト関内線ノ英國管理トハ痛ク露國ノ對支那鐵道政策進行ニ阻害ヲ加ヘタル所ナルニ更ニ北京山海関鐵道ヲ支那政府ニ還附スル時左ノ條件ヲ付ス

將來清國ニ於テ北京北方長城ニ至ル鐵道ヲ敷設スル場合ハ必ズ清國自身ノ資本ニ依リテ是ヲ敷設スルヲ要シ、又該鐵道ハ決シテ他國ニ担保ト為サル事

茲ニ於テ露國ガ滿洲ヨリ北京ニ出デ以テ京漢線ト連絡セシメントノ希望ハ著シク阻害セラレタルニ更ニ又日露戦争ニ由リテ南滿鐵道ヲ失ヒ、此方面ヨリスル鐵道政策ハ絶望ニ帰シタリ

爾來支那民間ニハ利権回收熱盛ニ唱道セラレ比耳義シンヂケートガ敷設セシ京漢鐵道モ滙豐滙理兩銀行ヨリ借款シテ支那政府ニ回收シタリ、是ヲ以テ露國ガ当初執リタル鐵道政策ノ遺物ハ僅カニ正大鐵道ガ其當時ノ關係ヲ存スルノミニテ其他ハ一切露國ノ手ヲ離レタリ

辞スル所ニ非ズト云フ情態ナルヲ以テ待テ巴甘露ノ雨ノ降り來ルベシト預期セシニ、果シテ預想ニ違ハズ支那政府ハ江蘇海州ヨリ甘肅蘭州ニ至ル中土横斷鐵道ノ敷設權ヲ挙ゲテ比耳義シンヂケートニ許与シ二億五千万フランノ借款契約ヲ締結シタリ

江蘇海州ヨリ汴洛鐵道ニ聯絡シ汴洛鐵道ヲ利用シテ更ニ西甘肅ノ蘭州ニ延長ス、則チ支那中土ヲ横斷シタル者ナルニ、支那政府ハ更ニ潼關ヨリ山西省ヲ縦斷シ太原大同ヲ經テ長城外ノ歸化城ニ達スル線路敷設權ヲ又々同一比耳義シンヂケートニ許与シ海蘭線ト同ジク二億五千万法郎ノ借款ヲ締結シ一九一三年八月十四日はガ調印ヲ為シタリ

歸化城ハ外蒙古庫倫ト相對ス其間僅ニ六七百哩ヲ隔ツルノミ而シテ海蘭鐵道借款モ歸潼線借款モ其裏面ハ對支政策ノ大成ヲ期スル露國ノ操縦シ居ル事ハ言ヲ俟タズ

然則チ此兩鐵道敷設借款ノ調印ハ露國ガ多年支那ニ對シテ抱持セル鐵道政策ガ其中斷時期ヨリ俄ニ振興シテ預想外快速ニ大成効ヲ為シタル者ト云フベシ

袁世凱ハ財政窮迫ノ余リスノ如キ危險ナル鐵道敷設ノ借款契約ヲ為ス、尤モ条約中ニ回收シ得ベキ條項ノ規定シア

露國ノ對支鐵道政策モ京奉鐵道ニ由リテ英國ノ阻害ヲ受ケ南滿鐵道ニ由リテ日本ノ中斷ヲ蒙リ、此方面ヨリ京漢鐵道ニ聯接スル望ミ絶エタルヲ以テ支那政府ガ京漢鐵道回收ヲ試ミタル際ニモ露國ハ何等異議ヲ挿ム所無ク其回收ニ任セタリ、則チ此時ハ對支鐵道政策ヲ一時中止シテ時機ヲ待ツノ方針ヲ執リシナリ

一定不變ノ方針ヲ立テ多少ノ變遷ニ其政策ヲ易ユルガ如キ不定ノ行動ヲ為サル露國ハ淵ニ臨ミテ魚ヲ羨ムノ愚ヲ為サズ時機來ラザレバ退イテ網ヲ結ブノ策ヲ取り窃ニ蒙古ノ馴致ニ全力ヲ傾注シ漸進主義ニ由リテ南下ノ目的ヲ達セントス

然ルニ時機ハ預想ヨリモ早ク到來シ武漢一挙清朝統一ノ力ヲ施ス能ハズ各省獨立ヲ宣言スルヤ外蒙亦其例ニ倣ヒ獨立ヲ宣言ス、是露國ガ退イテ結ビツ、アリシ網ノ完結シタル者ニテ、先ツ民國ヲシテ蒙古ノ自治ヲ承認セザルヲ得ザルニ至ラシメ、露蒙協約ヲ締結シテ蒙古二百萬方里ノ地ヲ挙ゲテ露國ノ庇下ニ置クヲ得タルノミナラズ、支那政府財政ノ窮迫ガ所有ル利権ヲ挙ゲテ外資借款ノ典當ニ提供シテ顯惜スル所ナク殆ド資金ノ前ニハ如何ナル犠牲ヲ呈スルモ

ルヲ以テ京漢鐵道ト同ジク或ル時期ニ於テ回收シ得ベシト云フモ京漢鐵道回收ニ當リ容易ニ是ヲ承認シタルハ全ク當時京漢線ト西伯利亞線ト聯絡ノ望ミ絶エタルヲ以テ露國ハ比耳義ノ意思ニ放任シタリシナリ、今回ノ海蘭鐵道ト歸成鐵道トハ露國多年ノ希望ヲ偶然貫徹シ得タル者ナレバ秦王ノ前ニ投ゼシ和氏ノ璧ナリ否秦王ヨリ幾百倍強大ナル露皇ノ前ニ供セシナリ期日ニ至リ是ヲ回收セント欲ス、百ノ蘭相如出デテ其頭ヲ碎クト雖焉ンゾ是ヲ回收スル事ヲ得ン

露國ガ既ニ二十年來ノ對支鐵道政策ヲ貫徹シ得タル以上ハ今後ノ對支行動ハ此獲得鐵道ヲ基礎トシタル上ニ現出シ來リ列國ニ忌憚スル所ナク支那ニ容赦スル所ナキ所謂露國式ノ對東洋外交政策ハ機ニ触レ時ニ応ジ一層猛烈ニ而モ露骨ニ振廻ハサル、ハ設想ニ難カラズ

露國ガ宣統二年ニ於テ露清陸地通商條約ノ改定期ニ達セルニモ拘ラズ改定ノ己レニ不利ナルヲ以テ、其ノ己レニ有利ナル部分ノ繼續ヲ宣言シ且ツ蒙古各地ニ六個所ノ領事館新設ヲ強要セシ如キ、革命後蒙古ヲ煽動シテ獨立ヲ宣言セシメ是ガ為メニ蒙古ニ代リテ支那ニ強要シ袁世凱ヲシテ蒙古ノ自治ヲ承認セシメタルガ如キ、殆ト露國ニ非ザレバ為

シ能ハザル辛辣極ル仕方ナリ、雖然是等ノ如キハ露国ガ支那ニ対シ未ダ充分ナル鋼衡ヲ箴メ得ザル時代ニシテ尚多少手柔ラカキ遣方タリシモ既に蒙古ヲ奪フテ支那ノ特ミトスル北疆藩屏ヲ一掃シ支那中土ニ縦斷横絶ノ鉄道敷設權ヲ獲得セシ今後ノ遣方ハ決シテ是迄ノ如キ手柔ラカキ手段ニ非ズ、一挙一動迅雷ノ如ク疾風ノ如ク雷ニ支那人ヲシテ震懾セシムルノミナラズ実ニ列國ヲシテ驚動セシムル者アラン

我日本ハ支那ノ存亡ヲ以テ直ニ自國ノ存亡問題ト為サマル可カラザルニ如何セン、我國獨力ニテ支那ヲ扶持シ虎視眈々タル列強ニ對抗スル能ハズ、止ムヲ得ズ列強中ノ共ニ提携シテ比較の我國ニ利益アル者ニ向ツテ行動ヲ協議スルヨリ外ナシ

而シテ目下支那領土保全主義ヲ以テ立ツ英國ノ對支行動ト支那領土侵蝕主義ヲ以テ進ム露國ノ對支活動トヲ比較對照セバ受太刀タル英國ノ甚ダ振ハズシテ擊太刀タル露國ノ銳鋒ハ猛烈ニ英國ノ地盤ニ切込ミツ、アリ

今日ノ情況ヲ以テ進マバ數年ヲ出デサル内ニ英國ノ支那西部ヨリ東部ニ横斷セントスル勢力ハ露國ノ支那北部ヨリ南部ニ縦斷セントスル勢力ニヨリテ中斷セラレテ露勝英敗

同時ニ露英ニ對シテハ成ルベク其兩國對支經營ノ相衝突セシムルヲ謀ラザル可カラズ

支那民族ヲシテ同文同種ノ情性上日支兩國相親交扶持シテ東洋ノ平和ヲ謀リ歐勢ノ侵入ヲ防グハ說既ニ陳腐ニ屬スルモ真理ハ何処迄モ違ハズ、然シ此說ノ實行ハ中々容易ノ問題ニ非ズ、随テ甄甄ノ勢ヲ以テ侵入シ來ル露國ノ現勢力ヲ抗拒スルニハ如何ニモ迂遠ノ嫌アリ、且ツ我國國民ガ能ク支那人心ヲ收攬シ得テ露國ノ未ダ支那ニ於テ充分ナル活動ヲ為サル以前ニ既ニ日支提携ノ鞏固ニシテ妄ニ冒進ス可カラズト顧慮セシムル程ノ效果ヲ挙げ得ルヤ否ヤハ疑問ナルヲ以テ、一面ハ支那ノ人心ヲ收攬スルニカムルト同時ニ一面ニハ露國ノ對支南下ノ道ヲシテ可成の西部支那ニ執ラシムルニカムベシ

露國ノ南下ヲ既ニ防グ能ハズ、然則チ其支那ニ對シ侵入スル道ノ何レニ在ルカハ最早大勢上ノ問題ニ非ズ、露國ガ日本ト雌雄ヲ決シ東洋ノ霸權ヲ爭ハントスルハ必ず支那ヲ席捲シタル後タルベシ、既ニ支那ヲ席捲シタル後ニ於テ我國ニ臨マントスルニ當リテハ其道ノ伊犁新疆甘肅ヲ經テ來ルト西伯利亞蒙古ヲ經テ來ルト何等差別スル無キガ如キ

ノ決ヲ見ル蓋シ錯ラザル所ナラン

我日本ハ日英同盟ヲ固守シテ露ヲ防ガンカ、今日ニ於テ既ニ防ギ能ハザルニ非ズヤ、日露同盟ヲ新訂シテ英ヲ捨テシカ我國存亡問題タル支那ノ瓜分ハ益々其期ヲ早クス、日英同盟既ニ支那領土保全ニ對シテ効力ノ言フベキナシ、日露同盟偶以テ露國ノ東漸勢力ヲ援クルノミ、而シテ大勢ヨリ觀察セバ支那ノ奮起セザル限り支那領土内ニ於ケル最後ノ最有力者ハ露國タル事ハ明ナリ

支那領土ノ將來ガ露國ノ勢力ニ蹂躪セラル、者トセバ支那領土保全ヲ標榜セル日英同盟ノ運命モ既ニ限リアリ、日露同盟ヲ新訂スルモ其ハ瓜分ヲ了スル間ノミノ効力ナリ、既ニ瓜分ヲ了シテ後深仇ヲ抱ク日露境ヲ接シテ相望ム、將來我國民ハ方ニ一日モ枕ヲ高フスルノ時ナカラン

斯ク看シ來レバ英ト結ブモ安全ヲ期スルニ足ラズ露ト共ニスルモ枕ヲ高フスル能ハズ、去リトテ前途ヲ悲觀シテ自暴自棄スルヲ得ル問題ニ非ズ、此ニ於テ我國民ノ覺悟シテ奮進セザル可カラザル問題ハ所謂ル支那四億ノ人心ヲ收攬シ此四億ノ民族ヲ党与トシテ以テ露國ニ當ラザル可カラズト云フヲ大方針トシテ終始一貫其方向ヲ誤ル可カラザルト

モ、實際ニ於テハ露國ガ遠キ將來ニ於テ東亞ニ優勢ヲ占ムベキモ列強ノ利害關係ヨリ生ズル抗争ハ露國ヲシテ容易ニ独舞台の行動ヲ試ムルヲ許サズ

露國ガ支那ヲ蹂躪シ長城以南ニ有力ナル地盤ヲ占ムルニ至ルハ免レザル問題ニシテ只其列國ノ抗争如何ハ露國ヲシテ目的ヲ達セシムル時期ニ早晚ノ差アルノミニテ大勢ハ到底動カス可カラズト断定セバ最早我日本ハ執ルベキ策ナク自然ニ圧迫ヲ受ケテ斃ル、ヲ待ツノ止ムナキガ如キモ、露國トテ何時迄モ國運ノ隆盛ヲ独占シ得ベキニ非ズ、支那國民トテ何時迄モ絶對奮起ノ見込ミ無シト限ル可カラズ、加フルニ歐洲列國中露國ト利害ヲ同フセザル者ト我日本ガ相提携シテ牽制ヲ加フル間ニ露國其者ノ國內ニ或問題ノ湧起スルカ歐洲或ハ中東ニ於テ意外ノ問題發生スル事アランカ局面ハ又是ガ為メニ転廻スベシ、然則チ我國ノ今日執ルベキ策ハ露國ノ對支那南下ノ道ヲ支那ノ成ルベク西部ニ押寄セ英國ト相衝突紛爭セシメバ我國ハ露國ト直接相對スル危険ノ時期ヲ幾分遷延セシムルヲ得ルカ或ハ意外ノ問題發生等ノ事情ニ由リ局面転廻ノ僥倖ヲ得ル事アラン

此露國ノ南下線ヲシテ可成ク西部ニ押寄スル策トシテ是

ヲ施シ得べくハ我日本ノ利益ハ莫大ナル者アルモ露国ノ傀儡タル比耳義「シンヂケート」ガ帰成鉄道、海蘭鉄道敷設権ヲ獲得シタル今日又是ヲ奈何トモスカラズト説ク者アレドモ、静カニ是ヲ研究セバ全ク策ナキニ非ズ、吾人ハ是ニ就テ左ノ二策ヲ案シ是ニ対シ多少ノ犠牲ヲ供スルモ顧惜スル所ナク即チ当局ノ手腕ト犠牲トヲ以テ邁往敢行セン事ヲ望ム

一 此次優先権ヲ得タル洮南ヨリ熱河ニ至ル鉄道ヲ更ニ支那政府ニ要求シテ西張家口ニ延長シ東錦州若シクハ灤河口ニ出デ、渤海ニ通ズ

一 山西票莊ガ資金欠乏ニ窮シ借款ニ熱中セルヲ利用シ是ニ資金融通ノ策ヲ与ヘ山西鉄道自営ヲ主張シテ比耳義ノ獲得セシ帰還線ヲ極力反対セシム

洮熱線ヲ張家口迄延長スル事ハ日露協約上為シ能ハザル所ナリト云ヘバ吾人ハ日露協約内ニ如何ナル条項ノ秘密ニ規定セラレタルカヲ明知セザルヲ以テ何等ノ議論ヲ試ムル能ハザルモ、單ニ支那政府ノ方面ヨリノミ云ヘバ我國ハ進ンデ要求シ得べき二個ノ理由ヲ有ス

甲 初メ支那政府ガ露国ノ要求ヲ容レテ蒙古ノ自治ヲ許

買収スルカ、買収ニ応ゼズンバ新ニ灤河線ヲ求ムベシ

熱河鉄道ガ西張家口ニ延長シ東渤海ニ通ジタランニハ露国ガ西伯利亜線ヨリ庫倫ヲ經テ帰成線ニ聯結セントスル目的ハ多少危険ノ度ヲ増シ来ルヲ以テ少シク西ニ避ケテ庫倫ヨリ一直南下シ甘肅蘭州ニ出ル線ヲ取ルニ至ルモ知ル可カラズ

更ニ先ニ福公司（英國人ノ採礦事業）ニ反対シテ設立シタル山西人ノ保管公司ト山西票莊トヲ煽動シ、或ル手段ニ由リテ極力反対セシメバ其契約者ガ梁士詒一派ノ為シタル者ナレバ案外容易ニ取消サル、モ知ル可カラズ

尚又帰成鉄道ヲ比耳義「シンヂケート」ニ敷設ヲ允許セシニ付キ或支那人ニ対シ此資本ノ性質ト此鉄道ガ支那將來ニ及ボス影響ヲ論ジテ列強中支那領土保全策ヲ執リ居ル者アルニ拘ラス支那自ラ危険ヲ導火ヲ最モ恐ルベキ敵国ニ与ヘテ瓜分ノ災ヲ招クニ非ズヤト談ゼシニ、直ニ是ニ答ヘテ曰ク袁世凱初メ要路ニ当ル支那人中縱令ヒ世界列国ノ形勢ト自国現今ノ地位トヲ充分達観了解シ能ハズトスルモ支那縦横ヲ貫通スル鉄道敷設権ヲ一外国資本ノ下ニ置クノ危険ト比耳義資本ノ背面ニ露国ノ操縦シ居ルヲ知ラザル程盲目

ス時ニ日本ハ必ス南滿ニ於テ何等カノ均霑的要求ヲ為スベシ其要求ノ条項中關東州及ヒ南滿鉄道ノ期限延長及ビ南滿支線ヲ張家口迄延長スル事ハ免レザル問題ナリト思為シタル事

乙 支那政府ハ蒙古ヲ露国ニ允讓スルニ付キ支那ノ北疆防禦政策上日本ト露国ノ勢力範圍ヲ特ニ交叉セシムルヲ利益ナリト希望シ居タル事

此二個ノ内情ヲ我当局ガ看透シ居タランニハ孫宝琦李盛鐸ガ特ニ渡来ノ時其交渉態度ニ由リテ張家口迄若シクハ渤海ニ通ズル線ヲ一併獲得シ得タルナラン、惜ム其好機ヲ逸セシヲ、然シ支那政府ガ甲ノ問題ニ付テハ其ノ免レタルヲ喜ビ居ルナランモ乙ノ問題ニ付テハ當時ヨリ尚一層露国ノ態度ニ危険ノ念ヲ抱キツ、アリ、則チ前者ノ覚悟ト後者ノ希望トハ我國ガ絶対ニ要求シ得ラレザルニ非ズ、否我外交当局能ク袁世凱ヲシテ日露兩國此方面ニ於ケル勢力圈ノ交叉ハ支那ノ利益タル念ヲ抱キシ當時ノ思想ヲ惹起セシメバ胸中喜デ允諾スルヤモ知ル可ラズ

錦州ニ延長セントスル問題ニ至リテハ既ニ大正二年二月英國ノ照會ニ対シ異議ナク承認ヲ与ヘタレバ犠牲ヲ投ジテ

ニ非ズ、雖然其危険ヲ知ツテ敢テ尚是ヲ比耳義ニ允シタルハ他ニ見ル所アルナリ、大体此鉄道敷設権ヲ許シタル契約ノ調印ハ民國二年八月十四日ニシテ江西爆発南北分裂ノ時ニシテ袁政府ノ最モ危険ヲ感ジタル際ナリ、故ニ單ニ此江西問題ノ上ヨリ云フモ砲火相接セル時ニ於ケル軍資ノ有無ハ將來ニ於ケル弊害ト比較シ得ル問題ニ非ズ、且又統一ヲ全フシタル以後ニ於テハ已ニ調印シタル契約モ場合ニ由リテ變更若シクハ取消シ得ベカラザルニ非ズ、實際立国上許与ス可カラザル鉄道ナリトセバ窃ニ命ヲ該地方官ニ下シテ地方人民ニ極力反対セシメ、其反対ノ声ヲ藉リテ解約若シクハ他ニ交換スルノ策ヲ執リ手付金取戻シト損害賠償ノ多少ヲ覚悟セバ必ズシモ契約ノ鉄道ヲ与フルニ及バズ、是前清時代ヨリ既ニ試ミタル粵漢川漢鉄道外資反対ノ時ニ於ケルガ如キ先例アリ、則チ袁世凱ノ胸中ニ於テハ當時何レニ向ツテモ借款シ得ザルヲ以テ窮策此ニ出デ以テ一時焦眉ノ融通ヲ為シタル者ニテ他日前渡金取戻シト多少ノ損害賠償ニ応ズル余裕ノ到来シタル時ハ必ズ何カノ策ニ由リテ破談ノ道ニ出ヅベシ、然則チ此鉄道敷設権ヲ許シシテ幾分ノ前渡シヲ取りタルハ普通手段ニテ借款シ得ラレザル時ニ於

ケル一種秘計ノ借款策ナリト

此説遂ニ信ヲ置クニ足ラズト雖、列強ノ勢力ヲ交叉セシメテ其間ニ安ヲ謀ラントスル策ヲ常ニ唯一上計トセル袁世凱ノ從來ノ遣方ヨリ見レバ、特ニ海蘭鐵道ト帰成鐵道トヲ一ノ比耳義ニ許シタルハ何等カ其反面ニ一政策ヲ秘シ居ルヲ推測セシム

叙上ノ事情ヲ了得シテ更ニ外交ノ手腕ニ於テ袁世凱ガ是ヲ破壊スルニ便ナル応援ヲ与ヘバ既ニ調印セル帰成鐵道或ハ廢毀セシメ得ザルニ非ザルベシ

縱令ヒ斯ノ如キ小策効ヲ奏シ能ハズトスルモ其鐵道ノ着手若シクハ完成ノ期ヲ遷延セシムルノ目的ハ其幾分ヲ達シ得ベキナリ

△ 米國ノ海軍根拠地ヲ台灣以內ノ對岸ニ得セシメザル事

米國ノ對支那政策ハ「ルーズベルト」大統領以來始メテ確定セシ者ニテ「ル」氏以前ニ於テハ殆ド支那ニ對シテハ何等ノ希望モ有セザリシ、故ニ粵漢鐵道敷設權ノ如キ比耳義ガ京漢線ヲ獲得シタルト同時ニ是ヲ得タルモ遂ニ是ヲ放棄シタリ、「ル」氏ガ米國モ支那ニ於テ一部ノ利權ヲ獲得

ベキ問題ハ巧ミニ是ヲ利用ス

米國人ガ斯ク支那人ヲ操縱シテ其歛心ヲ買ハントスル深意ハ単ニ商業上ニ於ケル支那ノ富源ニ一部ノ利權ヲ享有セントスルガ如キ些少ノ目的ノ為メニ非ズシテ、「モンロー」主義ヨリ「ルーズベルト」主義ニ一転スルヤ其結果領土ハ擴張セラレ領土擴張ノ結果ハ海軍ノ増築トナリ、海軍増築ノ結果ハ巴拿馬運河開鑿ノ必要ヲ生ジ、巴拿馬運河開鑿ノ結果ハ太平洋ノ覇權ヲ掌中ニ把握セントノ野心ヲ發生シ、太平洋上ニ海上覇權ヲ掌握セント欲セバ日本ヲ威圧セザル可カラズ、日本ヲ威圧セント欲セバ日本海軍ニ幾倍セル優勢艦隊ヲ備ヘザル可カラザルハ勿論ナルモ其優勢海軍ガ三千哩ヲ隔テタル米國西岸ヤ一千余哩ヲ離レタル比律賓海面ニ游弋スルニ於テハ何等日本ヲ威圧スルニ足ラズ、茲ニ於テ米國ハ其對東洋政策上是非共支那ニ在リテ一ノ海軍根拠地ヲ求メザル可カラズ、此問題ハ米國ガ退守主義ヨリ進取主義ニ一転セシ時既ニ確定セラル

米國ガ支那ニ對シ此政策ヲ抱藏セルヲ以テ支那ニ米貨排斥問題起ルヤ僅少ナル米支間ノ貿易而モ支那ニ不利ニシテ米國ニ何等甚シキ痛痒ヲ感ゼザルニモ抱ラズ風声ニ驚キテ

セザル可カラズトスルヤ先ノ粵漢鐵道敷設權放棄ヲ追悔シ、何ガナ機會ノ乘ズベキヲ待チタリシニ恰モ支那ハ英仏独三国ノ借款ニ由リテ粵漢川漢鐵道ヲ敷設セントスル際ナリシヲ以テ直ニ先ノ緣故ニ基キ其投資団中ニ割込ミタリ

爾後米國ガ支那労働者ノ米國上陸ヲ拒絕スル法律ヲ規定スルヤ支那人ハ猛烈ニ米貨排斥ヲ倡道シテ米國ノ反省ヲ催ス

米國ハ此米貨排斥運動ニ甚シク對支外交政策ノ阻害セラ、ヲ恐レ直ニ排米熱ノ下毒劑トシテ団匪事件賠償金ノ減額ヲ行ヒ以テ米貨排斥ノ氣勢ヲ柔ラゲ得タルガ、更ニ進ンデ人心收攬策トシテ滿洲鐵道中立、錦愛鐵道敷設、連山灣築港、滿洲實業振興等ノ問題ヲ担ギ出シ巧ミニ人氣取りノ花々敷活劇ヲ演ズ、目前ノ利ニ迷ヒ易ク遠大ノ慮リニ意ヲ費サバル支那人ハ上下ヲ問ハズ官商ヲ論ゼズ曩日ノ排米熱ハ頃刻ノ間ニ雲散霧消シ却テ米國崇拜熱ヲ生ズルニ至リ、米國ハ一時ノ米貨排斥ノ刺撃ニ由リ其迅速挽回策ヲ講ジタルヲ以テ意外ノ大成効ヲ收ム

爾來米國ハ支那一般人心ノ米國ニ渴仰セルヲ機會トシ支那人ノ感情ヲ害スル事件ハ力メテ是ヲ避ケ、其歛心ヲ計ル

支那人ガ其實行シ得ルヤ否ヤモ慥カムルニ違アラス周章狼狽遂ニ団匪賠償ヲ擲ツニ至ル、則チ其米貨排斥ノ声ニ甚シキ恐慌ヲ來タセシハ單ニ貿易上ノ損害ノミヲ顧慮シタルニ非ズシテ其對東洋政策ノ根底ニ於テ打撃破壊ヲ加ヘラル、ヲ深ク憂慮シタルヤ明ナリ

米國ガ団匪事件損害賠償費減額ヲ餌ニシテ投シタル結果ガ首尾宜ク支那人ヲ釣ツテ自己ノ籠中ニ収メタルヲ以テ、一面益々米國ニ信頼セシムル政策ヲ施スト同時ニ一面着々預定ノ方針ニ進行ス

則チ米國ガ往年滿洲鐵道中立、錦愛鐵道敷設、連山灣築港等ヲ提議シタルハ一面支那人心收攬ト一面自國企圖ノ方針ニ着手スル前提タリシナリ

米國ガ滿洲鐵道ノ中立ヲ提唱セシハ日露ノ反對ヲ預知セザリシニ非ズ、錦愛鐵道ノ敷設ハ必ズ成功スベシト預期セシニ非ズ、連山灣ノ築港ハ必ズシモ該港ノ將來ニ着目セシニ非ズ

只米國ノ斯ル活動ノ反面ニ抱持セル希望ハ南支海岸ニ一ノ海軍根拠地ヲ獲得セントスルニ在リ

南ニ得ント欲セバ四面ノ衆目ヲ北ニ転ゼシメザル可カラ

ズ海ニ得ント欲セバ列国ノ注視ヲ陸ニ集メシメザル可カラズ、即チ米国ハ南支ニ得ント欲スルガ為メニ特ニ滿蒙ニ鑼鼓ヲ鳴ラシテ列国ノ視線ヲ北向セシム、海港ニ得ント欲スルガ為メニ特ニ鐵道ニ開墾ニ黒煙ヲ挙ゲテ衆目ヲ煙ニ捲ク、音止ミテ人狂鎮リ風至リテ煙散ゼバ星紋ノ幕中ニ在リテ南支ニ海軍根拠地ヲ得ント祈禱セル一米国ガ種々ノ妖術ヲ施シタル跡ヲ見ルノミ

米国ガ南支ニ得ント欲スルガ為メニ殊更ニ北ヲ騒ガシ一般ノ視線ハ總テ滿蒙ノ方面ニ集注セシモ未ダ遽ニ其野望ヲ提起スルニハ日英ニ聊カ憚ル所アリ、故ニ英国ニ対シテハ特ニ米本国ニ於テ揚子江口舟山列嶋ヲ要求スベシトノ議論ヲ倡道シテ英国ノ意向ヲ探リ、日本ニ対シテハ非律賓売却論ヲ散布シテ特ニ米国ノ東洋ニ大野望無キ者ノ如ク粧ヒタリ、英国人民ハ対支方針ノ確立ト揚子江一帶扶植ノ勢力ニ確固タル所アルヲ以テ是等ノ探測的謠言ニ挑発セラレザリシモ日本ハ慥ニ此為メニスル所アル浮言ニ迷ハサレテ實際ノ米国ノ抱持セル対支政策ヲ觀透スル事能ハザリキ

米国ハ日本ノ既ニ支那政府ニ対シ不割讓迄約サシメタル福建ニ於テ三都澳ヲ得ントスル問題ナレハ如何ニ日本ガ米

ヲ以テ急遽馬尾築港問題ヲ提出シテ支那政府ヲシテ直ニ日本ニ該鐵道敷設權ヲ許スル勿ラシムル障害ト為セリ

米國ノ此築港問題ハ其實際目的ハ三都澳ニ在リテ馬尾ニ非ズ、未來ノ海軍根拠地ニシテ現在ノ造船ニ非ズ、支那人ノ目ヨリ獅子身中ノ虫ト嫉視セル日本ト唯一救命船ト信頼セル米國ト同一地方ニ於テ利權ノ獲得ヲ争フ、其何レガ成効シ執レガ失敗スルカハ言ハズシテ明ナリ、支那人ガ米國ニ酬ユル情誼トシテハ其目的ノ三都澳タルト海軍根拠地タルトハ問フ所ニ非ズ、然ルニ米國ハ更ニ慎重ニ慎重ヲ加ヘ其目的ヲ達スル声援トシテ頻リニ米支同盟說ヲ匂ホハス

斯ク湊合シ来レハ我日本ガ縱令ヒ英國ノ同意ヲ得テ福九鐵道ノ敷設ヲ要求スルモ到底其目的ヲ達スルノ見込ミナシ、然ラバ是ニ対スル方法如何シテ可ナルカ

實際三都澳ガ日本ノ国防上必要ナリトセバ如何ナル犠牲ヲ抛ツテモ租借スベシ我日本ノ国防ニ必要ナキモ他國ノ是ヲ占領スルヲ不利トセバ開放セシムベシ、唇齒輔車ヲ相互ニ繰返ス我日支兩國ノ關係ヨリセハ是式ノ問題ハ要求シ能ハザル所ニ非ザルベシ

吾人軍事上ノ門外漢ニシテ国防問題ノ如キ知ル所ニ非ザ

國ノ野望ニ氣付キ居ラザルニモセヨ真直ニ三都澳ニ手ヲ觸ルレバ直ニ故障ヲ持出シ来ルハ必然ナルヲ以テ、其目的ヲ達スルニハ婉曲ナル支那政府ノ自動ニ出デ日本ヲシテ何等藉口ノ道ナカラシムルノ必要上更ニ其野望ヲ抑ヘテ人心収攬ニ力メタリ

恰モ宜シ六國団ト支那政府トノ借款交渉ハ袁政府ヲシテ其条件ノ苛酷ヲ嘆ゼシメツ、有リシヲ以テ突然六國団ヲ脱退シテ其怨恨ノ連帶ヲ避ケ、民國国会ノ成立スルヤ率先民國ヲ承認シテ支那一般國民ヲシテ唯一ノ共和友誼國ナリト感泣セシメ、石油採掘事業ヲ米支共同弁理ノ名ノ下ニ支那ノ提出スベキ資本ヲ贈与シテ惜ム所ナシ、導淮借款ニ支那ノ水利増田ノ為メナリト特ニ条件ヲ輕クシテ恩ヲ市リ、機ニ触レ時ニ応ジ支那人ヲシテ世界各國中米國ヲ除クノ外又依ルベキ者ナシト思為セシメタリ

米國ハ既ニ支那ニ於テ斯ノ如ク人心ヲ收攬シタルヲ以テ最早福建ニ於テ希望ノ端緒ヲ啓キ始ムルモ差支ヘナカルベシト思為シ居タルニ、忽然日本ハ福州ヨリ江西九江ニ達スル鐵道敷設ヲ要求セリトノ說新聞ニ顯ル、米國ハ日本ニ於テ此先鞭ヲ制スルニ於テハ米國多年ノ宿望ヲ破壞セラル、

ルモ聴ク所ニ抛レハ三都澳ヲシテ若シ他國ノ占有スル所ト為リ海軍根拠地の施設ヲ為サル、ニ於テハ我國海軍ノ大問題ナリト果シテ然ラハ我國ハ此問題ニ全力ヲ集注シ何レノ國ニテモ是ヲ利用シ能ハザルダケノ方法ヲ講セザル可ラス、否是ヲ講ズルヲ以テ対支外交中ノ重要事件ト為ス

△ 結論

叙上五項ノ大要ハ是ヲ湊合詮議セバ日支ノ親交ヲ第一ノ急務トシ相互ノ猜疑ヲ一掃シ共ニ胸襟ヲ披瀝シ以テ東洋ノ安固ヲ謀ルト云フニ帰着スルモ、此問題ハ既ニ旧クヨリ日支兩國官民ノ間ニ唱道セラレテ曾テ其實行ヲ見タル事ナシ、実行セザル空言何時迄是ヲ繰返スモ何等兩國ニ裨益スル所ナクシテ然モ局面ハ益々錯雜ニ陥ル、然ラバ是ヲ實際ノ上ニ履行セントスルニ從來ノ睨合態度ヲ改メテ何レカ一方ヨリ動機ヲ与ヘ以テ相互局面ヲ転回シ一新生面ヲ造出シテ最モ開闊ナル國交ヲ開始セザル可カラズ

從來我國ノ対支那外交ハ或時ハ懷柔策ヲ執リ或時ハ威圧策ヲ執ル、雖然柔ニシテ柔ナラズ剛ニシテ剛ナラズ、甚シキハ柔剛並用シテ出先ノ外交官吏適從スル所ヲ知ラズ以テ徒ニ對手ノ侮リヲ招ク、彼ノ昌黎事件ノ如キ如何ニ山座公

使ヲ苦マシメタルカ

然モ此剛柔ノ使分ハ其或問題ニ遭遇シテ柔策効ヲ奏セザル時改メテ剛トナリ剛策利ナキヲ見ルヤ柔トナリ、所謂局面ノ轉換策タリシナリ、雖然今日迄幾度モ応用シタル極メテ効力ナキ轉換策ヲ今又演出シタリト到底何等ノ効ヲ収メ果テ挙グル能ハザルハ言ヲ待タズ然則其轉換策ナルモノハ少クトモ支那人ノ心理ニ慥ニ切実ナル印象ヲ与フルノ策ナラザル可カラズ

吾人ガ茲ニ最モ有効ナル局面転回策ト信ズル者ハ左ノ方案トス

一 日本ハ団匪事件賠償費ヲ免除シ是ヲ以テ支那軍隊改良費ニ充ツ

一 支那ハ日本ノ軍人ヲ教官ニ僱聘ス

一 軍隊ノ教練ヲ日支同一ニス

此問題ハ日本ハ毎年三百万円ノ損失ヲ招クモ支那ハ一モ金錢上ニ損スル所ナシ、僱聘教官ノ如キ極メテ廉価ノ俸給ヲ以テ其需メニ応ズ而シテ支那軍隊ハ世界最強國タル露國ヲ打破セシ日本軍隊ト同一ニ成リ、仮リニ一朝日本ト開戦スル場合アリトスルモ支那人ハ依然支那兵ナリ、日本兵ハ

洋安固ノ保険料ナリ

更ニ是ヲ支那政府ノ現状ト国民一般ノ意向ニ徴スルニ今ノ時ニ是ヲ行フハ最モ時機ニ適シタル応用期ナリト信ズ、若夫レ実行ノ手段及ビ其利益ノ詳論ニ至リテハ稿ヲ改メテ再論セン

(欄外原註)

「其証拠ハ日仏銀行ガ若シ日本ガ支那ニ要スル資金ヲ求メバ是ニ応ゼザルヲ見テモ知ルベシ」

五九七 八月七日 福田陸軍少将

日支協約案要領

日支協約要領

日本国政府及支那共和国政府ハ兩國ヲ結合スル利害共通ノ主義ヲ鞏固ナラシメ東洋永遠ノ平和ヲ確保スルヲ欲シ左ノ協約(要領)ヲ締結ス

一、歐洲ノ禍乱絶東ニ波及スル場合ニ在テハ共同其防衛ニ任スルコト

二、支那全土ノ保全主義ヲ尊重スルコト

三、南滿内蒙ノ自治ヲ認ムルコト

四、条約國ノ有スル既得權利ハ之ヲ認ムルコト

一五 中国問題ニ関スル意見書雜纂 五九七 五九八

依然日本人ナリ何等是ガ為メニ損スル所ナシ、而シテ我日本ニ在リテハ将来對露國ノ或大問題アルニ当リ少カラザル声援ヲ有ス

吾人ハ曾テ支那人ノロヨリ日支聯結問題ヲ聞キタル事アリ又日露支三国同盟說ヲ耳ニシタル事アリ、支那人ノ胸底ニハ日本人ガ胸襟ヲ開キタル商議ヲ聞カン事ヲ望ムヤ切ナリ、故ニ是等ノ問題ガ相互ノ間ニ商議セラルハノ地位ニ迄融和シ来レバ對支ノ局面ハ大々転回ヲ為シ日本ノ外交ハ茲ニ始メテ新發展ノ道ヲ開拓シ得ベシ

日本ハ差当リ毎年三百万円ヲ損スルモ支那人民ノ歛心ヲ挽回シ得バ商業上毎年三百万円ノ利益ヲ得ルハ易々タル問題ニテ更ニ是ヲ拡大シテ對歐ノ局面ヨリ見レバ支那五十万ノ軍隊ヲ日本式ニ訓練シ時ト場合ニヨリ是ヲ利用シ得ルノ便ヲ有セバ他ノ列國ハ言フヲ要セズ、第一露國ノ極東領土ト西伯利亞鐵道トハ極メテ危險ナル者トナル、尚更ニ進シテ支那ガ幸ニシテ秩序ヲ恢復シ軍隊亦強力ト成リタル曉是同盟シテ歐勢ノ東漸ニ当ル、是實ニ東洋百年ノ大計ニシテ黃種万代ノ護符ナリ、是ニ由リテ是ヲ見レバ義和團賠償費ヲ抛ツテ一時三百万ノ収入ヲ減ズルハ極メテ低廉ナル東

五、兵政行政並ニ幣制ノ改善ヲ日本ニ委任スルコト

六、支那ノ利權ヲ外國ニ讓与シ若クハ外國借款ヲ起スニ

當リテハ予メ日本ニ知照シ其同意ヲ求ムルコト

以上協約強談ノ為メ臨時大使ヲ特派シ同時ニ北支那駐屯軍ヲ再ヒ撤裁前ノ兵力ニ復シ有力ナル艦隊ヲ渤海灣ニ游弋セシム

註 右ハ福田少将(雅太郎・參謀本部第二部長) 外務省ニ持参シテ小池政務局長ニ提出シタルモノ

五九八 八月二十四日 大島陸軍次官意見書

歐洲戦乱ノ帰趨ト我对華政策ニ関スル件

秘 大正三年八月廿四日

歐洲戦乱ノ因由及平和ノ克復

此次歐洲戦乱ノ源因ハ固ヨリ一ニシテ足ラスト雖歐洲列強ノ勢力ハ漸ク其ノ均衡ヲ変シ永ク軌近ノ形勢ヲ維持シ難ク各國窃ニ不安ノ念アルニ際シ偶々壞國皇儲及同妃ノ塞耳比亜朝野ノ凶手ニ斃ル、ニ会シ列國ハ茲ニ其ノ危殆ノ地位ヲ脱シ新ニ安定ノ基礎ヲ作ラントセルモノ実ニ今回戦乱ノ主因ナルヘシ

由來独帝ハ露皇ノ歛心ヲ得ルニ怠ラサリシモ国是ノ帰一セサルモノアリテ国交親善ナラス宿敵仏國ノ露國ト結ヘル鏈鎖ハ極メテ堅ク且ツ露仏ノ軍備亦強大ニシテ之ト対峙シテ兵力ノ均衡国交ノ敬親ヲ持セシニハ少クモ壞國ト密著シテ其ノ力ニ頼ラサル可カラス壞國ノ向背ハ実ニ独國存亡ノ繫ル所ナリ而シテ露國ハ近來財政大ニ富裕トナリ軍備ノ拡張内政ノ整頓亦著々功ヲ奏シ漸ク其ノ勢力ヲ西欧ニ張ラントシ仏ノ軍備亦強精ナラントス今ニシテ之ヲ制セサレハ独國ハ居ナカラ之ニ庄セラル、ノ情況ニ在リ故ニ独帝ハ極力壞國今回ノ主張ヲ支持シ以テ益々独壞ノ合縱ヲ固フシ止ムナクンハ寧ロ壞國ノ主張ニ殉スルノ慨ヲ以テ壞ノ感奮協力ヲ促シ茲ニ露仏ニ打撃ヲ加ヘテ暫ク其ノ發展ヲ阻止セシコトヲ期セルナラン

英國ハ雄大ナル海軍ト隆昌ナル商工ニ依リ本国ノ給養ヲ安固ニシ世界ノ市場ニ雄飛セシモ今ヤ独國工業ノ進歩通商ノ發展ハ漸ク英國ノ華客ヲ奪ヒ其ノ海軍ノ威力亦日ニ増加シテ終ニハ英國ノ墨ヲ摩セントス初メ英國ハ壞國對塞耳比亜ノ交渉ヲ聞テ壞國要求ノ至當至理ヲ唱導シテ暗ニ独壞ノ決起ヲ促カシ而シテ一旦戰端ノ開クヤ白耳義中立ノ問題ヲ把

英國ノ富ヲ以テスルモ之ニ對シ能ク其ノ國威ヲ防護シ難カラシ蓋シ永ク歐洲大陸ニ覇タランニハ強大ナル陸軍ノ力ヲ要スヘシ露仏戰ニ勝チ英國亦若干ノ領土ヲ歐洲大陸ニ得タリトスルモ其地遠ク本土ト離隔シ勢力ノ扶殖ニ裨補スルコト尠ク殊ニ英國ノ國情ハ強大精銳ナル陸軍ノ構成ニ便ナラス故ニ英國ハ独壞戰勝ノ勢威ヲ以テ歐洲ニ覇タルヲ好マサルノミナラス露仏ノ雄ヲ歐洲ニ専ラニスルモ亦其ノ好ム所ニ非ルヘシ況ヤ伊太利以下歐洲諸小國ハ拳テ戰勝國ノ膨脹ト其ノ專勢ヲ恐ル、ナラン

抑々雄大ナル文明強國ヲ分割シテ勝者ノ統治ニ属セシメントスルカ如キハ今ヤ殆ト不可能ノ事ニ属ス波蘭ノ分割、「アルサス」「ロレーン」ノ割取等今尚難治ニ苦ム一國瓜分ノ如キハ蓋シ一場ノ議論ノミ而シテ國家百年ノ安康ヲ思ハハ固ヨリ敵國ヲ殲滅スルニ如カスト雖今日ノ戰爭ハ兵力ノ増大兵仗ノ進歩ニ依リ戰鬪強ト成リ成功失敗交々錯綜シ戰局長日ニ亘リ戰費巨億ニ上リ産業頽廢シ国力困憊シ縱令勝者タルモ得ル所遂ニ失フ所ヲ償フコト能ハサルニ至ラシ故ニ若干會戰ノ後苟モ成敗ノ蹟ニ応シ相當ノ面目ヲ保ツヲ得ハ寧ロ僞武ノ速ナランコトヲ希望スルニ至ル此時ニ方

ヘ直ニ起テ露仏ニ加担セリ人若シ英國ハ巧ニ独逸ヲ膺懲スルノ機會ヲ造リ列國ノ力ヲ藉テ独ヲ敗リ以テ其海軍及商工ニ一大打撃ヲ加ヘ再ヒ英國ノ世界ニ於ケル貿易ノ振興ヲ期セントスルモノナリト云フモ蓋シ弁解ノ辞ナカルヘシ

英露仏三国ノ歐洲ニ使用シ得ヘキ戰鬪力ハ少クモ三百五十萬獨壞二國ハ二百六十萬ヲ下サルヘク獨壞ノ合縱軍ハ數ニ於テ復ニ英露仏ノ連衡軍ニ及ハサルモ獨軍ノ精悍ニシテ教育訓練能ク至リ大兵運用ニ造詣深キハ他ニ匹儔ナシ之ニ對シ仏軍ハ由來兵器ノ精銳ヲ極ムルモ統御ノ中枢用兵ニ適セス英軍ノ粗雜露軍ノ器材ノ不備ハ其ノ數ノ優勢ニ若干ノ割引ヲ要シ合縱連衡兩軍ノ間其ノ勢力ニ於テ甚シキ軒輊ヲ看サルヘシ

以上ハ歐洲戰亂終尾ノ結果ヲ考察センカ為メ考量スヘキ要點ナリトス

戰後歐洲列國勢力消長ノ予想

露仏ハ獨壞ヲ瓜分シ獨壞亦露仏ヲ屠ルノ慨ヲ以テ各戰捷ヲ競ヒ長ヘニ優勝ノ地位ヲ獲得センコトニ努ムヘキモ歐洲現時ノ均衡ハ容易ニ之ヲ破壞スルヲ得サルヘシ夫レ露仏若ハ獨壞ノ一方戰勝テ歐洲ニ覇タランカ益其ノ兵力ヲ強大ニシ

リ居中調停宜キヲ得ハ概ネ平和ノ克復ヲ見ルヲ得ヘシ歐洲交戰諸國ノ提封ヲシテ大凡戰前ノ狀態ヲ維持セシムルハ東洋ノ為最モ希望スル所ナリ故ニ吾人ハ交戰諸國孰レモ多大ノ損傷ヲ重ネ国力大ニ萎靡シ而モ現時領土ノ關係ニ甚シキ伸縮ヲ生セサルヘキ形勢ニ於テ英米伊國等ニ慫慂シ平和ノ克復ニ努メサル可カラス英國亦交戰國ノ一ナルモ其決起セル目的タル獨國ノ海軍及其ノ商工業ヲ破碎スルヲ得ハ寧ロ速ニ平和ノ克復ヲ希望セン夫レ歐洲交戰諸國大戰ノ余殃ヲ受ケ一時皆共ニ困憊スルノミナラス獨壞對露仏ノ嫉視軋轢益増長シ互ニ其勢力ヲ他ニ轉向スル能ハス東洋ハ為ニ暫ク康寧ヲ維持シ帝國ハ力ヲ極東經營ニ專ニスルコトヲ得ン

青島ノ攻略ハ時間ノ問題ナリ早晚之ヲ占領スルヲ得ン帝國ハ適當ノ時機ニ於テ間接ニ歐洲ノ僞武ヲ図リ直接ニ極東ノ經營ニ努メサル可カラス

歐洲僞武ニ関スル注意

開戰以來獨軍ノ露仏ニ對スル行動ハ略ホ正當ニシテ一時仏軍若クハ英仏白ノ連合軍ヲ擊退シ得ヘキハ吾人ノ信シテ疑ハサル所ナリ

独軍ハ速ニ連合軍ニ一大打撃ヲ与ヘ之ヲ振盪シテ其抵抗力ヲ奪ヒ後備兵団ヲ増発シテ之ニ備ヘ常備精銳ノ大部ヲ撤シテ東方ニ転送シ以テ露軍ニ對セサル可カラス
露軍ハ平時軍隊ノ配置遠ク隔離シ且ツ応召員ノ密率疎散ニシテ交通網亦少ナク動員集中共ニ迅速ナラス此方面ニ於ケル露獨ノ大会戰ヲ見ルハ早クモ九月下旬ナルヘシ兩者ノ對戰ハ大象ト猛虎ノ相搏ツカ如ク容易ニ勝敗ノ決ヲ見難ク鐵道網疎ニシテ而モ彼此広狹ノ不便アリ為ニ長ク国境附近ニ於テ雌雄ヲ争ヒ双方大ニ茲ニ疲勞セン而シテ仏国方面ハ此間英軍ノ増援及仏国後備兵団ノ増発ニ因リ或ハ漸次独軍（主力ハ後備部隊）ヲ撃退シテ再ヒ独逸国境附近ニ至ルコトナキヲ保セサルモ其進歩ハ神速ナラサルヘシ

（記註外稿）

交戦強國ノ職員ハ陸戰ノミニ於テ既ニ千万以上ニ達シ一日ノ軍費少クモ五千万円ニ上リ産業頽廢シ食糧欠乏シ死傷算ナク俯仰悉ク慘澹ノ状況ナラサルハナシ殊ニ露獨本戰ヲ交ユルニ至ラハ困憊悲慘更ニ一層ノ甚キヲ加ヘ神經過敏ニシテ克己ノ心薄キ歐西ノ国民ハ志氣頓ニ銷沈シテ只管平和ノ克復ヲ熱望シ露國ノ他ハ戰爭ノ繼續殆ト困難トナリ這個ノ大戰モ本年末迄ニハ其終局ヲ告ケント欲スル形勢トナラ

和ノ如キ嘗テ意ニ介セサルモノノ如ク毫モ叙上帝國ノ好意ヲ認メス屢々我商民ヲ殺戮シ若ハ其權利ヲ剝奪シ時ニ軍人ヲ侮辱シ附会強弁帝國ヲ誣ヒ殆ト友邦ノ情誼ナシ清朝時代ニ於テモ帝國ニ對シ誠意ヲ欠キシモノ尠カラスト雖滿蒙其他ニ於テ我ニ許シタル所ノモノ無キニ非ス聊カ以テ帝國ノ恩誼ヲ忘レサルノ意思ヲ窺フニ足ル然ルニ民国政府ハ頻ニ之ヲ褫奪セントスルノミナラス專ラ帝國至當ノ施設ヲ妨ケ其威嚴ヲ傷クルニ努ム其滿蒙ニ於ケルモノノミヲ挙グルモ尚数十件ヲ下ラス

世界ノ大勢 白色對ニ對峙シ東洋ノ平和ヲ維持スルハ國ヲ東洋ニ列スルモノ、責務ナリ而シテ此重任ニ當リ得ヘキモノハ独リ日支兩國アルノミ兩國ハ唇齒輔車互ニ相頼テ共通ノ責務ト利益ヲ完フセンコトニ努メサル可カラス然ルニ支那輓近ノ施政ハ混乱萎靡殆ト自ラ收拾ス可カラサルノ狀態ニ在リ其國政ヲ裨ケ其重任ニ副ハシムルハ豈帝國ノ責務ナラスヤ

長ク非政ノ下ニ在テ忠愛ノ心ヲ失ヒ常ニ利己ヲ事トシテ經國ノ義ヲ解セス無知自尊自ラ悟ラサルハ支那上下ノ通性ナリ之ヲ扶掖指導センニハ恩威交モ施シ寬嚴宜キヲ制セサル

ン
帝國ハ此機ニ後レス英國ト諮リ米國ト議シ米伊其他ノ中立國ヲ懲誡シテ居中調停ノ勞ヲ採ラシムルヲ要ス而シテ歐洲ニ於ケル仏露獨埃國ノ領土ヲシテ勉メテ戰前ノ幅員ヲ保有セシムルハ蓋シ英伊其他歐洲小國ノ希望スル所ナルノミナラス東洋ノ為特ニ要望セサル可カラス故ニ居中調停ハ此主旨ニ合スルノ時機ニ投セサル可カラス而シテ此時機ノ来ル甚遠ニ非ルヘシ宜シク今ヨリ準備スルヲ要ス

對支政策要項

支那ノ獨立ト其康寧ハ東洋平和ノ要件ニシテ之ヲ保障維持スルハ日英盟約ノ目的ナリ帝國ハ清朝以來常ニ忱誠ヲ其政府ニ寄セ嘗テ十數億ノ財帑十數萬ノ生靈ヲ擲チテ滿洲ヲ回復シ其主權ヲ清國ニ還附シ又革命前後敵ニ滿洲ノ寧靜ヲ保持シテ支那政府ノ煩累ヲ掃除シ其他拳匪亂後ノ処分、教育軍事ノ幫助等帝國ノ支那ニ尽セルモノ決シテ尠少ニ非ラス而シテ今回帝國ノ干戈ヲ以テ起チシモノ亦支那ノ獨立東洋ノ安寧ヲ保障センカ為ナリ

由來支那政府ハ世界ノ大勢ニ通セス交遠制近ヲ以テ外交ノ能事ト為シ專ラ一時ヲ糊塗スルニ努メ帝國ノ休戚東洋ノ平

可カラス今ヤ帝國ノ勢力ハ優ニ支那ヲ威圧シ強テ我言ヲ容レシムルニ足ルモ其邦土人口廣大ナリ自今人文ノ發達ニ伴フテ漸ク勢力ヲ増シ遂ニ我制御ニ服セサルノ日ナキヲ期セス故ニ將來滿蒙ヲ帝國ニ併合シ茲ニ年々増殖スル帝國臣民ヲ移植シ逐次我勢力ヲ増加シテ彼此均衡ヲ制シ且ツ支那ニ對スル誘掖指導ヲシテ直接且有力ナラシムルノ準備ナカル可カラス二大戰役ヲ重ネ帝國ノ拮据經營セル所ノモノ実ニ此趣旨ヲ貫徹センガ為ナリ

對支政策ノ實行ニハ歐米列強ノ同意ト支那主權者ノ信賴ヲ得ルニ非ンハ完全ノ成功ヲ期シ難シ今ヤ帝國ハ英仏露三國ト共ニ干戈ノ事ニ從フ偃武以後對支政策ニ関シテモ亦全ク此三國ヲ除外スルヲ得サルヘシト雖今回東洋禍亂ノ戡定ニ任セルモノハ主トシテ帝國ニ在ルヲ以テ帝國ハ支那ノ内政ヲ幫助シ其獨立ヲ完フシ東洋ノ安寧ヲ保障スヘキ方法ヲ議シ手段ヲ定ムルノ主任タルヲ得ヘシ

膠州灣ハ支那ノ為東洋ノ為之ヲ支那ニ還附スルヲ良策トス而シテ英國ニ西藏青海、露國ニ北滿外蒙、仏國ニ雲南ノ一部ヲ与ヘ帝國ハ滿蒙ヲ併合シテ茲ニ數年來ノ懸案ヲ解決シ帝國ハ英露仏ノ援助ヲ得以テ支那ノ改進黨達ヲ図ル是蓋シ

東洋安寧ノ為不得止ノ処分ニシテ列国亦之ヲ是認セン
對支政策実行ニ関シ米國ノ反感ヲ起サス寧ロ之ヲ遂行ヲ欲
迎セシメサル可カラス夫レ支那民國上下ヲシテ挙テ吾人ノ
指導要望ニ從ハシメンカ為ニハ目下最モ困難ナル財政ニ資
源ヲ与フルヲ急務トス而シテ今ヤ金融ハ米國ヲ措テ他ニ之
ヲ求ムルノ道ナシ故ニ帝國ハ之ヲ介助シ要スレハ帝國自ラ
債務ヲ負テ米國ノ富ヲ利用セサル可カラス只米國借款ニ對
シ支那ヨリ米國ニ与フヘキ利權ハ借款返済ト共ニ全ク之ヲ
回收シ得ヘキモノニ限ル蓋シ米國ノ支那ニ望ム所ハ主トシ
テ通商放資ノ利ヲ収メントスルニ在ルヲ以テ我對支政策ハ
其希望ヲ助成スルモノナリ殊ニ帝國ニシテ滿蒙ヲ奄有スル
トキハ專ラ茲ニ過剩ノ國民ヲ移植シ其渡米移民ノ必要ナキ
ニ至ルヲ以テ米國ハ寧ロ我對支政策ヲ歡迎セン要スレハ此
趣旨ヲ米國政府ニ声明スルモ可ナリ

我ノ支那ニ要望セントスル所ノモノハ決シテ輕少ニ非ス交
渉円満ノ結果ヲ収メント欲セハ我モ亦彼ニ与フル所ノモノ
ナカル可カラス膠州灣ノ還附ハ固ヨリ彼ニ与フル大ナルモ
ノナル可キモ帝國政府ハ此際革命黨ノ領袖ヲ戒飭シテ支那
ノ獨立ヲ強固ニシ其民俗ノ幸福ヲ保障センカ為小異ヲ捨テ

支那本土ニ利權ヲ扶殖シテ順次南下ノ素地ヲ作ルモ亦極テ
緊要ナリ

日露ノ大戰青島ノ攻略ハ支那ノ積弱ニ依リ其利權ヲ外國ニ
与ヘタルニ起因シ東洋ノ平和ヲ害シ支那ノ獨立ヲ傷ケ帝國
ハ毎ニ之ヲ克服ニ至大ノ損害ヲ蒙レリ故ニ帝國ハ支那ヲシ
テ將來僅少ト雖其利權ヲ外國ニ讓与シ若クハ外國借款ヲ起
スニ方リテハ必ス先ツ帝國ニ商議シ其承諾ヲ得ルニ非レハ
決シテ之ヲ実行セサルコトヲ約束セシメサル可カラス
以上述フル所ハ對支政策ノ要綱ニ過キサルモ之レカ実行ノ
順序方法ハ折衝当局ノ緩急擒縱自在ナル手腕ト慎密機敏ナ
ル考慮ニ賴ラサル可ラス

(欄外註記)

「戰闘部隊非戰部隊補充隊守備部隊ヲ合算ス」

五九九 九月一日 東亞同志會

我國ガ中国ヨリ獲得スルヲ要スル權利ニ関ス

ル意見書

意見書

填塞ニ國際ヲ生シ端ナク歐洲ノ大禍乱トナリ直ニ戰局東洋

一五 中国問題ニ関スル意見書雜纂 五九九

テ現政府ヲ幫助センコトヲ誓約セシメ一方袁大總統ニ勸告
シ孫黃其他ノ主張ヲ酌量採択シ之ヲシテ志ヲ故國ノ為政ニ
伸フルヲ得セシムルハ独リ袁ニ安心ヲ与フル為ノミナラス
孫黃モ亦其処ヲ得テ兩者共ニ我ヲ德トセン孫黃若シ我提唱
ニ從ハサランカ是支那國民ノ安寧ヲ害シ其獨立ヲ危フスル
モノナレハ断然之ヲ帝國領土外ニ追放シ益々故國ヲ遠サカ
ラシメ以テ民國政府ノ危懼ヲ除キ袁ヲシテ中心帝國ノ指導
ニ信頼セシムルヲ要ス其他借款ノ仲介ヲ為シ兵制ノ改革庶
政ノ刷新ニ幫助ヲ与ヘ將來支那國勢ノ發展ト共ニ日支同盟
ノ成立シ得ヘキヲ暗示スル等苟モ民國政府ノ歡喜信頼シ来
ルヘキ方按ハ渾テ之ヲ実行セサル可カラス

西力ノ東漸ハ今回歐洲ノ大乱ニ因リ暫ク頓挫スヘキモ全ク
之ヲ阻止シ得サルノミナラス僞武數年瘡痍漸ク癒ユレハ再
其勢力ノ東洋ニ跋扈スルヲ觀シ故ニ帝國ハ克ク之ニ對峙シ
且ツ有力ニ支那民國ヲ指導誘掖センカ為須臾モ國力ノ發展
ヲ怠ルヲ得ス而シテ叙上滿蒙ノ併合ノ如キモ四囲ノ事情ニ
由リ或ハ直ニ之ヲ実行シ難キトキハ名ヲ租借ニ藉リ或ハ滿
蒙ニ自治ヲ許サシムル等 此場合英露ニ与フヘキ利
權モ我ト均衡ヲ得セシム臨機ノ方
策ヲ採リ早晚併合ノ基礎ヲ確実ニシ其他財政ノ幫助ニ依リ

ニ波及シ帝國政府ハ東洋平和ノ為メ遂ニ日英同盟ノ條款ニ
基キ戰ヲ独乙ニ宣スルノ已ムナキニ至リタリ此際ニ於テ東
洋永遠ノ平和ノ為メ機宜ノ措置ヲ執ラル、コトハ政府其人
アリ万違算ナキハ本會ノ信シテ疑ヲ容レサル所ナリ然リ而
シテ本會ハ常ニ東亞ノ研究ニ怠ラス殊ニ對支問題ニ就テハ
余力ヲ残サ、ルノ抱負ヲ有ス是レ一片已マント欲シテ已ム
能ハス最モ露骨ニ意見ヲ開陳スル所以ナリ

抑モ日支ノ關係ハ同文同種ノ故ヲ以テノミ親交ヲ敦フシ得
ラルベキモノニアラズ必スヤ國民の經濟關係ヲ密接ナラン
メ而シテ後始メテ之レヲ全フスヘキハ論ヲ俟タス英米独等
ノ諸國カ絶海相隔ツルニ拘ラス着々地歩ヲ支那ニ占ムルア
ルハ全ク經濟的關係ノ致ス所我帝國ノ對支方針ハ官民一致
之レニ當ラザルベカラサル是又タ論ヲ俟タス從來對支外交
ノ振ハサルハ一般ノ認識スル所此際對支外交ノ根本方針ヲ
經濟關係ニ重キヲ置キ一大刷新ヲ計ラサルベカラス

今左ニ一、膠州灣ニ對スル事、二、一般ノ利權ニ関スル
事、三、特種ノ權利ニ関スル事ノ三端ニ分チ卑見ヲ陳述ス
依テ其權利ヲ獲得シ又ハ漸次其方針ヲ執ルノ急務ナルヲ認
ム

膠州灣略取ニ就テハ帝國其主体タルモ海陸兩軍トモ聯合軍ヲ以テセラル、ニ似タリ若シ夫レ南洋ノ独領略取ノ儀アラバ帝國ハ是非トモ我艦隊ヲ参加聯合セシムルノ措置ヲ執リ其後ノ処分ニ於テハ領土ノ獲得ハ勿論之ヲ避ケ該占領地域ニ於テ日本自由殖民ノ權利ヲ獲得シ置クノ必要アリト信ス

以上ノ諸權ヲ獲得スルトスルモ我官民覺醒シテ一大努力奮勵ヲナスニ非スンハ有終ノ目的ヲ達スル能ハス是レカ為メニハ資力アル実業家ヲシテ揮テシンジケートヲ組織セシメ或ハ外国ノ資本ヲ輸入シテ其実行ヲ期セシメサルヘカラス此点ニ於テハ帝國政府ハ之レカ奨励援助ヲ吝ムヘカラサルナリ

大正三年八月 日

熊本市手取本町四十二番地

東 亜 同 志 会

(一) 膠州灣略取後ノ処分ニ就テ

一、膠州灣略取後ノ処分ハ必ズ帝國政府ノ独力ヲ以テ之ヲ為ス事

二、膠州灣ノ占領ハ永久タルベキ事

二、通商地以外ト雖モ日支兩國人民ノ合弁ニ係ル時ハ支那内地到ル処ニ商品ノ製造工場ヲ設置スルヲ得セシムル事

三、支那関稅改正ニハ外国品ニ對シ現在ノ関稅ヨリ多少ノ高率ヲ認容シテ外国品ニ對シテハ一切子口半稅並ニ釐金稅ヲ賦課セシメサル事

四、鉅山開掘ニ對シテハ支那人カ外國人ト合弁出願セル時ハ形式上之ヲ許可スル事ニナリ居ルモ實際ニ於テハ之レヲ許可スル事ナク会々良鉅山ノ開掘ヲ合弁出願スル事アルモ之レヲ地方官憲ニ内報シテ地方有力者ニ出願セシメテ之レニ許可スルノ実狀ナリ如此誠意ナキ事ハ向後一切之レ無キ様改メテ契約スル事

五、大冶鉄鉅ハ永久ニ日本以外ニ売渡又ハ担保トナサシメザル事

六、支那領海ノ總テノ区域ニ於テ日本人ノ自由漁業權ヲ獲得スル事

此場合ニ於テハ地方官憲ハ其最寄ノ支那商人ニ漁獲品ヲ販売スル時ハ之レカ妨害等ノ態度ヲ絶對ニ禁セシムル事

尚支那内地河川湖沼ニ於テハ兩國人合弁ノ場合ニ於テハ

但適當ノ時期ニ於テ帝國政府ハ之ヲ一般通商港トシテ世界ニ開放スル事

三、膠州灣ノ独乙租借條約ノ区域ヲ分チテ表面租借地域外支那内地トノ間ニ五十基米ノ地域ヲ警備区ト称シ特別地域ト為シアル地域ハ事實上租借地ト見做シテ可ナリ依テ当然租借地ノ一部トシテ今回帝國ノ租借地トナスヲ適當ナリトス

四、山東省内鉅山採掘權(独乙ノ)ハ当然帝國ノ權利タラシムル事

五、独乙ガ膠州灣租借ノ當時締結セル独清條約ニ基キ既ニ布設シタル鉄道ハ如何ナル名義ヲ附シテ之レカ保持ヲ計ルニ拘ラス帝國ハ是非之レヲ占有スル事

尚該條約ニヨリ獲得セル權利トシテ未設ノ線路アラハ是レ又タ必ス日本ニ於テ其權利ヲ獲得スル事

六、山東省ニ於ケル独乙ノ放資優先權モ当然此際日本ノ權利ニ移シ以テ我産業發展ノ基礎タラシムル事

(二) 一般ノ利權ニ就テ

一、支那内地各首要都市(既開通商場以外少クトモ一省内五、六都市)ヲ通商貿易地トシテ世界ニ開放セシムル事

之レヲ許可スル事

七、第一号ノ首要都市ニハ領事館又ハ分館ヲ設置スル能ハサル場合ニハ通商事務官(商務官ヨリ低下ナルモノニシテ支那ノ事情ニ通シ事業計画等ノ能力アルモノヲ特別任用スル事トシ)ヲ駐在セシムル事

(三) 特種ノ權利ニ就テ

一、日本宗教ノ支那布教權ヲ獲ル事

從來歐米諸國ト特約セル天主教、耶蘇教、ノ布教條約ト同様ナル條約ノ下ニ宗教布設權ヲ獲得スル事

二、支那内地ニ於テハ何レノ地方タルヲ問ハス日支兩國人ノ合弁經營ナル時ハ各種學校又ハ講習所ヲ設立スルヲ得ルノ權利ヲ獲得スル事

三、支那陸海軍及同軍人教育學校ノ教官ニハ必ス日本教官ヲ聘用セシムル事

四、支那高等教育ノ學校ニハ日本教官ヲ聘用セシムル事

五、支那陸海軍並ニ學校ニ要スル兵器被服諸器械軍用食料品等ニシテ自國品ニ非スシテ輸入スル場合ニハ必ス日本ヨリ輸入スヘキ優先權ヲ与ヘシムル事

六、港灣修築及大工事ヲ要スル官業ニシテ外人ヲ聘用シ輸

入品ヲ所用スル場合ニハ日本ニ協議スヘキ優先權ヲ獲ル事

七、鐵道布設權ヲ獲得スル事

列國ガ支那ニ布設權ヲ得テ資本ヲ投下シテ既ニ布設シ又ハ布設セントスル鐵道及支那資本ニヨリ布設確定セルノ線ハ甚タ多ク今は是ヲ除キ更ニ革命前後ヨリ支那ガ支那ノ資本ニヨリテ建設シ利權ヲ保持セント称シ居ル鐵道線ハ下記ノ如シ然レトモ元來支那ノ資本ハ極端ニ涸渴シ財政窮乏シ居ル支那ノ事ナレバ何時外資ニ頼リテ布設スルカ又ハ其布設權ヲ外人ニ与フルノ手段ニ出ツルヤモ測ラレス

故ニ此際我政府ハ必ス支那本部ニ於ケル鐵道布設權ヲ獲得シ置カサルベカラス少クトモ下記數線ノ内最モ我國ト利害關係密接ナルモノ數線アリ而シテ其内第一經濟線（利權）及第二帝國カ東洋保全ノ必要上是非獲得シ置カサルヘカラザルモノアリ今之レヲ挙グレハ

第一ニ屬スル線 一、宣屯線 一、常玉線 一、安頤線

第二ニ屬スル線 一、海岸線ノ一部 一、京熱線

一、宣屯線

モノニシテ其延長僅カニ八十支那里ニ過ギサル小鐵道ナルカ本鐵道ノ布設ニヨリテ錢塘江ノ上游ト江西省広信ノ水路ト連結セラル、事トナリ兩省ノ運輸交通上非常ナル利便ヲ見ルニ至ルヘシ本鐵道計畫者ハ南潯鐵路公司ト浙江鐵路公司ノ兩者ニシテ負担ハ等分トシ資本金百八拾萬元ノ予定ヲ以テ明治四十三年末ヨリ工事開始ノ計畫ナリシモ革命乱ノ為放置シアルモノナリ

五、安頤線

安正鐵道ノ終点タリシ正陽門ヨリ潁州府迄延長シ安頤鐵道トナシ安徽都督ヲ經テ交通部ニ申請セシモノナルカ布設費ハ五百萬元ニシテ外資ヲ募ル計畫ナリト

六、海岸線

劉冠雄ハ昨秋以來南方各省沿岸ノ鎮撫ヲ命セラレ福建廣東方面ニ滞在シ調査スル所ヲ基礎トシ福建鐵道ヲ急設シ更ニ之ヲ南北ニ延長シテ江蘇、浙江、福建、廣東、ノ各省ヲ連絡スル海岸幹線ノ件ヲ建議シ北京政府ハ銳意調査中ナル線路ニシテ布設費等ハ未タ幾何ヲ要スルヤ未定ナリ

七、京熱線

安徽省宣城縣ヨリ同省徽州府屯溪鎮ニ至ル百五十哩ノ鐵道

此線ノ沿線附近ニハ宣城縣ヲ始メ涇口鎮、河瀝溪、寧國縣、胡樂司、績溪縣、臨溪鎮、等ノ都邑アリ終点タル屯溪鎮ハ人口二十三万ヲ有シ物資ノ集散頗ル盛ナルヲ以テ經濟上最モ有望ナリ

二、杭 広線

浙江省、杭州府ヨリ良渚、武康縣、勾莊口、柏虎鋪、莫干山、安吉縣、小市、梅溪ヨリ浙江安徽兩省ノ境界タル湖州縣下泗安鎮ヲ經テ安徽省ニ入り同省広德州ニ至ルモノニシテ將來更ニ延長シテ蕪湖ニ出ツル錢塘江口ト揚子江ヲ連絡スルト共ニ前記宣屯鐵道ト連結セシムル計畫ナル頗ル有望ナル線路ナリ

三、南 蕪線

南京紳士ハ南京商業振興ノ目的ニテ南京蕪湖間ノ鐵道ヲ建設セントシテ江蘇民政長ニ出願シ民政長ヨリ北京交通部ニ建議セシ線路ナリ

四、常 玉線

浙江省常山縣ト江西省玉山縣トノ間ニ敷設セントスル

北京ヨリ熱河即チ承德府ニ至ル百四十哩ニシテ踏査ノ結果通州、密雲、石通北口、十八盤嶺、河東、樸平、広仁ヲ通過スルモノニシテ布設費百十六万九千九百磅ノ予算ナルカ北京政府ハ急設ノ必要ヲ感シ居ルモ財政窮乏ノ為メ工事ニ着手スル能サル線路ナリ依テ此形勢ヲ察知シタル列國ハ布設權獲得ノ大運動ヲ始メ居レリ

然ルニ熱河ハ我國カ曩キニ獲タル滿蒙五線中ノ一線タル洮熱線ノ終点タルヲ以テ本邦ニシテ京熱線ノ敷設權ヲ獲得スルカ少クトモ敷設費ノ借款ニ応スル事トセハ洮熱線ハ恰モ北京迄延長セラレタル同意義ヲ現ハシ滿蒙經營上甚大ナル利便ニシテ帝國鐵道院ノ線路朝鮮總督府ノ線路南滿鐵道社ノ線路及ヒ新タニ獲タル五線路トニヨリテ我東京ト北京トヲ連絡シ得ルモノニシテ政治上經濟上必要ナル施設ニシテ其効果ハ蓋シ偉大ナルモノアルハ言ヲ俟タス

八、巴 連線

連山灣ヲ基点トシ錦州、朝陽、赤峰ヲ經テ巴林ニ至ル延長百五十哩ノ線ニシテ京熱線同様治蒙ノ目的ヲ以テ

北京政府ニ於テ布設セントスル線路ナリ

九、綏 赤 線

赤峰ニ起リ察哈爾ヲ通過シ綏遠城ニ至ル全長四百十里
ニシテ前記巴連線同様支那政府ハ治蒙上ノ必要ヨリ計
画セル線路ナリ

十、黒 竜 線

黒竜江岸ノ馬家船口ニ起リ呼蘭、綏化ヲ經テ海倫ニ達
スルモノニシテ延長四百二十支那里ニシテ我滿蒙五線
路ノ布設權ヲ獲得スルヤ露國ハ我國ノ例ニ倣ヒ北滿各
地ニ布設權ヲ要求シタルニヨリ省民奮起シ資本六百万
兩ノ民設会社トナシ布設ニ着手スルニ決定セルモノニ
シテ我國トハ利害關係薄シ

十一、張 庫 線

張家口ヨリ蒙古ヲ縱斷シ庫倫ニ至ル鉄道ニシテ經濟上
ヨリスルモ蒙古貿易ノ大道ヲ拓クモノナリ
以上十一線ハ支那ガ支那資本ニヨリ又ハ支那人權利ヲ
以テ外資ヲ入レテ新タニ布設セントスル計画中先ツ成
立ノ見込アルモノ、大要ナリ此他新疆、西藏方面ニ幾
多ノ大鉄道計画アリ其重ナルモノヲ挙クレハ

シ一等國ノ伍班ニ列スルヲ得タルモ支那大陸ニ於ケル我勢
力ノ基礎ハ未タ鞏固ナラスシテ東洋ノ前途ハ支那老大國ノ
運命ト共ニ軋々黯々タルモノアリ此時ニ當リ俄然歐洲ノ中
原ニ一大戦乱ノ爆發スルアリ其余焰ハ延テ遂ニ支那海ノ一
角ニ点火セラルルニ至レリ東洋ノ安寧ヲ以テ自ラ任スル我
日本カ日英同盟ノ精神ニ基キテ之レカ鎮火ノ任ニ當ル固ヨ
リ当然ノ事ニシテ唯之レヨリ生スル所ノ結果ヲ如何ニ有利
ニ利用シ將來ノ西力東漸ニ對シ如何ニ日本ノ立脚地ヲ支那
大陸ニ鞏固ナラシムヘキカノ問題ハ極メテ慎重ノ考慮ヲ要
スヘキ点ニシテ此際是非共斷行セサルヘカラサル重大事項
ナリトス具体的ニ之ヲ言ヘハ本問題ハ第一滿蒙ニ於ケル我
立脚ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニ必要ナル各種利權ノ獲得並
ニ支那中央政府ニ我勢力ノ扶植第二山東省ニ於テ独逸カ有
スル各種利權ノ獲得ノ二者ニ歸スルコトニシテ而シテ刻下
ノ狀況ニ於テ右第一問題ハ此際速カニ着手解決シ第二問題
ハ戦後ノ列國會議ニ於テ解決スヘキヲ適當ナリト信ス今之
ヲ左ニ詳述セン

第一、滿蒙ニ於ケル我立脚地ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニ必
要ナル各種利權ノ獲得並ニ支那中央政府ニ我勢力扶植

四川西藏線 四川首府成都ヲ起点トシ雅州府、打箭

爐、裏塘、巴塘、ヲ經テ西藏首府拉薩ニ

出テ更ニ札什倫ヨリ亜東ニ至ル約壹千三

百五十哩

甘肅西藏線 甘肅首府蘭州府ニ起リ庫賽ヲ經由シテ西

藏拉薩ニ至ル九百哩

呼蘭貝爾科布多線 黒竜江省呼倫貝爾ヨリ庫倫、烏里

雅蘇台ヲ經テ科布多ニ達スル一千九百五

十哩

六〇〇 九月二十一日 在北京町田陸軍少將

歐洲大戰ニ當リ我國ガ中国ニ於テ獲得スベキ

事項ニ関スル意見

附 記 十月十六日在北京町田陸軍少將ヨリ松井外務次

官宛

時局ニ関スル私見(其二)送附ノ件

秘 時局ニ関スル私見

最近二十年間ニ於テ我國ハ東洋永遠ノ安寧ヲ保持シ其福祉
ヲ増進センタメ日清日露ノ二大戦役ヲ遂行シ二十億ノ軍費
ト十万ノ生靈ヲ犠牲トシテ韓國ヲ併合シ滿蒙ニ利權ヲ獲得

支那ハ徒ラニ四百万方哩ノ龐大ナル土地ト四億ノ民衆ヲ
有スルノミニシテ所謂尾大動カス政令行ハレス其人民ハ
朝野ヲ挙ケテ自己ノ利慾ニ汲々トシテ毫モ愛國心ノ見ル
ヘキモノナク其革命党ト称シ宗教党ト唱フルモノモ亦真
ニ献身の報國ノ至誠ヲ有シ撥乱反正ノ重寄ニ堪ユルモノ
ナシ文化洽ネカラス交通開ケス産業挙ラサルノ結果ハ國
利民福ノ源泉タル天然ノ資源ハ空シク地下山間ニ放棄シ
去リテ支那人自ラハ之ヲ開拓經營スルノ能力ナク其財政
ハ日ニ窮乏ニ陥リ借款ニ次クニ借款ヲ以テシテ其外債ハ
山積ス之ヲ要スルニ支那ノ運命ハ近キ將來ニ於テ財政上
ノ分割ヨリ遂ニ領土ノ分割ニ陥ルヤモ計ラレサルノ状態
ニ在ルコトハ今更喋々ヲ要セサル所ナリ

從來歐洲ノ平和ハ列國ノ勢力權衡ニヨリテ久シク維持セ
ラレアリタルヲ以テ彼等列強ノ遺利搜索ノ視線ト利權獲
得ノ爪牙ハ夙ニ支那大陸ニ集注セラレアリテ換言スレハ
支那ハ殆ント列強利權ノ競争場トナリ居レリ此間ニ立チ
テ我日本ノ如キ近年漸ク一等強國ノ伍班ニ列シタリトハ
イヘ國家ノ実力ハ未タ充分ナラスシテ其對支政策ノ実行
ニ際シテモ常ニ列強ノ鼻息ヲ窺フノ傾向アリタルヲ以テ

狡猾ナル支那ハ我此弱点ニ乗シ遠交近攻ノ策ヲ弄シ或ハ英米ニ訴ヘ或ハ独露ニ結ヒ事毎ニ我對支要求ヲ抑制スルノ手段ヲ採リタリ然レトモ今ヤ世界ノ活機ハ確ニ一變シテ歐洲ハ其中原ニ一大噴火ヲ来シ之カ鎮圧ノ為メ費ス所ノ国力ノ消費ハ驚クヘキ巨額ニ達シ現ニ欧信ノ伝フル所ニ依レハ交戦列国ノ一日ノ戦費ハ約一億万円ニシテ其死傷病者ノ総数ノ如キ亦莫大ノ数ニ上ルノ状態ニシテ独逸一ヶ国丈ケニテモ一日ノ戦費ハ約二千五百万円開戦後六週間ニ於ケル戦死者約十萬戦傷病者ノ総数ハ七十萬ヲ下ラスト云ヘリ以上ノ数字ハ稍誇大ニ失スルトシテモ之ニ加フルニ尚本戦争ニ伴フ所ノ間接ノ損害即チ農商工業ノ沈滞其他物質上經濟上ノ打撃等莫大ナルモノアルヲ以テ此ノ如キ慘烈ナル大戦ノ結果ハ敗者ハ勿論勝者ト雖非常ナル深手ヲ負フニ至ルヘシ而シテ此深手ヲ負ヒタル交戦列国ハ戦後ノ大療治ト歐洲新領土ノ整頓ニ忙ハシク加フルニ独逸勢力ノ失墜ハ延テ「バルカン」半島及ヒ小亜細亞問題ニモ新シキ解決ヲ促ス事トナルヘク要スルニ茲ニ數年間歐洲列強ハ戦後ノ諸整理ト近東問題ト解決ニ忙ハシクシテ從來ノ如ク絶東ノ支那方面ニ於ケル利權ノ獲得

例ノ如ク直ニ之ヲ列強ニ泣訴シ彼等ノ手ニ依リ日本ノ要求ヲ妨害スルノ策ヲ取ル可ケレハナリ

由來支那人ハ決シテ恩ヲ着セテ懷ケ得ヘキ國民ニアラス殊ニ狡猾多智ノ衰ニ對シテハ同文同種唇齒輔車トカ云フ如キ古臭キ言草ヤ懷柔策ノミニテハ何事モ成功シ得ヘカラサル事ハ単ニ小官ノミナラス支那通有力者ノ皆等シク認ムル所ニシテ支那人一般ノ心事ヲ支配スルモノハ唯一ノ權力アルノミ故ニ此際我日本ニシテ大々的決心ヲ以テ武力ノ後援ニ依リ其權力ヲ發揮セハ上掲要求ノ解決ハ決シテ難事ニアラスト確信ス世ノ消極悲觀論者ハ或ハ此際支那ニ對シテ日本カ思ヒ切リタル仕事ヲ為ストキハ列國ノ為メ外交位置ノ孤立ヲ余儀ナクセシメラレ遂ニ彼ノ伯林會議ニ於ケル露國ノ覆轍ヲ踏ミ或ハ日清戦後ノ三國干涉或ハ最近「バルカン」戦争後ノ「ブルガリヤ」ノ運命ニ陥ルヲ恐ルルモノアルモ此ト彼トハ四囲ノ状況全然異ナル所アルヲ以テ此等ノ杞憂ハ意ニ介セスシテ可ナリ之ヲ要スルニ以上ノ要求ハ何等支那ノ主權ヲ侵害スルモノニアラスシテ從來日英同盟、日仏、日露、日米ノ協商ニ於テ約シタル支那ノ領土保全、機會均霑、門戶開放ノ

ニ其全力ヲ注クノ余裕ナカルヘシ故ニ此好機ニ際シ我國ハ思ヒ切テ衰ニ直接談判ヲ申込ミ滿蒙ニ於ケル旅行居住ノ自由、土地所有權、旅大租借期限ノ延長、新邱炭坑ノ採掘權、熱河北京間、杭州南昌間、九江武昌間ノ鉄道敷設權並ニ福建省沿岸ニ我日本ノ承諾ヲ得スシテ防禦設備ヲナサシメサル等ノ權利(米國ハ其海軍ノ前進根拠地トシテ三沙灣ニ垂涎シ居ルノ事實アリ)並ニ將來支那ノ軍事ハ勿論外交財政ノ顧問トシテ日本人ヲ入ルル事其他兵器ノ製造及供給ヲ日支合辦或ハ日本ノ手ニテ引受クル等ノ特權ヲ要求スルヲ要ス為シ得レハ此際支那ニ若干ノ資金ヲ貸与シ其一部ヲ以テ此等創設ノ資源トナシ他ノ一部ヲ以テ彼ノ財政焦眉ノ急ヲ救フノ用ニ供セシムルモ可ナリ

日本カ此要求ヲナスニ際シテハ露國ハ外蒙及新疆地方ニ、英國ハ西藏地方ニ同様ノ利權獲得ヲ要求スル事トナルヘシ現ニ露國代理公使「グラベ」ノ如キモ右様ノ意嚮ヲ洩セシコトアリ要スルニ日本カ此要求ヲ袁政府ニ提出スル前ニハ先ツ十分ナル覺悟ヲ定メ且此等ノ大意ニ関シテハ予メ英露ニ内牒シ置クヲ良好トス否ラサレハ衰ハ

根本義ニ至リテハ敢テ変スルコトナク(米國ノ如キニモ此際機會均霑ノ主義ヨリシテ其所望ノ利權ヲ獲得セシムレハ可ナリ)東洋永遠ノ安寧ヲ保ツ為メ極メテ必要ナル事ナリト信ス

夫レ非常ノ時ニハ非常ノ斷ナカル可カラス斷シテ行ヘハ鬼神モ亦之ヲ避クト云ヘリ若シ今日ノ好機ヲ逸シ東洋ニ於ケル我國ノ立脚地ヲ鞏固ナラシムルニアラサレハ國家百年ノ悔ヲ貽サン今ヤ露國ノ如キハ其東方兵備ノ大部ヲ撤シテ全力ヲ以テ西方ノ大敵ニ向フコトヲ得加フルニ軍需品ノ調辦供給等ニ関シテモ我國ノ援助ヲ得ツツアル關係ヨリシテ頗ル日本ヲ德トシアル時機ナル故如上ノ我對支那要求ニ妨害ヲ加フルコトナカル可シ又英國ノ如キモ我ト同盟ノ關係モアリ且我ハ日英同盟ニ於テ印度擁護ニ関シテ片義務ヲ負ヒツツアル等ノ事情モアルヲ以テ之ヲ説クニ情義ヲ以テセハ彼トモ我對支要求ノ進行ヲ妨害スルカ如キ動作ニハ出テサル可シ但シ英米東亞ノ使臣等ハ其眼光往々己レノ駐屯地ノ一局部ニノミ偏シ殊ニ英國ノ老朽公使「ジョルダン」ノ如キハ年來ノ袁家擁護者ナルヲ以テ多少ノ異議アルヤ勿論ナル可ケレトモ上掲我國

ノ対支根本問題ノ大意ニ関シテハ直接英本国政府ト交渉シテ可ナルヘシ

第二、山東省ニ於テ独逸カ有セル各種利権ノ引継獲得

此問題ハ対独關係ナルヲ以テ戦後ノ列国会議ニ於テ決定スヘキモノト信ス歐洲戦争ノ結果ヲ今日ニ於テ推定スルハ稍過早ノ嫌ナキニアラサルモ最早大勢上終局ノ勝利カ聯合軍ニ歸スル事ハ自ラ明カニシテ今後遠カラスシテ起ルヘキ東「プロイス」ニ於ケル独逸主力ノ大決戦ニ於テ独軍大勝ヲ得ハ戦争ハ尚ホ比較的永續スヘキモ若シ之ニ反スル場合ニ於テハ周囲諸般ノ事情ハ遂ニ米國辺ノ手ヲ經テ平和談判着手ノ雲行ヲ濃厚ナラシムルニ至ルヘシ而シテ仏相「デルカッセー」カ所謂歐洲中原ノ地図ハ其色ヲ一變シ聯合軍中最モ多クノ犠牲ヲ払ヒタルモノハ最も多クノ利益分配ヲ受クルノ時代トナルヘシ戦後列國ノ対独要求トシテハ巨額ノ償金ハ勿論露國ハ「ガリシヤ」、東普魯西、仏國ハ「アルサス」「ローレン」、英國ハ亜弗利加及ヒ南洋ノ独領殖民地ノ割譲ト独逸軍艦ノ一部ノ引渡ヲ要求スルノ程度ナラシカト觀察セラル（本戰鬪ノ結果トシテ填甸國ハ全ク分離シ独逸聯邦邦モ亦分立スルニ至ル

言シタルハ之レ独逸カ平和ト人道トヲ重シシテ之ヲ穩當ニ日本ノ手ニ引渡シタル時ノ場合ニシテ既ニ彼ノ暴戾無道ニヨリ我ヲシテ之ヲ奪取スルニ多大ノ鮮血ト財力トヲ費スノ止ムヲ得サルニ至ラシメタル以上ハ之カ報酬トシテ山東ニ於ケル彼ノ既得權利ヲ戦利品同様ニ我ノ手ニ獲得スルハ至當ノ事ナリト信ス若シ我國ニシテ事茲ニ出テス折角多大ノ血ヲ以テ占領シ得タル膠州灣並ニ山東ノ諸利源ヲ第三國ノ鼻息位ニ恐レテムザム支那ニ返納スルカ如キコトアラハ外ハ支那ニ對スル權力ノ一大失墜トナリ内ハ國民ノ憤怒一時ニ爆發シテ由々敷大事ヲ惹起スルノ虞アルノミナラス真ニ帝國百年ノ長計ヲ誤ルニ至ルヘシ

之ヲ要スルニ如上ノ要求ヲ貫徹シ我國ノ支那大陸ニ於ケル立脚ノ基礎ヲ鞏固ニ為シ置クコトヲ今日ニ於テ若シ実行シ居ラサルトキハ他日歐洲列國カ其創痍全ク癒エ潮ノ如キ勢ヲ以テ再ヒ東漸シ来ルノ咄ニ至ラハ独逸ハ今回我ニ對シテ既ニ深怨ヲ刻ミツツアリ我ト露國トハ近來親密ナルモ彼トテモ過ル三十七八年役ニ於テ受ケタル大敗ノ恨ヲ忘ルルカ如キ健忘性ノ國民ニアラス英國トハ目下同盟ノ關係ニ在ル

ヤモ知ルヘカラス）此時ニ當リ我日本カ山東省ニ於ケル独逸ノ既得權利ノ讓渡ヲ要求スルコトハ其之ニ扞ヒタル多大ナル犠牲ノ報酬トシテ当然ノ事ナルヲ以テ何人モ異存ナキ所ナルヘシ否佞令多少ノ異論アリトシテモ斷々乎トシテ之ヲ貫徹セサル可カラス蓋シ膠州灣、坊子、博山ノ炭坑殊ニ山東鐵道ヲ我日本ノ手ニ領有シ置ク時ハ經濟上ノ利益ハ勿論將來若シ支那カ其財政上ノ分割ヨリシテ領土ノ分割ニ陥リ列國カ各兵力ヲ以テ其勢力範圍ヲ堅メントスルニ當リ我モ亦山東省ヲ己レノ勢力範圍トシテ占領スルノ口実ヲ得ルノ利アリ而シテ山東鐵道ハ實ニ直隸平野ト長江沿岸トノ大動脈ヲ制圧シ得ル要機ヲ備ヘタル地点ナルヲ以テ今回ノ好機ニ於テ之ヲ確實ニ領有シ置ク事ハ極メテ必要ナリト信ス若シ然ラサレハ今日迄我日本ハ滿蒙ニ於ケル若干ノ利権ヲ有スルノ外北京以南ノ廣大ニシテ有望ナル支那本土ニハ單ニ漢治萍ノ特權ト九江南昌間ノ僅少ナル鐵道ニ関スル權利ヲ有スル位ナルヲ以テ將來万一ノ場合支那中原ニ於ケル容喙權ノ基礎トナルヘキ施設ハ皆無ナレハナリ

元來我國カ膠州灣ヲ支那ニ還附スヘキモノナルコトヲ宣モ他日長江沿岸ニ於ケル彼我商權ノ利害關係ハ遂ニ彼ヲシテ永久ノ盟友タラシメサルヤモ知ルヘカラス而シテ日米國交ノ前途ニハ常ニ移民問題テウ一種低氣圧ノ伏在スル等ノ事情アルヲ以テ天ノ未タ陰雨セサルニ先チテ其牖戸ヲ綢繆スルハ極メテ必要ニシテ此所數年間我日本ハ上掲立脚地ノ獲得ト共ニ舉國一致内治外交ノ改善振張ヲ計リ富國強兵ノ實ヲ挙クル事ニ全力ヲ注カサル可カラサル時代ト信ス以上ハ小官カ北京到着以來専心注意シテ支那ノ現狀ヲ觀察シ東洋ノ既往、現在及未來ヲ考慮シ時局解決ニ関シ最良ノ手段トシテ確信スル所ノモノナリ言或ハ当局ノ忌諱ニ触ルルアラシモ一片耿々ノ至誠止ムヲ得サルモノアリ謹テ茲ニ陳述ス

大正三年九月二十一日

北京ニ於テ

陸軍少將町田經宇

（附記）

時局ニ関スル私見（其二）送付ノ件

大正三年十月十六日

於北京 町田 經宇

松井慶四郎殿

秋高ク馬肥ユルノ候益々御健勝ノ段為邦家奉賀候今回ノ時局ニ就テハ殊更御配慮ノ段千万奉遠察候回顧スレハ仏国御同勤以來數年間親シク御高眷ニ接スルノ機会モ得ス今日ニ至リ計ラスモ小生ハ北京外交団ノ席末ニ列シ軍事上ノ見地ヨリ及ハスナカラ微力ヲ尽シツ、アル次第ニ御座候曩ニ時局ニ関スル意見書外閣閣下ニモ呈シ置キタルカ多分御覽下サレタル事ト信ス事件ノ進捗ニ伴ヒ今回更ニ第二ノ意見ヲ封入貴覽ニ供シ候要スルニ千載一遇ノ重要ナル此場合ニ於テ外交軍事ノ一致發展ハ極メテ必要ト存申候何卒御一覽ノ上御高見ノアル処モ御示シ被下度不堪切望候 草々頓首

(別紙)

極秘 時局ニ関スル私見(其二)

曩ニ提出セシ時局ニ関スル私見カ大体ニ於テ御同意ヲ得タリトスレハ今や進テ之カ着手ノ時機及ヒ手段方法ニ就テ聊カ卑見ヲ開陳セントス

一、前意見書ニ陳ヘタル第一次要求即チ滿蒙ニ於ケル我立脚地ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルニ必要ナル各種利権ノ獲得

スルコトハ支那ハ勿論袁、家、永、遠、ハ、長、計、ナルヘキヲ以テシ之ト同時ニ將來日本ノ力ニテ彼ノ地位ヲ擁護シ支那ノ安寧ヲ維持スル為メ出来得ル丈ケ間接的援助ヲ与フルコト即チ日本内地ニ潜伏セル支那革命黨員等ヲ充分取締リ且ツ日支經濟同盟兵器同盟ノ精神ニ基ク企業ヲ成立セシメテ兩國經濟上ノ利益ヲ密接増進セシメ軍事上ノ連鎖ヲ鞏固ナラシムル等ノ内約ヲ与ヘハ彼ヲシテ我要求ニ応セシムルコトハ出来得ヘカサルコトニハアラスト信ス

二、上掲談判ハ如何ナル法式ヲ以テ着手スヘキカ之ヲ密約トスヘキカ又ハ予メ英露ニモ内意ヲ含メ置キ公然トスヘキヤ或ハ特ニ有力ナル全權大使ヲ派遣スヘキヤ又ハ現在公使ヲ以テスヘキヤ等ハ頗ル慎重ノ考慮ヲ要スヘキコトニ屬ス

袁ヲシテ其政權ヲ長ヘニ維持シ間カ能クハ其王冠の宿望ヲ達シ得テ支那ノ安全ヲ維持シ得ルコトハ一ニ日本ニ聽キ日本ニ倚ルノ外ナキヲ覺ラシムル為メニハ百万手段ヲ尽シ即チ先ツ彼ノ股、肱、腹、心等ヨリ予メ之ヲ吹キ込マシムルヲ要ス此際為シ得レハ袁世凱側ヨリ進シテ我ニ提議スル様仕向ケ得ハ最モ妙ナリトス然ルトキハ支那人ノ最モ

並ニ支那中央政府ニ我勢力扶植ニ関スル談判ハ青島陥落ト共ニ開始シ少ナクモ山東占領軍隊カ未タ本国ニ撤退セラレス内地動員師団カ未タ復員セラレサル以前ニ於テスルヲ得策ト信ス若シ歐洲戰場ニ於ケル露軍カ略ホ此時機迄ニ獨軍主力ヲ東普魯西ニ於テ擊破スルコトヲ得ハ最モ妙ナレトモ此事タルヤ尚ホ多少ノ日月ヲ待タサル可カラサルコトナルヘシ

實際上袁ハ今回我日本ガ大々的決心ヲ以テ山東鉄道押収ヲ断行シ毫モ支那ハ勿論第三国ノ言論等ニ頓着セザリシ意気込ニ恐怖スル処アリ加フルニ目下歐洲ノ大禍乱ハ何時終息スヘシトモ思ハレス支那ハ当分ノ内最早彼等列国ヨリハ財政上其他ニ於テモ何等ノ援助ヲモ受クルコト能ハサル状況ニ陥リアルヲ察シ殊ニ今後青島陥落後若シモ甚シク日本ノ感情ヲ損フカ如キコトアリテハ支那ハ如何ナル運命ニ陥ルヤモ知ル可カラス之ニ加フルニ革命党等カ若シモ日本人ノ使噤ニ依リ此時機ニ乘シテ再起スルコトナキヤ等ニ就キ一方ナラス危惧ヲ懷キ居ル際ナルヲ以テ此機會ニ乘シテ彼ニ説クニ滿蒙其他ノ利権ニ関スル日本ノ要求ヲ容レ万事日本ニ信賴シ日支兩國ノ結合ヲ堅ク

忌ム所ノ強圧ノ下ニ余儀ナク屈伏セリトノ体面上ノ事ハ輕減セラレ我ハ弱者ニ強制ヲ加ヘタリトノ誹ヲ免レ誠ニ都合ヨキ事ナリトス而シテ到底以上ノ如ク運ヒ得サル場合ニ於テ始メテ我ヨリ彼ニ直接談判ヲ開始スルノ順序ト手段ヲ取ルヲ可ナリトス

又今次我要求事件ハ一モ支那ノ主權ヲ侵害シ列国ノ利益ヲ掠奪スルカ如キ重大ナルモノニアラサルヲ以テ此際暫ク現公使ヲシテ密約的ニ之カ交渉ヲ試ミシムル方有利ナルヘシ目下支那人ハ我一挙一動ニ対シ戦々兢兢タルノ際ナル故若シモ对支重要談判ノ為メ我國ニ於テ特命大使ノ差遣アルカ如キコトヲ聞カハ人心恟々物議騒然第三者ノ離間中傷モ亦此機ニ投シテ起リ遂ニ支那当局者ヲシテ之レカ去就ニ迷ハシムルノ惡結果ニ陥ルヤモ知ル可カラス故ニ先ツ以上穩便手段ヲ以テ密約ヲ試ミ其成功寬束ナキ場合ニ於テ始メテ大々的準備ヲ以テ有力ナル特使ヲ派遣シ之カ談判ニ当ラシムルヲ要ス

三、元來共和政体ハ支那人ニハ不當ナルコトハ世間有識者ノ夙ニ認ムル所ニシテ現ニ袁ハ民国成立以來国会ヲ破壞シ約法ヲ蹂躪シ目下単ニ共和ノ名ノミヲ有シテ其實ハ

独裁政治タルノ事實アルニモ拘ラス支那人民ハ一向平氣ナルニヨリテモ明カナリ且夫レ共和ノ如キ危険ナル政体カ我西隣ニ現出シ来ルハ我帝国ノ為メニ喜フヘキ現象ニアラサルヲ以テ衷ニシテ若シ我要求ニ応シ我ニ信頼スルノ態度ニ出ツル以上ハ之ヲ援ケテ支那ノ君主タラシムルモ亦不可ナシトセス況ンヤ事茲ニ至レハ我ハ彼ノ擁護者トシテ隠然タル勢力ヲ有スルコト、ナルニ於テオヤ

四、日支經濟同盟、兵器同盟ノ真目的ハ兩國間物質上共通利害ヲ把リ来リテ彼我ノ連鎖トナシ相倚リ相助クルノ利便ヲ設ケ両々容易ニ背キ離ルルコト能ハサラシメ所謂離ルレハ損アリ合スレハ利アルノ勢ヲ成立シ以テ兩國ノ結合ヲ鞏固ナラシムルニアリ目下支那ニ於テ日支合同經營ヲ以テスヘキ有利ナル生産事業ヲ算ヘ来レハ礦山採掘ヤ鐵道敷設ヤ兵器製造業ヤ各都市ニ於ケル電気事業ヤ煙草專売ヤ其他各種ノ工業等ニシテ此等ハ或ハ少資本ニテ足ルアリ、或ハ大資本ヲ要スルモノアリ或ハ個人ヤ会社事業ニ適スルモノアリ或ハ国家事業トスヘキモノアリ而シテ支那ハ石炭ヤ鉄ヤ其他工業ノ原料ニ富ミ価額亦低廉ニシテ労働者ノ数ヤ賃銀等ニ於テモ亦然リト雖工業ノ基幹

テモ亦之ヲ生産業ニ運轉セシメテ生スル純益ニ於テモ準備便貨額ノ殆ント二倍額ニ相当スル利率ヲ得ルノ計算トナレハナリ故ニ取付ケノ危険ニ備フルノ成算アル以上ハ之レ亦有利ノ一事業タルヲ失ハサルヘシ

之ヲ要スルニ以上ノ方法ハ日支經濟同盟ヲ實現スル為メノ一大良策タルヘシト信ス而シテ之ト同時ニ我陸軍当局者ノ宿望計畫ニ係ル日支兵器同盟ヲ成立セシメ銃砲彈藥其他ノ器具材料ノ經濟的製作並ニ共通の供給ノ歩武ヲ進ムルヲ要ス

五、論者往々革命党ノ某有力者ニ物質上ノ援助ヲ与ヘテ討袁軍ヲ起サシメ或ハ宗社党ヲ煽動シテ宣統帝ヲ擁立スル等ノ策ヲ唱フルモノアルモ目下革命党並ニ宗社党中此等ノ重任ニ堪ユル人物ナキノミナラス熟々四囲ノ状況ヲ按スルニ其成功ハ頗ル覺束ナク一朝不幸ニシテ失敗ニ終ル時ハ支那人ノ対日惡感ハ一層増大シ列國ヨリハ隣邦ノ内乱煽動者トシテ惡評指揮ヲ蒙リ我對支政策ハ茲ニ一大頓挫ヲ来スニ至ルヘシ故ニ革命党自身カ蜂起スル場合ハ兎ニ角我ヨリ進テ彼等ヲ煽動シ支那全州ヲ攪乱スルカ如キコトハ得策ニアラスト信ス

タルヘキ人物材料ニ至リテハ是非共我日本ニ俟タサルヘカラス又其資本ニ至リテハ支那ハ勿論我日本ニ於テモ欠乏ノ際ナレトモ前途頗ル有望ナル國家の生産事業ニ對シ殊ニ早晚支那關稅改正ノ曉ニ至ラハ我内地製作ノ支那向輸出品ハ總テ大打撃ヲ蒙ル等ノコトニ想到セハ此際官民一致シテ前途頗ル有望ナル國家の生産事業ヲ支那ニ於テ創設スル為メニ或ル程度マテノ融通ハ出来サルコトハナカルヘシ殊ニ我國ニシテ若シ此際支那ニ若干ノ借款ヲ与ヘ得ハ支那ノ為メニハ所謂火事場ノ傍ニアル一荷ノ水ト同様其効能甚大ニシテ其一部ヲ以テ財政焦眉ノ急ヲ救ヒ其他ヲ以テ上掲日支合同新企業ノ資料ニモ供シ得ヘク而シテ我日本ハ之カ貸付担保トシテ年来ノ宿望ニ係ル重要諸利權ヲ獲得シ得ルノ大利アルコトナリト信ス

兌換紙幣發行權ヲ有スル日支合同ノ銀行ヲ支那ニ設ケ得ハ時局救済上頗ル有利ナル事業タルヲ疑ハス何トナレハ今若シ此種銀行ニ於テ其準備便貨額ニ對シ約二倍ノ紙幣ヲ發行シ得ルトスルトキハ（民國唯一ノ金融機關タル交通銀行ノ如キハ一千万円ノ準備金ヲ以テ約五倍ノ紙幣ヲ發行シアルノ秘密アルコトヲ伝聞ス）之カ貸付利子ニ於

狡慧極リナキ袁ヲシテ支那ノ主權者トシテ其地位ヲ堅メシムルトキハ我國永遠ノ為メ果シテ得策ナルヤ固ヨリ一考慮ヲ要スルコトナレトモ目下ノ処差當リ袁ニ代リテ曲ナリニモ支那ヲ統治シ得ル力量アル人物存在セサル以上又老大ナル四百余州ヲ我保護國トシ若クハ之ヲ合併統治スルカ如キコトハ列國ニ對シテモ亦我國ノ實力ニ於テモ到底不可能ノ事タルコト明カナル以上目下ノ所暫ラク袁ヲシテ支那ノ統治ニ任セシムルノ外ナカルヘシ

六、歐洲列強カ今次ノ大戰ニ於ケル疲弊ノ結果茲數年間ハ絶東ニ全力ヲ揮フコト能ハサルヘキハ前意見書ニモ述ヘタルカ如シ但シ米國ハ今回ノ戰爭ト何等ノ關係ナキヲ以テ我日本カ支那ニ爪牙ヲ伸ハスコトヲ制スルモノハ彼レ米國ニシテ殊ニ其優勢ナル海軍ノ如キハ我ニ對スル目ノ上ノ瘤ナリト憂慮スルモノアルモ之レハ畢竟杞憂ニ過キサルコト、信ス何トナレハ米國ハ其本国ノ廣大ナル領土内ニ於テ有利ナル企業ニ充タサレ居ル狀況ナルヲ以テ前途危險ノ虞少ナカラス加フルニ利率ニ於テモ純益ニ於テモ左程有利ナラサル支那ニ向テ多大ナル投資ヤ企業ヲ為スハ不得策ナルヲ知ルモノニシテ現ニ其証拠トシテハ對

支債権ニ於テモ英國ノ四千九百三十万一千磅独逸ノ三千八百四十五万磅仏國ノ三千百三十五万六千磅露國ノ二千三百八十七万二千磅ニ対シ米國ハ僅々百九十二万磅ヲ有スルニ過キス又鉄道経営ニ就テモ英露独仏カ既設未設莫大ノ權利線ヲ有スルニモ拘ラス米國ハ單ニ湖広鉄道ノ一小部分ヲ有スルノミニシテ其他鉅山採掘及投資權ニ就テモ米國ハ單ニ淮河ノ浚渫ト陝西、熱河地方ノ石油採取權ヲ有スルノミニシテ他ノ列國カ所有權利ノ廣大ナルニ比スヘクモアラス支那領土ニ於ケル商工業上ノ投資微弱ニシテ經濟上ノ關係甚大ナラサルコト此ノ如キ米國カ何ヲ苦シテ兵力ニ迄モ訴ヘテ我日本ノ支那ニ於ケル利權獲得ヲ妨害スヘケンヤ

七、滿蒙ニ於ケル土地所有權旅行居住營業ノ自由其他鉅山開掘鉄道敷設權等（前意見書ニ列挙シタル）ノ如キハ此際是非共獲得シ置クノ必要ヲ認ムルモ南滿鉄道及安奉線ノ所有期限延長問題ノ如キハ我ニシテ之カ延期ノ權ヲ得ハ露國ハ其東清鉄道ニ於テ居ナカラニシテ之ニ均霑スルニ至ルヘキヲ以テ此等ノ事ハ他日露國ト協同シテ支那ニ談判ヲ申込ムモ亦一法タルヘシ

質ノモノナルヲ以テ茲ニ贅セス

大正三年十月十三日

北京ニ於テ

陸軍少將 町 田 經 宇

六〇一 十月

白仁閣東都督府民政長官

青島還付ノ際要求スベキ事項ニ関シ意見具申ノ件

(一)

青島ヲ支那ニ還附スルニ際シ同地ニ関シ独逸

及支那ニ要求スヘキ事項

青島市ヲ開放シ日英兩國優越ノ地位ノ下ニ上海ノ如キ經營ヲナスハ理想トシテ可ナルモ彼我ノ分担力ノ差等我ハ有益ノ地歩ヲ占ムル能ハス結局戰征ニ由テ得タル根拠ヲ失フニ至ルノ恐アリ依テ埠頭区台東鎮山西鎮大小兩港区一帯ノ地ヲ我カ專管居留地トナスコト

專管居留地ヲ設クルモ其以外ノ地ニ土地家屋ヲ所有シ賃借シ商工業其他ノ營業ヲナスコトハ自由タルヘキコト

此場合ハ支那政府ハ独逸時代ト同様商工業ニ何等賦課

一五 中国問題ニ関スル意見書雜纂 六〇一

八、袁ハ今回我國ノ山東鉄道押収ニ関シテ強硬ナル抗議ヲ為スモ其真相ヲ穿テハ彼ハ之ヲ以テ第一、戰後独逸ノ詰責ニ備ヘ第二、參政院其他國論カ外交ノ軟弱及袁ノ無氣力ヲ攻撃スルニ対スル辭柄ト為サントスルニ過キサルモノノ如シ（參政院中ニハ袁政府ノ失政ヲ指摘シテ政權ノ爭奪ヲ為サントスル野心ヲ有スルモノモ少ナカラス）故ニ今後我國ノ對支要求ニ對シテモ袁ハ成ルヘク上掲二点殊ニ其國論ノ攻撃ヲ免レ得ル方法ヲ以テ之カ解決ヲ為スコトヲ欲スルナラント想像セラル現ニ目下外蒙古問題ニ関スル恰克図會議ノ如キモ支那側ノ主張案外強硬ニシテ延テ物議ノ騷然タルニ至ルノ虞アルヲ以テ露國当事者ハ支那政府ニ嚴談シテ今後該會議ノ模様ハ一切秘密ニ附シ之ヲ公表セシメサルコト、セリ故ニ今回我日本カ支那ニ對スル数多ノ重要利權ノ要求ノ如キモ周密ナル用意ト的確ナル手段ヲ尽シ大決心ヲ以テ之ニ臨ムニアラサレハ其成功ヲ期スルコト難カルヘシト信ス

九、前意見書第二要求即チ山東省ニ於テ独逸力有セル各種利權ノ繼承獲得モ亦我國將來ノ為メ極メテ必要ナルコトナレトモ本件ハ自ラ戰後列國會議ニ於テ決定サルヘキ性

税ヲ課セサルコト

專管居留地内ニ於ケル独逸ノ行使シタル土地及一切ノ施物則埠頭、倉庫、ドック、造船所、屠獸場、發電所、諸学校等渾テ日本政府ノ所有トスルコト

本項土地ハ独逸政府ノ買収シタル者ニシテ大連ノ官有地ト同様ナリ主權行使ノ權ト干衝スル所ナシ私有地（元ト独逸政府ノ松_下タル分）^{（元ト独逸政府ノ松_下タル分）}転売ノ益金ノ部合上納金ヲ徵收スル独逸政府ノ収益權ハ当然日本政府ノ所有タルヘキコト

專管居留地外ニ於ケル海軍病院醫院觀測所信号所及付屬建物類官舎等ハ勿論日本政府ノ所有トスルコト

船舶出入ノ統一ヲ計ル為メ膠州灣ノ地内ニ於テハ大小港以外ニ商船ノ出入ヲ許サ、ルコト

港務海港檢疫ハ我ニ於テ之ヲ掌理スルコト

關稅制度ハ現行ノ通トシ稅關長ハ日本人タルヘキコト

發電所屠獸場ハ現在以外ニ設ケサルコト

其必要ニ迫リタリト認ムルトキハ日支協議ノコト

專管居留地ノ必要上計畫シタル水道下水道路ニ関シテハ独逸政府ノ有シタル權利ヲ完全ニ維持スルコト

土地ノ使用料ハ当分半減トスルコト

九二五

青島ノ植林衛生家屋建築等ハ独逸ノ取りタル方針ヲ繼續シ其專管居留地外ニ属スル部分ニ付テハ支那政府ハ日本政府ト協議シテ施行スル責任アル者トス
大小港ノ施設ノ為ニ支那ノ受クル利益多大ナルヲ以テ従前ノ通り輸入税ノ二割又ハ出入税ノ一割ヲ日本政府ニ提供セシムルコト

独逸政府ノ有スル鐵道ノ特許權則チ山東鐵道会社ノ使用權及鉱業權ハ永久之ヲ我ニ納ムルコト殊ニ炭田鉄山^{金嶺鎮ハ}等^{是非我ニ於テ經營スルコト日英協同ヲ避クルゴト}
山東鐵道ヨリ順德及韓莊ノ兩予定線ハ山東鐵道ト共ニ我大連ト密接ナル經濟關係アルカ故ニ是非我ニ讓ラシムルノ要アリ

竜口ノ開港ト同港濰縣間ノ鐵道布設ハ山東開發上必要ナルハ勿論我大連ト山東トヲ連結スル上ニ於テ必要多大ナルヲ以テ此亦我權内ニ収ムヘキモノナリ竜口ノ築港ハ日支兩弁トスルヲ便利トス
黄河及小清河ノ航運ハ魯國ノ黒竜江松花江ニ於ケルカ如ク我權内ニ収ムヘキコト

益県ノ炭田ハ地方庁ト私立会社ノ合併事業ナルヲ以テ之亦

切ノ權利

本項ノ權利ハ日本政府ノ承認アルニ非レハ支那官憲ハ如何ナル形式ニ依ルモ之ヲ制限スルコトヲ得ス

(三)

青島ヲ還付スルニ際シ新ニ支那ニ要求ヲ要スルモノ

- 一、竜口ヨリ山東鐵道ニ連接スヘキ鐵道ノ敷設權
- 二、竜口開港設備ヲ三ヶ月以内ニ為サシムルコト
- 三、山東省内一万人以上ノ城市ヲ開放セシムルコト
- 四、小清河運航ヲ開放セシムルコト
- 五、礦山鑿掘權ヲ開放セシムルコト^{山東省内}
- 六、滿蒙ニ於テ礦區權ヲ認メシムルコト
- 七、滿蒙ニ於テ不動産權ヲ認メシムルコト
- 八、滿蒙ニ於テ住居營業權ヲ認メシムルコト

六〇二 十月六日 對支聯合會

對支根本政策ニ関スル意見書

内秘

對支根本政策ニ関スル意見

(十月八日接受)

我ニ讓ラシムレハ大ニ佳ナリ

山東省一万以上ノ人口アル都邑ハ全部開放セシムルコト
前項ノ内灘界周村濟南ハ最有望ナルヲ以テ商埠地適當ノ処ヲ撰ミ無償租借ヲナシ亦正金銀行ヲシテ濟南青島ニ支店ヲ出シ独重銀行ノ地歩ヲ取ルヘキコト

竜口ヨリ膠州灣ニ至ル一帯ノ沿岸漁業權ヲ取得スルコト
山東西部ハ鉄礦石炭ノ豊富ナル地方ナルヲ以テ日本人ノ往來住居ヲ便宜ニシ以テ礦業着手ノ基礎ヲナスノ必要アリ

(二)

青島ヲ支那ニ還付スルニ際シ本邦ニ留保スヘキモノ

- 一、鐵道ノ政府株
- 二、政府權内ニアル諸礦山又ハ其ノ株
- 三、諸營造物及土地ニシテ政府權内ニアルモノ
- 四、諸建設物^{砲台ハ撤廢ス}ニシテ政府權内ニアルモノ
- 五、埠頭ノ管理及収益
- 六、港灣ノ管理及収益
- 七、租借地内ニ於ケル本邦人ノ住居營業及不動産ニ関シ一

(一) 標準

支那指導ノ實權ヲ占ムル事

(二) 刻下解決スベキ要項

- 一、膠州灣占領ノ効果ヲ確實ニスル事
- 二、山東ヲ中心トセル独乙ノ利權一切ヲ繼承取得スル事
- 三、滿蒙問題解決ノ事

理由

帝國ガ支那擁護東洋平和ノ確保ニ銳意スル一日ノ故ニアラズ然ルニ支那ハ其国力ノ微弱ナルト当局者ノ無定見ナル為メ動モスレバ其領土ヲ侵蝕セラレ延テ東洋ノ禍乱ヲ捲起スルコト一再ニ止マラズ曩ニハ義和團事件アリ或ハ滿洲ヲ犯サレテ日露ノ戰爭ヲ惹起シ或ハ膠州灣ヲ独乙ニ奪ハレテ東洋ノ禍根ヲ遺シ今ヤ又帝國ノ兵力ヲ勞シテ之ヲ驅逐セザルベカラザルニ至レリ而シテ支那ノ現狀ハ革命ノ後ヲ受ケテ列國ノ關係益々複雑ニ陥リ財政ノ窮乏其極ニ達シテ人心離反シ禍乱朝夕ヲ測ルベカラザルモノアラントス此時ニ方リ帝國ガ一時ノ歛心ヲ求ムルガ為メ膠州灣ヲ支那ニ還附スルモ支那ノ國狀現今ノ如クシバ大局ニ於テ何等益スル所ヲ見ザルノミナラズ他日再び他國ノ侵略ニ逢ヒ平和攪亂ノ端ヲ

啓クノ虞ナキヲ保セズ是レ帝国ノ到底忍ブ可カラザル所ニシテ從來支那ニ關係ヲ有スル列国モ亦タ之ニ堪ユル能ハザルベキヲ信ズ

往年帝国ガ日露ノ大戦ヲ敢テシ幾億ノ国財ヲ糜シ幾万ノ鮮血ヲ濺キ露国ヲ驅逐シテ滿洲ヲ支那ニ還附スルヤ其結果ハ東洋平和ノ確保ニ於テ何等効益ナカリシノミナラズ動モスレバ支那人ヲシテ猜疑反抗ノ状ヲ呈セシムルニ至レリ是レ他ナシ対支政策上根本的要諦ヲ得ザルノ致ス所也、独逸ハ世界ノ強国也今ヤ帝国ハ之ト難ヲ構ヘ干戈ヲ交ユルモ尚ホ辞セザル所以ノモノハ其目的亦タ東洋平和ノ為ニ外ナラズト雖トモ之ヲ滿洲還附ノ際ニ於ケルト同様ノ手續ヲ以テ漫然支那ニ還附センカ滿洲還附ト同ジク平和確保ノ大局ニ於テハ何等益スル所ヲ見ザルコト是レ吾人ノ憂慮措ク能ハザル所トナス

要スルニ帝国ガ東洋平和ノ確保ニ任ジ国防ノ安全ヲ期セント欲セバ先ヅ支那ニ対シテ指導ノ実權ヲ占メテ之ヲシテ内外ノ政治ヲ整理シ外列国ノ侵略ヲ免レ内国内ノ安康ヲ図ラシムルノ外アルベカラズ是レ即チ対支政策上ノ根本義タルベキモノニシテ想フニ列国モ亦タ東洋ノ平和商權ノ安固ノ

障ナキヲ認メ及ビ之ガ代償ニ対スル帝国ノ要求ヲ容レタル時ニアラザルヨリハ其時機ニアラザルコト勿論ナリトス

二、山東ニ於ケル独乙ノ利權ハ帝国ガ今回ノ膠州灣攻撃ニ対スル主要ナル戰利ノ一トモ見ルベキモノナリ即チ膠州灣ハ仮令之ヲ支那ニ還附スルニセヨ同時ニ支那ヲシテ之ヲ開市セシメ一方帝国ハ從來独乙ガ所有シタル各利權ヲ繼承取得シ対支通商上ニ於テ充分ニ此戰利の效果ヲ活用セザルベカラズ而シテ此利權中ノ重要ナルモノハ鐵道及鈹山ニシテ内山東鐵道及其沿線鈹坑山ノ自由採掘權ハ表面独支両國人ノ出資会社經營ニ属スト雖トモ其実独乙政府ガ支那政府ヨリ直接許可シ得タル權利ヲ会社經營ノ名下ニ置クモノニ過ギズ其条約、監督、出資等ノ關係ハ彼ノ日露戰役ノ際帝国ニ戰利シタル東清鐵道支線（現南滿鐵道）ノ露国ニ於ケルニ比シ其官營の色彩一層濃厚ナルモノアリ此他津浦鐵道借款竝ニ濟南京漢線間及高密徐州間兩鐵道借款權モ亦タ山東鐵道ト同ジク独乙ガ膠州灣割拠ノ用ニ供スルガ為メ取得セルモノニシテ其目的毫モ前者ト軒輊ヲ見ズ之ヲ帝国ニ收ムルニ於テ何等疑義ヲ挿ム

為ニ喜ビテ之ニ信賴スベク支那ノ国土ハ依テ以テ安全ナラシムルヲ得ベキナリ故ニ対支政策ノ標準ヲ此ニ置キ機ニ臨ミ勢ニ応ジテ其目的ヲ貫徹セシメンコトヲ期ス

刻下解決スベキ要項ニ関スル参考

一、膠州灣占領ノ上ハ之ヲ維持スベキハ勿論ナレトモ万一還附ヲ為サマルベカラザル場合ニハ東洋平和確保上ノ必要竝ニ帝国ノ努力犠牲ニ対スル報酬トシテ充分ナル代償ヲ取得セザルベカラズ特ニ支那ハ独乙ニ対シ膠州灣租借条約本文第一章第五条ニ於テ「将来若シ独乙ノ都合ニ由リ此地永借年限未滿前ニ於テ膠州灣ヲ支那ニ返還スベキ願意ヲ發言スル場合ニ當リテハ支那ハ独乙ニ対シ膠州灣經營ノ為ニ独乙ガ費シタル所ノ諸費用ヲ償還スベク且ツ独乙ノ為ニ更ニ此灣ヨリモ適當ナルベキ地域ヲ割与スベキコトヲ茲ニ契約スルモノトス」トノ特權ヲ与ヘ居レリ故ニ帝国ガ単ニ戰勝ノ結果ニヨリ此条約ニ於ケル特權ヲ繼承スルモ尚ホ充分ノ代償ヲ取得スルノ權利アルヲ信ス

若シ夫レ此灣還附ノ時機ニ至リテハ東洋平和ノ大局ニ支

ノ余地ナシ況ンヤ将来帝国ノ山東ニ於ケル通商の開拓ハ以上ノ諸鐵道ヲ帝国ノ經營下ニ統一セラレテコソ始メテ之ヲ全フスルヲ得ベキモノナルガ故ニ山東鐵道処分ニ當リ此等鐵道ハ決シテ之ヲ分離スベキニアラザルナリ。又タ独亜銀行ノ兌換銀行券發行權及ビ之ニ準ズベキ通商上必要ナル各種ノ利權ヲ繼承スルコト竝ニ此以外山東方面ニ於テ苟モ帝国ノ通商上ニ必要ナル各種ノ便宜特權ニ対シテハ新ニ之ヲ支那政府ニ要求スベシ

三、滿蒙問題解決ノ東洋平和確保上ニ必要ナルコトハ從來本会ノ極力主張シ来リタル所ニシテ今ヤ世界ノ變局ハ帝国ヲシテ益々其急務ヲ感ゼシムルモノアリ故ニ急速之ガ解決ヲ望ム

以上

大正三年十月六日決定

對 支 聯 合 会

六〇三 十月十日 神田正雄

歐洲大戰ノ時局ニ際シ我方ノ執ルベキ對支政策
策二関スル意見

對支那政策私見

序言

曩キニ潜越ヲ顧ミズ卑辭ヲ聯ネテ日本帝國ガ時局ニ際シ將ニ執ルベキ對支那政策ノ根本義ヲ縷述セリ今ヤ一步ヲ進メ稍ヤ具體的ニ其政策ヲ陳述スルノ機ニ到達セルヲ信ズル者也

(一)

回顧スレバ六年前予ハ朝日新聞特派員トシテ始メテ北京ニ入ルノ際當時外務大臣故小村侯ヨリ日本帝國ノ對支那政策ニ関スルノ高見ヲ拝聴セリ侯ハ説クニ支那ノ国情民性ヲ以テシカハ邦國ヲ一衣帶水ニ有スル我が國ハ常ニ和戰兩様ノ準備ヲ以テ之ニ對セザル可カラズト、當時予ハ此語ヲ以テ單ニ外交上ノ名言ト了解セリ、今ニ於テ此ノ語ノ意味深長ナルヲ悟ル即チ

- 一、世界ノ大勢ニ顧ミ更ニ支那ニ一朝乗ズベキノ機會アレバ東洋平和維持ノ為メ我が帝國ハ何等ノ顧慮ナク支那ニ武力的行動ヲ敢テスルノ決心ヲ要ス
- 二、列國ノ意嚮ヲ度外シ且ツ時機到來セザルニ小策ヲ弄シテ支那政策ヲ実行セントスルハ不可ナリカ、

キ機會ヲ与ヘザルベシ從ツテ平和ニ支那ト交渉ヲ為シ此機會ニ日本ガ優越ナル地位ヲ支那ニ占ムルヨリ外策ナシトシ茲ニソノ研究ヲ為スノ必要ヲ感ズ

(二)

平和手段ヲ以テ我が勢力ヲ支那ニ扶植スル上ニ二個ノ方法アリ一ハ正堂堂獨乙ノ勢力ヲ山東省ヨリ驅逐セル後ニ日本ガ支那ニ要求シ得ベキモノニシテ

- 第一 山東省ニ於テ獨乙ノ占有セシ權利ノ繼承
譬ヘバ膠濟鐵道、獨乙經營ノ礦山、獨乙ノ得タル高密徐州間鐵道及ビ濟南彰德間鐵道敷設權等

第二 青島還附ニ付帶シテ要求スベキ條件

- (一) 支那本部ニ各國ノ武力根拠地ヲ貸与セザルヲ確約スル事
- (二) 青島ヲ商港トシテ世界ニ開放シ日英露仏四國ニハ特ニ居留地ヲ讓与スベキコト
- (三) 内地ニ寺院學校ヲ設立シ布教及ビ教育ヲ自由ニ為スノ權利ヲ獲得スルコト

以上ハ普通ノ事項ニシテ特ニ説明ヲ加フルノ必要ヲ認メズ今回日本ガ獨乙ノ勢力ヲ東洋ヨリ驅逐セル報酬トシテ最少

ル場合ニハ斷ジテ平和ノ政策ニ於テ日本ノ對支那政策ヲ進行セシムベシ

而モ顧ミテ今日ハ對支那政策ニ兩者併用スベキノ時ナルヲ思フ者也

(二)

第三國ノ干涉ナク武力ヲ以テ支那ニ臨ムノ機會アラバ日本ガ東亞ノ盟主トナリ四百余州ニ号令スル決シテ難事ニ非ラズ又タ支那人ガ數年ヲ出デズシテ日本人ノ勢力ノ下ニ帰服スルコト恰モ清朝ノ明朝ニ代レルト等シカルベキモ現在ノ支那当局袁總統ヲ始メ日本ノ實力ヲ充分ニ認メツ、アリ容易ニ輕挙妄動シ乗ズベキノ機會ヲ作ル如キナキハ今回山東鐵道管理權ヲ日本ニ移サシムル交渉當時ノ内幕ニテ明カナリ自他ノ實力ヲ識ラザル少壯政治家及ビ軍人ノ排日論議ヲ排シテ相當ノ牀面ヲ保ツ條件ノ下ニ日本ノ要求ニ從フノ止ムヲ得ザルヲ首唱セシハ袁總統ナリ政事堂ノ反對國務總長ノ不服モ直チニ同意セシメ盛ニ排日氣焰ヲ揚ゲタル參政院ノ決議ヲ有耶無耶ニ葬リ日支兩國ノ武力衝突ヲ避ケシメタルハ当局者ノ明ナリサレバ此際日本ノ有理ノ要求ニ對シテハ支那ハ一々認諾シ日本ニ武力解決ヲ余儀ナクセシムル如

限ノ要求ナレバ英仏露ハ勿論支那モ不服ヲ唱フル無キヲ信ズルモノナリ第二ノ方法即チ此際ニ於テ支那ト秘密條約ヲ締結シ兩國ノ關係ヲ事實上密接ナラシメ支那ニ於ケル日本ノ位置ヲ高ムルノ方法ニ関シテハ特ニ詳説スルノ必要ヲ感ズルモノナリ

(四)

秘密條約締結ニ関シテハ前キニ提言シ多少誤解ヲ招キタルモ支那ノ國民性ヨリシテ秘密條約ヲ以テスルハ同一結果ヲ齎ラス上ニ難易ノ差非常ナルモノアリ、譬ヘバ茲ニ滿洲租借地ノ期限延長ヲ交渉スル場合ニ於テ是ヲ正面ヨリ條約ヲ結ブト裏面ヨリシテ最初一二年ヲ秘密條約ノ形式トシテ當局者間ノミニ契約ニ止ムルトハソノ成功ノ難易同日ノ談ニヨラズ之レ支那人ガ体面論ニ拘泥スル結果ニシテ是ヲ巧ミニ利用スルハ對外交上ノ秘訣ナルヲ信ズルモノナリ特ニ支那人ニ真ニ愛國至誠ナキ結果トシテ一兩年ヲ経テ利權ノ喪失發覺スルモ國民ノ反對大ナラズ又タ当局者モ今日ノ有様ニテハ朝ニタヲ計ラレザル狀況ニテ自己ノ局ニ在ル間其信用ヲ失墜セザルヲ得バ満足スト云フ有様更ニ極言セバ位ニアルノ間ニ自己一一生ノ計乃至子孫ノ計ヲ為サン為メニ汲

々タルノ徒比々皆然リト称スルモ誣言ニアラズ、此等ノ大官ニ喰ハスニ利ヲ以テセバ忠君愛國ノ節義強キ日本人ノ予想以外ニ実行容易ナルモノアルベシ

然リ如何ニ利ヲ以テ当路ヲ誘ヒ結ブ所ハ秘密ニ付スルトスルモ何等カノ根蒂ナクシテ是ガ談判ノ端緒ヲ得ザルベク又タ支那当局如何ニ魯愚ト雖モ全然片務ノノ条約締結ニ応ゼザルハ明ラカナリ茲ニ於テ一顧ヲ現支那ノ状況ニ払フニ内乱ノ恐怖ト財政ノ窮迫ニ大欠陥ハ常ニ為政者ヲ苦惱セシメツ、アリ、日本ニシテ若シ此ノ二点ニ就テ一臂ノ力ヲ貸スノ法案アラバ恐ラクハ代償トシテ相当ノ地歩ヲ支那ニ占ムルヲ得ベシト思惟スル者也

(戊)

支那少壮士官中又タ裏面ノ觀察ニ乏シキ外人等ハ支那兵ノ外觀ノ改良ト形式的動作ノ整頓ニ魅セラレ支那兵決シテ昔日軟弱ノ支那兵ニ非ラズト称スルモ支那軍隊ノ實力ナルモノハ専門家ノ講評ヲ待タズ無価値為スナキハ一般ノ知ル所最近ノ実例ヲ以テスルニ僅カニ二千ニ足ラザル白狼匪ノ討伐ニ五万ノ大軍ヲ動カシ而モ約一年ノ長日月ヲ費シ漸ク平定ノ功ヲ奏シタルニ徴スルモ如何ニ無能力ナルカヲ証明シ

局ニ於テ欧米列國ガ直接支那ニ援助ヲ与フルノ夢想ナリシヲ悟リ将来ノ大局ニ処シテ日本ト相依リ相救フノ根本義ニ總テノ政策ヲ置カザルベカラザルヲ言明セリ其他外交次長曹汝霖氏始メ日本留学出身ノ少壮政治家中熱心ニ兩國真ノ提携ヲ希図スルモノ少ナカラズ機ハ漸ク熟シツツアルナリ

(己)

内乱ノ鎮圧及ビ財政ノ援助ト云フ其甚タ藐トシテ其ノ範圍ヲ知ルニ苦ム兩者共ニソノ範圍ヲ無限大トセバ支那ヲ合邦シテ初メテ云フベク又ハ最少限トスルモノ一々内乱鎮圧ノ責ニ当ルトセバ事容易ニアラズ予ハ今日支那ノ現況ニ照シテ此内乱鎮圧ハ半ニ保証ノミニテ十分ノ効果ヲ挙げ得ベク又タ支那モ他國ノ後援ナキ内乱ハ現政府克ク之ヲ防圧スルノ力倆アルヲ信ズルモノナリ要スルニ中華民國ノ基礎強固トナルノ日マデ日本ハ東洋平和貿易保護ノ見地ヨリ支那ノ為メ警察ノ任ニ服スルヲ約スルモノニテ一見不見識ノ如キモ名ヲ棄テ、実ヲ得ント欲セバ敢テ自カラ卑ムニ足ラザルベシ財政救済ニ就テハ日本ノ貧國ヲ以テ到底之ニ当リ難キヲ感ズルモ日本議會ハ今回ノ戦費五千万円ノ予算ヲ即決シタ

テ余リアリ而モ一時的雇兵ノ觀アルヨリ一朝給与ヲ欠ク場合ノ如キ無規律無節制掠奪ハ兵士ノ常ト心得居ル有様今日政府ノ親兵ハ給与ノ多寡ニヨリ明日ハ敵ノ從卒ト化スル如キ決シテ稀ナラズサレバ一朝有力者革命ノ旗ヲ挙げ暮年ヲ支フルヲ得バ四隣響應意外ノ成功ヲ博スルハ第一次革命是ガ好例タリ軍隊ノ為ス無キト雷同性ノ民性ナルヲ知ル当局ハ常ニ外患ハ勿論内乱ニ就テ戦々兢兢タル実情ニ在リ

袁總統ガ心ナラズ親日ヲ説キ且ツ日本ノ要求ニ屈服スルモノ心ヨリ日本ヲ敬スルニアラズ目下支那ノ内乱ヲ活殺自在ナラシムルヲ得ルモノ日本ナルガ故ナリ若シ日本ハ此際ニ於テ斷乎トシテ袁總統ニ説クニ内乱鎮圧ハ日本之ヲ保証スベキヲ以テシ更ニ支那ガ欧米ヨリ融通ヲ仰グ能ハズシテ日ニ窮迫シツツアル財政ニ向テ救済ノ途ヲ講ジ真ニ東亞ニ於テ共済ノ誼ヲ結ブノ決心ヲ示サバ今日ノ場合支那ハ快諾セザルトスルモ是ニ応ズルニ吝ナラザルベシ

現ニ予ハ此私見ヲ呟スルニ際シ特ニ現在支那ニ於ケル辣腕政治家梁士詒氏ト二時間余前總理能希齡氏ト一時間余ノ会见ヲ為シ兩國ノ聯絡ニ関スル意見ヲ叩ケリ、予ハ具體的ノ案ヲ示シテ賛否ヲ求メタルニアラザルモ兩氏共ニ今回ノ時

ルニ非ラズヤ此見地ヨリセバ一層大ナル目的ノ為メニ剰余金ノ一部五千万円ヲ支那政策ノ為メニ流用スル敢テ為シ難キニアラズト思惟ス、金額ニ多少ノ差アルモ大治ノ鉄山ニ向テ日本ノ投資ガ今日如何ニ我が國ヲ利益シツ、アルヤヲ顧ミルモ機會ノアル毎ニ英斷ヲ以テ國利民福ノ根蒂ヲ築キ置クヲ必要トスベシ叙上ノ所説仮リニ採納セラレタリトシテ吾人ガ秘密條約ヲ以テ支那ヨリ獲得セントスル所ノ利權ナルモノハ如何

(七)

秘密條約ノ内容ハ複雑ニシテ或点ハ専門家ノ示導ヲ待ツニアラザレバ輕々ニ明言シ難キモノアルモ項目ハ頗ル簡單ナリ

- 第一 兌換紙幣發行ノ權アル日支實業銀行設立
- 第二 南滿洲及ビ東部蒙古ノ処分
- 第三 軍器同盟ノ締結

第一ハ熊希齡氏ガ日支實業銀行設立ヲ以テ兩國平和連絡ノ最大急務ト説カレタルニ胚胎シタルモノニシテ熊氏ノ希望ヲ其儘トセバ秘密條約トスル必要ナキモ兌換紙幣發行ノ特權ヲ得ルトセバ他國トノ關係上暫ク之ヲ秘密契約トスル必

要アリ梁士詒氏ハ此特權ハ支那政府トシテ容易ニ与ヘ難シ
ソノ案ニ賛成ナルモ此点ニ疑念ヲ挿マレタリ且ツ漏ス所ニ
ヨレバ氏ガ總裁スル交通銀行ノ如キハ準備金ノ約五倍ノ兌
換紙幣ヲ發行シツ、アリ此ノ実例ヨリシテ日本ト共同銀行
ニ兌換券發行ヲ許サバ遂ニ財政ノ全權ヲ日本人ノ手ニ収メ
ラル、ヲ恐レタルナリ予ガ信ズル終局ノ目的実ニ茲ニ在リ
梁氏ガ劈頭ニ是ヲ懸念セルハ敬服セル処ナリ然レドモ最初
兌換紙幣ノ發行ヲ見合ストスルモ現ニ外国銀行ハ信用ヲ以
テ之ヲ發行シツ、アルモノナレバ相当ノ資本金ノ下ニ支那
全国各省都及ビ開港場ニ支店ヲ設ケ日本人ノ嚴格ナル管理
ノ下ニ銀行ヲ經營スルニ至ラバ中央交通兩銀行ニ優ル信用
ヲ得ルニ至ルハ明カニシテ次テ支那政府ハ國庫金ノ出納亦
タ此銀行ニ依頼スベキハ支那政府ガ最初海關ヲ外人管理ニ
移スヲ拒ミツ、今日ソノ成績ヲ謳歌シ近ク塩税ノ管理ヲ外
人ニ委スルニ反對シツ、今日ハソノ良果ニ敬服スル如ク銀
行業ノ如キモ成績如何ニヨリテ日本ガ支那財政ノ基本ヲ把
握スル望ナキニアラザルベシ
而モ此銀行ヲ通ジテ各省各種ノ實業ニ手ヲ染ムル事トセバ
ソノ利益計ルベカラザルモノアラシ先ツ一例ヲ以テセバ

北京 神田正雄 再拜

〔欄外註記〕

〔神田正雄氏ヨリ大臣宛提出（大正三年十月十五日接受）〕

六〇四 十月二十九日 黑竜會

對支問題解決意見

極 秘

對支問題解決意見

(一) 歐洲戦局ト對支問題

歐洲ノ戦乱ハ有史以來未曾有ノ大戰ニシテ啻ニ歐洲ノ均
勢ヲ一変スベキ動機タルノミナラズ其結果世界ニ於ケル國
際政局ノ新紀元ヲ劃スベキ一大転機タラズンバアラズ。而
シテ我帝國ガ東亞問題ヲ解決シテ國家百年ノ大計ヲ樹立ス
ルト否トハ善ク大勢ノ趨ク所ヲ順導シテ進取ノ國是ヲ恢暢
シ對支政策ハ大方針ヲ確定シテ之ヲ実行スルト否トニ在
リ。万一我當局者及國民ニシテ此戦局ヲ視ルコト對岸ノ火
災ヲ視ルガ如ク彼ノ膠州灣攻撃ニ汲々トシテ戦後ノ大勢ニ
對シ之ガ注意ヲ懈ルガ如キアラバ國家百年ノ大計ヲ誤ルコ
ト蓋シ是ヨリ大ナルハ無ケン。是レ吾人ガ今日特ニ鄙見ヲ

一、日支共同事業トシテ各都市ノ電氣事業獲得
(此ノ案ニ関シテハ支那交通部顧問中山竜次氏ノ調査
報告アリ参照ヲ乞フ)

二、各地礦山共同開掘
三、製造工業共同開始
四、煙草專賣共同經營
右ノ外各種ノ實業ハ此ノ銀行ヲ通ジテ着手スルヲ得ベシ
第二南滿洲及ビ東部蒙古ノ処分ニ就テハ此機會ニ於テ旅順
大連及ビ鐵道地帶租借期ノ延長及ビ同地ニ於テ日本人ニ土
地所有權及ビ礦山開掘ヲ許スノ密約ヲ締結スルヲ得バ可ナ
リ
第三ノ軍器同盟ヲ結ブニ成功セバ日本ガ遠キ將來ノ為メ万
全ノ策ヲ決スルモノソノ希望到達ヲ欲スルモノ也

結 論

記述シ来リ筆ヲ投ズルニ際シ尚ホ言辭足ラザルヲ憂フタマ
多忙寸暇ナキ閣下ノ清覽ヲ仰グニ冗漫ヲ恐レ簡略ヲ力メ意
ノ通ゼザル所アラバ幸ニ諮詢ヲ垂レラル、ヲ得ン乎卑見再
ビ尊嚴ヲ冒瀆ス恐懼謹言

大正三年拾月拾日

開陳シテ當局者ノ猛省ヲ乞ハザルヲ得ザル所以ナリ。吾人
豈弁ヲ好マン哉。憂心忡々洵ニ已ムヲ得ザルモノアレバナ
リ。

歐洲戦局ノ結果如何ハ勿論今日ニ於テ予断スルコト能ハ
ザルモノアリト雖モ若シ仮リニ露仏英白ノ聯合軍利アラズ
獨塊聯合軍ノ勝利ニ歸シタリトセバ獨逸ノ武力ハ歐洲大陸
ヲ圧迫スルト同時ニ東南洋ニ及ボス所ノ影響甚ダ大ナルコ
トヲ思ハザル可カラズ。之ニ反シテ獨塊敗績シ勝利ノ運命
露仏英白ノ聯合軍ニ歸シタリトセバ「カイゼル」ハ獨逸聯
邦盟主ノ位置ヲ喪ヒ聯邦分立シテ普國ハ降リテ二等國ト為
リ獨逸ハ潰裂シテ如何ナル境遇ニ陥ランモ未タ知ルベカラ
ザルナリ。之ト同時ニ露國ハ「ガリシヤ」及獨逸波蘭ノ全
土ヲ得仏國ハ「アルサス」「ローレン」ノ二州ヲ復シ英國
ハ亞弗利加及南洋ノ獨領植民地ヲ占ムベク塞爾比及「モン
テネグロ」ハ「ボスニヤ」「ヘルツゴウキナ」並ニ獨逸領ノ
一部ヲ獲得スベク随テ歐洲地圖ノ彩色ヲ一変スベキコト千
八百十五年拿破崙戰後ニ於ケル歐洲変局ノ比ノミナラザル
ベキナリ。

豈啻ニ歐洲局面ノ變化ノミナランヤ。東南洋殊ニ支那大

陸ノ形勢モ亦之ト同時ニ大変化ヲ生ズベキコトヲ知ラザル可カラズ。独塊失敗ノ場合ニハ露国ハ独逸ニ代リテ歐洲大陸ノ覇權ヲ占ムベキハ勿論今後若干年間西顧ノ憂ナキヲ以テ戦後瘡痍ノ癒ユルト同時ニ東方ニ於ケル進取力益ス膨脹シ支那大陸ノ覇權ヲ占メズンバ止マザルベシ。英国ハ戦後新捷ノ勢ニ乗ジテ揚子江流域ニ扶植シタル勢力ヲ拡張シ緊握シ他国ノ指ヲ其間ニ染ムルヲ許サルベク仏国モ亦雲南方面ヨリ中原ニ進出シテ其利權ヲ伸暢スルコトヲ懈ラザルベシ。而シテ吾人ノ茲ニ深ク注意セザル可カラザル問題ハ他ニアラズ英露仏ノ協働の勢力ガ独リ歐洲ノミニ止ラズ將來支那大陸ニ波及センコト即チ是ナリ。

英露仏ノ協働提携ガ果シテ今回ノ戰爭中ニ止マルベキ乎將タ戦後若干年間永続スベキ乎否ヤハ今日之ヲ予言スルコト能ハズト雖モ歐洲ノ局面一旦平和ニ歸スル以上ハ英露仏ノ勢力益ス支那大陸ニ進入シ來ル時ナラザル可カラズ。而シテ支那大陸ニ於ケル英露仏ノ勢力範圍各劃定セラレツ、アル今日其利害必ズシモ衝突スルモノニ非ザレバ支那問題ヲ解決スルニ英露仏ノ提携ヲ必要トスルニ於テハ彼等ガ相提携シテ協働の態度ニ出ツベキハ必至ノ勢ナルベシ。

在ルノミ。是レ吾人ガ對支問題ヲ解決スルニ於テ百載再ビ獲易カラザル大有為ノ機會ト為ス所以ニシテ帝國ノ天職ヨリ云フモ支那ノ現勢ヨリ云フモ宜シク之ヲ今日ニ断行セザル可カラズト為ス所ナリ。苟モ我当局者ニシテ此大有為ノ機會ヲ逸シ去ルガ如キアラバ對支問題ノ前途ハ益ス困難ヲ感ジ戦後ノ日本ハ彼ノ歐洲大陸ノ間ニ孤立シテ列國ノ嫉視ヲ買ヒツ、アル獨國ト同ジク東方ニ孤立スルノ時アルヲ覺悟セザル可カラズ。而シテ對支問題ヲ解決シテ牖戸ノ網繆ヲ図ルハ是レ豈今日ニ於テ万々已ムベカラザルノ急務ニ非ズシテ何ゾヤ。

(二) 對支問題ト国防協約

今日ニ當リ我政府ニシテ帝國ノ天職ニ鑑ミ對支問題解決ノ英斷ニ出デント欲セバ支那ヲシテ我ニ信頼セシムルヨリモ寧ロ支那ヲシテ我ニ信頼セザルヲ得ザラシムルノ政策ヲ執ルヲ要ス。而シテ支那ヲシテ我ニ信頼セザルヲ得ザラシムルノ道ハ他無シ我帝國ガ自ラ進ミテ支那ニ對スル政治的經濟的優越ノ實權ヲ占メ儼然之ヲ指導スルニ在ルノミ。苟モ我帝國ニシテ政治的經濟的優越ノ立脚地ヲ占メント欲セバ宜シク先ヅ今日ノ機會ヲ利用シ支那ト国防協約ヲ締結セ

英露仏ノ協働の勢力ニシテ果シテ支那大陸ニ圧迫ヲ加ヘ來ルニ於テハ我帝國ハ如何ナル方針政策ヲ以テ之ニ応ズベキ乎。如何ナル方法手段ヲ以テ其利權ヲ伸暢シ其勢力ヲ維持シ競争場裡ニ馳驅スベキ乎。今日ニ當リテ歐洲戦局ノ結果ニ鑒ミ戦後大勢ノ趨ク所ヲ察シ予ジメ之ニ応ズルノ方針政策ヲ確定シ最善ノ方法手段ヲ講ズルニ非ザレバ我帝國ハ支那問題ニ對スル主働的地歩ヲ失シ其外交ハ永ク列國勢力ノ掣肘スル所ト為リ東方ノ平和頗ル危険ノ状態ニ陥ルヲ免レザルベク帝國ノ安危存亡亦未ダ知ル可カラザルナリ。而シテ我政府ハ今日果シテ如何ナル方針ヲ以テ戦後ノ大勢ニ応ゼントスル乎。如何ナル準備ヲ以テ列國ノ協働の勢力ニ応ゼントスル乎。如何ナル政策ヲ以テ對支問題ヲ解決セントスル乎。是レ吾人ガ今日之ヲ我政府当局者ニ質サルヲ得ザル第一要諦ナリ。

蓋シ歐洲ノ戦局終結シ平和克復ノ暁ハ独塊ト露仏英トノ勝敗如何ニ関セズ歐洲の勢力ノ益ス東亞大陸ニ膨脹シ來ルベキ時ナルヲ思ヘバ我帝國ガ其以前ニ於テ予ジメ其圧力ヲ未然ニ制セザル可カラズ。而シテ其圧力ヲ未然ニ制スルノ策ハ急速ニ對支問題ヲ解決シ東方平和ノ基礎ヲ確立スルニ

ザル可カラズ。今試ニ国防協約ノ私案ヲ掲グレバ即チ左ノ如シ。

国防協約私案

我日本帝國ハ支那獨立ノ主權ト領土保全トヲ尊重シ東亞全局ノ平和ヲ維持スルコトヲ希望シ支那ト共同シテ支那ノ内乱及外寇ヲ防衛スルノ義務ヲ負ヒ支那ハ日本ノ国防施設ニ特殊ノ便宜ヲ与ヘ又日本ハ特殊ノ利益ヲ保護センガ為ニ左ノ協定ヲ締結スベシ。

- 第一 日本ハ支那ニ於テ内乱アリ又支那ガ外國ト戦ヲ宣スル場合ニハ日本軍ヲ以テ之ニ応援シ領土ノ防衛秩序ノ維持ニ任スベキ事
- 第二 支那ハ日本ノ南滿洲及內蒙古ニ於ケル優越權ヲ認メ其統治權ヲ日本ニ委任シ国防上ノ基礎ヲ確立セシムベキ事
- 第三 日本ハ膠州灣占領ノ後從來獨國ノ占有セル鐵道鉞山其他一切ノ利權ヲ占有スベク又青島ハ平和克復ノ後支那ニ還附シ之ヲ開放シテ世界ノ貿易市場ト為ス事
- 第四 支那ハ日支海防ノ必要ニ応ズル為メ福建省沿岸ノ

要港ヲ日本ニ租借シ日本海軍ノ根拠地ト為スヲ諾シ
同時ニ同省内ニ於ケル鐵道布設權並ニ鈛山採掘權ヲ
日本ニ与フベキ事

第五 支那ハ陸軍ノ改革並ニ軍隊ノ教練ヲ挙テ日本ニ委
任スベキ事

第六 支那ハ兵器ノ統一ヲ保タンガ為ニ日本ノ兵器ヲ採
用シ同時ニ兵器製造所ヲ或ル枢要ノ地ニ設置スベキ
事

第七 支那ハ漸次海軍ノ復興ヲ図ランガ為ニ海軍ノ建設
並ニ教練ヲ挙テ日本ニ委任スベキ事

第八 支那ハ財政ノ整理税制ノ改革ヲ日本ニ委任シ日本
ハ適當ナル財政家ヲ選拔シテ支那政府ノ最高顧問タ
ラシムベキ事

第九 支那ハ日本ノ教育家ヲ招聘シテ教育顧問ニ任ジ又
日本語学校ヲ各地ニ設置シテ人文ノ啓発ヲ図ルベキ
事

第十 支那ハ外国ト契約ヲ締結シテ借款ヲ起シ又ハ土壤
ヲ租借若クハ割讓スル場合又外國ト宣戰講和ノ場合
ハ予ジメ日本ト協議シ其同意ヲ得ル事。

間ニ我目的ヲ達セントスルハ百年河清ヲ待ツト一般到底恃
ムベクシテ恃ムベカラザルハ智者ヲ待テ而シテ後知ラザル
ナリ。

且支那ハ歐洲大戰ノ結果トシテ米國ヲ除キ歐洲列國ノ圧
力弛ブト同時ニ外國ノ借款モ亦タ望ム可カラズ。内ハ國庫
窮乏シテ官吏ノ俸給軍隊ノ經費モ支弁スル事能ハズ土匪之
ニ乗ジテ窮民ヲ煽起セントスルノ虞アリ外ハ革命党ノ機ヲ
窺フアリ。烽火一たび起レバ外國ノ後援ナキ袁世凱ノ政府
ハ到底独力ヲ以テ内乱ヲ戡定シ全國ヲ統一スル事能ハズ四
分五裂殆ど收拾スルニ遑アラザルハ勢ノ觀易キ所ナリ。此
時ニ當リ我日本ハ果シテ袁政府ヲ擁護シテ内乱戡定ノ任ニ
當リ我要求ヲ容レシムベキ乎。將タ革命党ヲ援助シテ其事
業ヲ成サシメ同時ニ我目的ヲ貫徹セシムベキ乎。是レ宜シ
ク今日ニ於テ予ジメ之ガ方針ヲ一定シ実行方策ヲ進メザル
可カラズ。

我日本ニシテ支那將來ノ機運ヲ洞察スルコト能ハズ目前
ノ弥縫ヲ事トシ漫然袁世凱ノ政府ヲ擁護シ國防協約ヲ締結
シ飽迄モ革命党ヲ压迫スルノ政策ニ出デタリトセン乎左ナ
キダニ信望地ニ墮チタル袁世凱ニ對シ支那多數ノ人民ハ以

國防協約ニシテ成立シ日支提携ノ実ヲ挙ゲ我日本ガ支那
ノ為ニ其國防ノ安全ト秩序ノ維持トニ任ジ支那政府ヲシテ
後顧ノ虞ナク奮テ改革ノ事業ニ着手セシムル以上ハ領土ノ
保全國運ノ復活期シテ待ツベク随テ他日歐洲ノ戰局終結シ
平和克復ノ後列強ノ圧力支那大陸ニ加ハリ來ルトモ決シテ
恐ルハニ足ラズ東方永遠ノ平和始メテ確保シ得ベキナリ。

然レトモ國防協約ヲ締結スルニ當リ先決問題トシテ其當
ニ講究セザル可カラザル要件ニアリ。其一ハ支那政府ニ對
スル干繋是ナリ。其二ハ支那ト密接ナル利害ヲ有スル列國
ノ干繋是ナリ。支那政府ニ對スル干繋ニ就テハ我日本ハ主
權者タル袁世凱ノ位置ガ果シテ永續シ得ベキヤ否ヤ。其政
府ノ政策ガ果シテ國民ノ信望ヲ繋ギ得ベキヤ否ヤ。袁世凱
ガ果シテ我政府ノ交渉ニ応ジ容易ニ國防協約ヲ締結シ我ト
提携シ得ベキヤ否ヤヲ察セザル可カラズ。而シテ之ヲ從來
ニ於ケル袁世凱ノ態度ニ徵スルニ彼ハ權謀術策ヲ以テ外交
ノ秘訣ト為シ表面好意ヲ我ニ表スルモ其実列國ノ勢力ヲ援
キテ我ニ背キ容易ニ我要求ニ応ズルノ意志ナカルベキハ單
ニ對独宣戰以來其我ニ對スル經過ニ徵スルモ明白ナル事實
ナルノミナラズ今日尋常一樣ノ方法手段ヲ以テ尊俎折衝ノ

テ壳國ノ所為トシ攻撃蜩集國論沸騰假令日本ノ声援アルト
モ袁政府ノ位置ハ却テ困難ニ陥リ到底其崩壞ヲ免レザルベ
シ。

且袁世凱モ亦タ本來權謀術數ヲ主トスル政治家ニシテ假
令一時日本ノ歛心ヲ買ハンガ為ニ親日的態度ニ出ルトモ歐
洲大戰終結ノ曉ニ會セバ我ニ背キテ列國ニ頼ラントスルハ
彼ガ已往ノ歴史ニ徵シテ殆ど疑ヲ容レザル処ニシテ今日我
日本ガ支那民衆ノ趨勢ヲ無視シ袁世凱ヲ擁護シテ之ト共ニ
對支問題ヲ解決ヲ図ラントスルハ全然策ノ得タルモノニ非
ザルナリ。故ニ今日東亞永遠ノ為ニ謀ルニ我日本ハ現在ノ
支那政府ニシテ永續スルノ望ナク之ヲ擁護スルニ足ラズ又
我目的ヲ達スベカラズトセバ寧ロ進ミテ四億民衆ノ後援ト
為リ腐敗セル支那政府ヲ改造シ其政体ヲ变革シ其秩序ヲ維
持シ國運ヲ復活シ之ヲシテ我ト共ニ唇齒輔車ノ実ヲ挙ゲシ
ムルニ若クハ無ケン。蓋シ支那復活ハ日支同盟ノ根本ニシ
テ日支同盟ハ戰後ニ於ケル列國東亞防禦ノ基礎ニシテ世界
平和ノ基礎タレバナリ。我日本タルモノ之ヲ如何ゾ速ニ最
後ノ覺悟ヲ決シ以テ此問題ヲ解決セザルヲ得ンヤ。

我帝國ガ支那民衆ノ後援ト為ルニ就テ要訣アリ。即チ彼

ノ革命党宗社党ヲ首トシ其他ノ不平党ヲシテ到處ニ蜂起セシメ一旦其国内ヲシテ混乱ノ状態ニ陥ラシメ袁政府ノ土崩瓦解スルニ及ビテ我ハ四億民衆中ヨリ其最トモ信用アリ声望アルモノヲ援助シ擁護シ之ヲシテ政府改造国家統一ノ業ヲ成就セシメ我軍隊ニ由テ安寧秩序ヲ回復シ国民ノ生命財産ヲ保護スルニ至ラバ人民悦服シ政府始メテ我ニ信頼スベク国防条約ノ締結容易ニ其目的ヲ貫徹シ得ベキナリ。而シテ我ニシテ革命党及不平党ヲ蜂起セシメント欲セバ今日ハ容易ニ得ベカラザル最好機會ナリ。唯ダ現在革命党及不平党ノ起ツベクシテ未ダ起タザル所以ノモノハ一ニ資力ノ足ラザルガ為メニ外ナラザルガ故ニ我帝国ニシテ窃ニ之ニ貸スニ其資力ヲ以テセバ假令些少ノ助力ト雖モ彼等ヲシテ一斉之ヲ蜂起セシメ其国内ヲシテ一時混乱ノ状態ニ陥ラシムベキコト誠ニ容易ノ業ナリトス。況ンヤ欧洲戦局ノ進捗益ス日本ノ覚悟ヲ促シ大局ノ解決ヲ図ラザル可カラザル勢ニ在ルニ於テオヤ。是レ豈ニ我帝国ガ此機會ヲ利用スルニ於テ逡巡躊躇スルコトナク又徒ニ彼等ガ自然ノ蜂起ヲ待ツコトナク一刻モ早ク其方法手段ヲ講セザル可カラザル時ニアラズヤ。

別ニ宗社党中ヨリ有為ノ人物ヲ推選シテ君位ヲ蹈マシムベキ乎。或ハ革命党中ヨリ有徳者ヲ挙テ君主タラシムベキ乎。此等ノ問題ハ大局ノ發展上便宜之ニ処スベキノミ。要スルニ日支提携ノ政策ヲ実行スルニ於テ支那ノ共和政体ヲ一変シテ立憲君主政体ト為スハ支那改造ノ根本義タルコトヲ知ラザル可カラズ。

列国ニ対スル干渉ニ就テハ日本ガ支那ニ於ケル列国ノ既得權ヲ侵害セザルハ勿論此際ニ於テ特ニ露國ト妥協シ滿蒙ニ於ケル日露ノ勢力境界ヲ劃定シ以テ將來兩國ノ提携ヲ図ルコト最モ肝要ナリトス。即チ日本ガ南滿洲及内蒙古ヲ挙テ委任統治權ヲ取得スルニ於テハ露國ニ与フルニ北滿洲及外蒙古ノ委任統治權ヲ以テシ互ニ其均勢ヲ維持シ東方ノ平和ヲ担保スルニ努ムベシ。今ヤ露國ハ欧洲戦局ノ為ニ日本ニ対スル從來ノ感情ヲ一擲シ同盟國以上ノ態度ヲ以テ好意ヲ我ニ表シツ、アルノミナラズ從來トモ滿蒙問題ニ対シ却テ之ガ解決ヲ我ニ要望シ居リタルモノナルガ故ニ彼ガ對支問題ニ就テ我日本ノ提議ニ応ジテ妥協スベキハ疑ヲ容レザルナリ。

英國ノ支那ニ於ケル勢力圏及利益圏ハ主トシテ西藏及揚

若シ夫レ支那ノ政体ヲ考フルニ現在ノ共和政治ハ果シテ其国情ニ適スベキ乎。果シテ支那固有ノ思想ニ適スベキ乎。果シテ今日多數民衆ノ人心ニ適スベキ乎。之ヲ中華民國建設ヨリ今日ニ至ルマテノ經過ニ徴スルニ国政統一失望禁スル事能ハザルモノ二三ニシテ足ラザルナリ。是レ其事實ハ共和政治ノ主唱タル革命党ト雖モ尚且之ヲ認メツ、アル所ナリ。而シテ支那ノ共和政体ハ將來日支提携ヲ図ルニ於テ一大障碍ト為ルモノアリ。他無シ共和政体ト立憲君主政体トハ其根本ニ於テ倫理道德ノ標準ヲ異ニシ制度法律亦頗ル相背馳スルモノアルヲ以テ日本ガ支那ヲ指導シ支那ガ範ヲ我ニ取り日支提携シテ東亜問題ヲ処理スルニ於テ桎鑿相容レザルモノアレバナリ。故ニ根本的ニ支那政府ノ改造ヲ図リ日支ノ提携ヲ策シ東方永遠ノ平和ヲ維持シ国家百年ノ大計ヲ立テント欲セバ今日ノ機ニ乗ジテ支那ノ共和政体ヲ變革シ之ヲシテ立憲君主政体ト為シ日本ノ立憲君主政治ト粗ボ其形式ヲ同一ナラシメザル可カラズ。而シテ是レ實ニ支那政府改造ノ根本的第一義ナリトス。若シ夫レ支那ヲシテ共和政体ヲ一變シ立憲君主政体タラシムルニ於テ其推選スベキ君主ハ宣統皇帝ヲシテ復位セシムベキ乎。或ハ

子江流域ニ在ルガ故ニ日本ハ支那ト共ニ西藏問題ヲ解決シ且揚子江方面ニ於ケル利益及權利保護ノ保証ヲ英國ニ与フル以上ハ英國トテモ強テ日本ノ對支政策ニ反對セザルベシ。否仮ニ英國ニシテ我日本ノ態度ニ反對セント欲スルモ欧洲戦局ノ為ニ日本ノ声援ヲ乞ヒツ、アル今日勢之ニ反對スルコト能ハザルベシ。

露英兩國ノ態度ニシテ我日本ノ對支政策ニ反對セザル以上ハ仏國ノ態度モ亦推シテ知ルベキノミ。但タ我日本ノ少シク慮ラザル可カラザルハ米國ノ態度ナリト雖モ我對支政策ニシテ支那ノ領土保全機會均等主義ヲ声明シ米國ノ既得權ヲ侵害セザル限リハ米國モ亦我ニ對シテ異議ヲ挾ムノ余地無ケン。否米國ノ東方ニ於ケル海軍ノ稍恃ムベキアルノミニシテ殆ド其恐ルベキヲ見サル以上ハ我日本ハ米國ノ態度ニ顧慮スルノ必要無カルベシ。

支那ノ狀勢已ニ此ノ如ク列國ノ對支干渉亦彼ガ如シ。我日本タルモノ宜シク欧洲大戰ノ起ルト同時ニ對支政策ノ方針ヲ確定シ支那政府ノ改造ヲ図リ国防協約締結ノ方策準備ヲ進メザルベカラザリシナリ。然ルニ現内閣ノ外交タル對支政策ノ根本方針ヲ決セズ卒然トシテ英國ノ交渉ニ応ジ辛

然トシテ戰ヲ独逸ニ宣シタリ。是レ実ニ对支外交ノ将来ニ関シ東亜大局ノ治乱ニ関シ朝野有識者ノ齊シク杞憂ヲ禁ズル能ハザル所ナリ。

今日ハ我帝国ガ断然從來政府部内ニ浸潤シタル他働の外交ノ方針ヲ一変シテ主働の外交ノ方針ヲ確定シ以テ帝国ノ威信ヲ中外ニ宣揚スルコトヲ期セザル可カラズ。断ジテ行ハハ鬼神モ之ヲ避ク对支外交ノ要ハ此方針ヲ実行ニ顯ハスニ在ルノミ。而シテ我当局者ハ果シテ此抜本的革新ヲ断行シ对支問題ヲ解決スルノ決心アル乎。若シ夫レ今日天与ノ好機會ニ際シ躊躇逡巡徒ニ列国ノ鼻息ヲ窺ヒ其為スナキニ終ラバ戰後列国ノ東方ニ対スル圧力加重シ来ルニ際シ忽チ之ガ均勢ヲ失シ千悔万懺齎ヲ噬ムトモ及バザルニ至ラン。吾人安ゾ当局者ノ猛省の決心ヲ促カサルヲ得ンヤ。

(三) 对支問題ト現内閣ノ外交

我帝国ガ王師ヲ興シテ膠州湾攻囲ニ着手スルニ至リタル所以ノモノハ必シモ彼ノ孤立援ナキ独逸ノ守備軍ヲ殲滅シテ自ラ誇リト為スニ非ズ畢竟日英同盟ノ精神ニ基キ東方永遠ノ平和ヲ維持セントスルノ義ニ出デタルヤ論ヲ俟タズ。支那政府タルモノ日本ノ高義ニ感謝シ誠心誠意我ニ信頼シ

ヲ示シ並ニ其効果ヲ確實ナラシムルコトヲ期セザル可カラザルニ係ラズ現内閣ガ未ダ此策ニ出デザルハ外交ノ遺算ニ非ザルナキ歟。

聞ク所ニ拠レバ元老會議ニ於テ山県公ハ对支問題解決ノ為ニ特派大使トシテ寺内伯ヲ北京ニ派遣シ支那政府ト妥協シテ今後ノ方針ヲ決定センコトヲ主張セリト云フ。吾人ハ其内容如何ヲ詳ニセズト雖モ是レ東亜ノ大局ヲ処理スル上ニ於テ当然執ラザル可カラザル順序ナルベシ。然ルニ現内閣ハ啻ニ此議ヲ排斥シタルノミナラズ此問題ニ関シテ支那政府ニ対シ未ダ何等ノ交渉ヲ開始シタルヲ聞カズ加フルニ日支提携ノ結果支那ノ為ニモ当然其利益ヲ享受スベキ帝国ノ厚意アル今回ノ問題ニ対シテ其朝野ヲ通ジテ百方妨碍ノ態度ヲ恣ニセシメ尚且顧ミザルハ吾人ノ解スルコト能ハザル所ナリ。

二 我日本ガ最後通牒ヲ独逸ニ致スニ当リ特ニ膠州湾ヲ支那ニ還附スルノ目的ヲ声明シタルハ外交ノ遺算ニ非ザルナキ歟。

膠州湾還附ノ声明ハ何レノ点ヨリ觀察スルモ自繩自縛ノ宣言ニシテ他動の外交ノ通弊ナリトス是レ畢竟同盟

日本ノ義拳ニ対シテ特殊ノ便宜ヲ与ヘザル可カラズ。然ルニ出師未ダ幾ナラズ支那ノ抗議頻々トシテ起リ正當ナル我軍事の行動ニ対シテ動モスレバ其掣肘ヲ加ヘントシ我ハ殆ド之ニ忙殺セラレ維レ日モ足ラザルノ状アリ。是レ畢竟支那人士ノ通有性タル猜疑心ニ加フルニ陰險ナル袁世凱ノ權謀術數ヲ以テ我ニ臨ムニ外ナラザルナリ。此時ニ當リ我日本ガ支那ニ対スルニ尚且對等國ノ礼ヲ以テシ之ト尊俎ノ間ニ对支問題ノ解決ヲ図ラントスルガ如キハ是レ所謂木ニ縁テ魚ヲ求ムルノ類ナラズヤ。而シテ現内閣ノ对支外交タルヤ他働退嬰動搖常ナク今日ノ機會ニ応ジテ大策ヲ確定スル事能ハズ毎事外国ノ牽制ヲ蒙ムリテ支那人ノ輕侮ヲ招キ動モスレバ将来ノ大患ヲ貽サントスルノ虞アルハ吾人ノ軫々寒心ニ堪ヘザル所ナリ。

吾人ハ膠州湾事件ニ対シ最後ノ通牒ヲ独逸ニ送リシ当初ヨリ今日ニ至ル外交ノ經過ニ就テ之ヲ朝野識者ノ所説ニ徴シ其最モ國家ノ為ニ憂慮スベキ要件ヲ左ニ掲ゲテ当局者ノ猛省ヲ乞ハザルヲ得ザルモノアリ。

一 我日本ハ対独宣戰ニ就テ東方永遠ノ平和ヲ維持スル大局ヨリ支那政府ニ対シテ十分ナル協商ヲ遂ゲ宣戰ノ目的

國ノ掣肘ヲ余儀ナクセラレテ此声明ヲ為シタルモノナルベシト雖モ之ガ為ニ支那朝野ノ侮蔑ヲ招クノ結果ト為リシノミナラズ且膠州湾善後ノ処分上尠ナカラザル束縛ヲ受クルニ至リタルハ吾人ノ草々看過スルコト能ハザル所ナリ。

三 我日本ハ英國ト交渉スルニ當リ戦局ヲ制限シ我海軍ノ日本海及支那海以外ニ及バザルヲ約シタリト聞ク。是レ亦自主的外交ノ本色ヲ失シタルモノニシテ外交ノ遺算ニ非ザルナキ歟。

初メ英國ノ歐洲戦局ニ参加スルニ際シ援助ヲ我日本ニ乞フヤ英國ノ希望ハ我帝国艦隊ノ出動ヲ促カシ之ヲシテ東南洋ニ於ケル独逸艦隊ヲ監視シ之ヲ殲滅セシメントスルノミニ在リシガ如シ。然レトモ陸海軍ノ意見及總理大臣元老等ノ意見ハ等シク英國ノ交渉ヲ機トシテ不言実行ノ下ニ当然作戰上ノ必要タルベキ膠州湾占領ト同時ニ独領南洋群島ヲ占領セントスルニ決シ將ニ陸海軍ノ出動ヲ見ントスルニ際シ加藤外相ハ独断ヲ以テ日本ガ膠州湾攻撃ノ方針ヲ英國ニ通牒シ其回答未ダ達セザルニ外相ハ本邦駐劄英國大使ニ対シ更ニ南洋群島

占領ノ企図アルヲ漏シシヨリ英國大使ハ驚テ之ヲ本国ニ通ジ英國ハ為ニ日本ノ野心アルヲ疑ヒ俄ニ異議ヲ提出シ来レリ。是ニ於テ乎加藤外相ハ周章狼狽ノ余英國大使ニ面シ日本当面ノ国情ヲ陳シテ切ニ請フ所アリシニ英國政府モ終ニ之ヲ諒トシ結局膠州灣ノ攻撃ニハ英國軍隊ヲ参加セシメ日本ノ艦隊ハ日本海及支那海以外ニ及バザルヲ条件トシテ日本政府ノ要求ヲ容レタリト云フ。然ルニ其後我海軍ガ独領植民地タル南洋諸島ヲ占領スルニ際シ英國ガ之ヲ黙々ニ附スルニ至リシ所以ノモノハ英國モ亦戦局進展ノ干攔勢ノ已ムヲ得ザルヲ認メタルニ由ル歟。將タ又我外務當局者ヨリ南洋占領ニ対シ或ル保証ヲ英國ニ与ヘタルガ為メ英國モ異議ヲ挾マザルニ由ル歟。而シテ我當局者ガ南洋諸島占領ヲ以テ一時ノ軍事的占領ニ過ギズト声明シツツアルハ之ニ基ツクナラントハ世人ノ齊シク疑ヲ解ク能ハザル所ナリ果シテ然ラバ我日本ハ日英同盟ノ偏務的義務ニ服従シタルモノニシテ是レ亦國家ノ体面ヨリ云フモ自主的外交ノ本色ヨリ云フモ吾人ノ痛嘆セザルヲ得ザル所ナリ。

歟。

聞ク処ニ抛レバ山東鐵道占領ハ陸軍ガ最初之ヲ主張シ外務省之ヲ容レザリシモ漸次戦局ノ進ムヲ機トシ陸軍ノ強行ニヨリ外務省止ムナク其措置ヲ執ルニ至リタルナリト。之ニ反スルモノ、説ニ曰ク山東鐵道ノ占領ハ外相モ亦タ夙ニ其必要ヲ認ムル所ナリシト雖モ初メ陸軍ノ交渉ニ從ハザリシ所以ノモノハ當時四周ノ狀勢未ダ其時機ニアラザリシガ為メナリ。然ルニ外相ハ一旦其機ノ到レルヲ看取スルヤ之ヲ猛斷シテ一步モ仮借セズ陸軍ノ如キ此斷行ニ対シ却テ配兵上ノ都合ヨリ数週間ノ延期ヲ望ミ外相ノ容ル、所トナラザリシ位ナリト。吾人ハ此兩説ニ対シテ其真偽如何ヲ判スルニ苦ムト雖モ當時我陸軍ノ濰縣停車場ヲ占領スルヤ北京駐劄日置公使ハ北京政府ニ告グルニ山東鐵道ノ占領ハ単ニ濰縣ニ止マリ決シテ西進スベキモノニアラザルヲ以テシタルニ日ナラズシテ陸軍ノ行動濰縣以西ニ及ビ為ニ支那政府ノ抗議ニ遇ヒ之ガ答弁ニ窮セルノ事實アルニ考フレバ其間ノ消息亦以テ忖度スルニ余アリ是レ亦タ陸軍ト其方針ヲ異ニスルモノニシテ吾人ヲシテ外交方

四 我外務當局者ノ方針ハ戦局制限ノ結果南洋諸島占領ノ企図ナカリシニ係ラズ今回我海軍ガ南洋諸島ヲ占領スルニ至リタルハ単ニ海軍ノ行動ニ出デタリト聞ク。是レ海軍ノ行動ト其方針ヲ異ニスルモノニ非ルナキ歟。

伝フル処ニ抛レバ南洋方面ニ遊弋中ナリシ我艦隊ガ独領植民地タル「マーシャル」「マリヤナ」「カロリン」諸群島ヲ占領スルヤ外務當局ハ其報ヲ得テ狼狽シ之ヲ海軍當局ニ詰ル所アリシニ海軍當局ハ答フルニ是レ海軍作戰上ノ必要ニ基クモノニシテ作戰行動上ノ自由ハ

陛下大權ノ許シ給フ所ナルヲ以テシタルニ外務省ハ余儀ナク之ヲ承認スルニ至リタルナリト。果シテ然ラバ是レ海軍ノ行動ト其方針ヲ異ニシタルモノニシテ外務當局ハ他日媾和ノ晁飽迄其占領ヲ維持スルノ決心アルヤ否ヤ吾人ノ関心ニ堪ヘザル所ナリ。

五 我外務當局者ハ山東鐵道ノ全部ヲ占領スルノ意志ナカリシニ係ラズ今回陸軍ガ濰縣ヨリ進ミテ濟南ニ至ルマデ之ヲ占領シタルハ単ニ陸軍ノ行動ニ出デタリト聞ク。是レ亦陸軍ノ行動ト其方針ヲ異ニスルモノニ非サルナキ

針ノ動揺不定ヲ疑惧セシムルノ一端ナリトス。

六 大隈首相ガ元老ヨリ加藤外相ノ外交的失策ヲ指摘セラ

ル、ヤ首相ハ窮迫ノ余闕下ニ伏シテ加藤ノ外交ハ最善ノ努力ヲ悉シタルモノナルコトヲ奏上シ且波多野宮相ニ頼リテ外相信任ノ勅語ヲ賜ハランコトヲ奏請セントシタリト聞ク。是レ豈外交ノ失態ヲ糊塗シ一時ヲ弥縫セントシタル不謹慎ノ所為ニ非ズヤ。

聞ク処ニ抛レバ大隈首相ハ加藤外相不信任ノ声朝野ノ間ニ喧シク就中元老井上侯ノ如キ専ラ加藤外相ノ更迭ヲ逼リシヨリ不謹慎ニモ窃ニ天皇陛下ニ奏請シ更ニ加藤外相ノ外交其機宜ニ適スル勅語ヲ下シ給ハンコトヲ波多野宮相ニ請求セシニ流石ノ波多野宮相モ事態ノ穩ナラザルヲ察シ走リテ之ヲ元老ニ告ゲシト云フ。之ヲシテ果シテ事実ナラシメバ首相不臣ノ罪ハ外交ノ失敗ト共ニ掩フ可カラザル也。

吾人熟ラ現内閣ノ外交ヲ察スルニ自主的外交ノ本領ヲ没シテ他働の方針ニ出デ卑々トシテ同盟國ノ鼻息ヲ窺ヒ唯其歡心ヲ失ハンコトヲ恐ル、モノ、如シ而シテ其支那ニ対ス

ルヤ目前ノ弥縫ニ止マリテ初メヨリ確乎不拔ノ方針ナク遠大ノ計画ナク一意同盟国ノ外交ニ追隨シテ動モスレバ其制ヲ受クルニ甘心セントス。是ヲ以テ一旦帝國ノ戰ヲ宣スルヤ陸海軍ハ各自独立ノ行動ヲ執リ却テ外交ノ方針ヲ左右セントスルヤ彼ガ如シ。是レ実ニ現内閣ノ外交ガ一定ノ方針無ク対支政策ノ根本義ニ接觸セズ国民ノ清議ヲ藐視シ一意他働的外交退嬰的政策ノ旧套ヲ踏襲スルノ致ス所タラズンバアラザル也。

願フニ我帝國ノ外交ハ対支問題ヲ以テ其根軸ト為ス。而シテ今日ハ対支外交活動ノ出发点ニシテ亦根本的解決ノ方針ヲ確定シ之ヲ実行スルノ第一著タラザル可カラズ。然ルニ現内閣ノ外交ハ対支政策上根本的解決ノ方針未ダ確立セザルノミナラズ目前ノ折衝ニ於テモ毎事其機宜ヲ誤ルコト此ノ如シトセバ其最後ニ於テ安ゾ能ク完全ナル効果ヲ収メ外交上ノ捷利ヲ期スルヲ望ムベケンヤ。否現内閣ニシテ依然トシテ他働的外交ノ方針ヲ墨守シ対支外交ノ根本政策ニ接觸セザル以上ハ対支問題ノ解決得テ期ス可カラズ。対支問題ノ解決得テ期ス可カラズンバ東方永遠ノ平和得テ期ス可カラズ。東方永遠ノ平和得テ期ス可カラズンバ我帝國ハ

之ヲ扶植シテ東亞ノ平和ヲ鞏クセンガ為メニ清國ト戰ヒ滿洲ノ一部ニ抛リテ中流ノ砥柱トナリ以テ大局ヲ支持セント欲シタルモ三国ノ干渉ニヨリテ之ヲ抛棄シ暫ラク退嬰ノ態度ヲ執ルニ至レリ

已ニシテ独露ヲ初メ歐洲列強ハ争フテ其ノ爪牙ヲ清國ニ伸バシ老帝國分割ノ勢、漸ヤク將サニ成ラントスルヤ我帝國ハ率先シテ支那保全ノ議ヲ唱ヘ平時ト變時トヲ問ハズ終始一貫之ヲ以テ國是ト為シ其極國運ヲ賭シテ露國ト戰ヒ之ヲ滿洲ノ天地ヨリ驅逐シテ平和維持ノ必要上已ムヲ得ザルモノヲ租借スルノ外悉ク之ヲ清國ニ還付シタリ其後革命ノ乱ニ際シテモ我帝國ハ亦此主義ヲ堅持シテ毫モ渝ハルコトナカリシハ歐洲ノ同盟國協約國ヲ初メトシテ世界列強ノ齊シク認メテ疑ハザル所ナリ

然ルニ支那ハ我レノ血ヲ流シ財ヲ糜シテ其領土ヲ保全セントスルヲ德トセズ却テ惡意ヲ以テ我レヲ迎ヘ事變ノ起ル毎ニ歐米ニ結ンテ我レニ對抗セントシ平時ニ在テモ亦遠交近攻ノ策ヲ固持シテ常ニ我ヲ疎外シ兩國相ヒ携ヘテ東亞ノ大局ヲ支持シ唇齒輔車ノ実ヲ挙クルノ誠意ナク常ニ自ラ領土保全ノ主義ヲ破壞シ平和攪乱ノ種子ヲ播イテ止ムコトナシ

安ゾ戰後ノ大勢ニ応ジテ列國ト其覇ヲ争フヲ得ンヤ。帝國ノ隆替東亞ノ安危唯一ニ我對支外交ノ方針如何当局者ノ覺悟如何ニ在ルノミ。吾人ハ軍國多事ノ今日挙國一致以テ奉公ノ至誠ヲ致サル可カラザルヲ知ル者ナリ。而シテ外交ノ事タルヤ一タビ其機宜ヲ失スレバ千載回ス可カラザル悔ヲ貽サルヲ得ズ。茲ニ於テカ吾人ハ此際國民意見ノアル所ヲ吐露シテ当局者ノ注意ヲ喚起シ外交方針ノ第一ヲ求ムルハ是レ真ニ善ク挙國一致ノ真諦ニ協フモノナルヲ信ジ敢テ帝國ノ現狀ニ鑑ミ東亞ノ将来ニ察シ本会平素研究ノ鄙見ヲ具シテ当局者ノ猛省ヲ乞ハント欲スル所以ナリ。

大正三年十月二十九日

黑 竜 会

註 本書ハ十月二十九日黑竜會代表内田良平ヨリ小池政務局長ニ提出セラレタリ

六〇五 十一月七日 小川平吉

對支東洋平和根本策

先帝開國進取ノ宏謨ヲ定メ給ヒシヨリ琉球樺太ヲ初メトシテ先ツ帝國ノ四境ヲ整理シ進シテ朝鮮ノ獨立ヲ宣シ次イデ

此ノ如クシテ底止スルナクンバ我帝國如何ニ支那領土ノ保全ニ熱中シ東洋平和ノ維持ニ腐心スルトモ其ノ目的ヲ達スル事蓋シ難カラシ特ニ吾人ヲシテ慨嘆ニ堪ヘザラシムルモノハ最近ニ於ケル彼ノ言動ナリ抑モ我ノ膠州灣攻撃ハモトヨリ東洋永遠ノ平和ヲ図ルノ目的ニ出テタルモノナルコト明白ナルニモ拘ハラズ彼支那ノ官民胡為ルモノゾ中央政府ノ大官ヲ初メトシ上下挙テ公然我ニ敵對シ甚ダシキニ至テハ日本ニ向テ戰ヲ宣スベシト極言スルニ至ル其亡狀實ニ言語ニ絶セリ惟フニ歐洲ノ戰乱其ノ局ヲ結ビ列強再ヒ更新ノ勢ヲ以テ東亞ニ臨ムニ至テハ彼等ハ直チニ歐米ノ野心國ト結托シ權謀術數極力我ヲ排斥シ遂ニハ人ノ兵ヲ借りテ其ノ國ヲ奪ハル、ノ愚ヲ演スルニ至ルヤ必セリ此時ニ當リ我自ラ進ンテ独力大局ヲ支持セント欲スルモ勢已ニ遲シ

抑モ支那保全ノ事タルヤ歐米諸國ニ取リテハ単ニ利害得失ノ問題タルニ過ギザレドモ我帝國ニ取リテハ實ニ安危存亡ノ由テ岐ル、大問題タリ從テ我ノ責任ハ歐米諸國ニ比シテ重大ナルト同時ニ支那ニ對スル權利モ亦一層優越セルコト論ヲ俟タズ之レ我ノ血ヲ流シ財ヲ糜シ國力ヲ賭シテ支那保全ニ尽力シタル所以ナリ、而シテ今日以後ニ於テモ場合ニ

ヨリテハ独力保全ヲ遂行スルノ決意ト準備トヲ要スル所以ナリ

今ヤ歐洲大乱ノ結果列強ハ復タ支那ヲ顧スルノ遑ナク大局支持ノ責任ハ事実上一ニ繫テ我日本帝國ノ双肩ニ在リカノ支那官民ヲシテ真ニ我帝國ノ重責ト領土保全ノ真意義トヲ了解セシメ根本的ニ東洋平和ノ基礎ヲ確定スルハ今日ヲ措テ復タ見ル可カラス語ニ曰ク天ノ与フル所取ラザレバ必ズ禍アリト此語實ニ今日ノ時勢ニ適切ナリトス

然ラハ則チ支那ヲシテ真ニ我國ノ重責ト領土保全ノ真意義トヲ了解セシメ根本的ニ平和ノ基礎ヲ確定スルノ策如何請フ其綱要ヲ左ニ列記セン

(第一) 領土保全大局支持ニ関シ日支兩國間ニ特種ナル

同盟的協約ヲ締結スル事

(第二) 支那ヲ援助シテ自彊ノ道ヲ講ゼシムル事

(第三) 前二項ノ趣意ヲ実行スルニ足ルヘキ保障ヲ得ル

事

今少シク之ヲ細説セン

(第一) 日支兩國ハ真ニ唇齒輔車ノ關係ヲ有ス支那若シ滅亡セバ則チ日本モ亦独リ安キヲ得ズ故ニ兩國ノ共同シテ支

那ノ自彊ヲ策スルヨリ急ナルハナシ支那ノ自彊ヲ策セント欲セハ東洋ノ盟主將タ支那ノ同盟タル責任上我國ハ自ラ進ンデ之ヲ援助セサル可カラズ援助ノ方案左ノ如シ

一、革命黨宗社黨其他政派ノ統一調和ヲ図ル事

一、政事組織ヲ改善スル事

一、陸海軍ノ訓練ヲ初メトシ外交財政教育殖産司法交通等行政各部ニ日本人ヲ招聘セシメ内政ノ大改革ヲ断行スル

事

人或ハ支那陸海軍訓練ノ結果戈ヲ倒ニシテ我ヲ撃ツヲ恐ルルモノアリ然レトモ如此キハ一片ノ杞憂ニ過ギザル事支那研究者ノ齊シク一致スル所ナリ

(第三) 支那ハ往々謠詐ヲ以テ外交ノ真諦ト見ナスモノナリ故ニ其約諾モトヨリ信ヲ必ス可カラス故ニ我ハ彼ノ信義如何ニ拘ラス又四圍ノ状況如何ニ拘ラス独力ヲ以テシテモ我國是ヲ遂行セザル可カラス從テ之カ準備ヲ為シ又之カ地歩ヲ占メサル可カラス所謂独力平和ヲ維持シ得ヘキ保障トハ之ノ謂ヒナリ

一、南滿洲并ニ内蒙古ヲ日支兩國ノ共同統治ノ区域トナス

那固有ノ領土ヲ保全シ提携シテ東亞ノ大局ヲ支持シ以テ黃人種ノ文化ヲ進ムルハ實ニ自衛ノ必要ニ出ツルモノニシテ亦實ニ我國ノ天職タラスンバアラス此見地ニ基キ支那ニ對シテ大要左ノ如キ協約ヲ締結スヘシ

一、日支兩國ハ同盟シテ支那固有ノ領土ヲ保全スベキ事

一、支那ノ領土ヲ侵犯セントスル者アル時ハ日本ハ支那ト

共同シ之ガ防禦ノ任ニ膺ル事

一、支那ハ各國ニ對シ恣マ、ニ政治上經濟上其他ニ関シ特殊ノ權利利益其他ノ讓与ヲ為スヲ得ザル事

一、膠州灣ノ租借地ハ支那ガ自彊獨立ノ実ヲ挙ゲ平和維持ノ責任ヲ尽スニ足ルニ至ラハ期限前ト雖モ之ヲ支那ニ還付スル事

(第二) 支那ニシテ富ミ且ツ強ク獨立ノ実ヲ挙クルノ域ニ達センカ則チ領土保全ノ如キ他人ノ容喙ヲ要セザルナリ然ルニ支那ノ現状ヲ視ルニ袁世凱ハ未タ全國ヲ統一スルノ實力ナク各種不平等ハ全國各階級ニ瀰漫シ國家ノ基礎薄弱ニシテ政治ノ中心確立セス文武ノ行政ハ齊シク萎靡シテ毫モ振ハズ國民ニ富強ノ素質ヲ備ヘテ而カモ國家ハ則チ積弱ノ勢ヲ成セリ故ニ今日東亞ノ大局ヲ支持スルノ急務ハ支

那ノ自彊ヲ策スルヨリ急ナルハナシ支那ノ自彊ヲ策セント欲セハ東洋ノ盟主將タ支那ノ同盟タル責任上我國ハ自ラ進ンデ之ヲ援助セサル可カラズ援助ノ方案左ノ如シ

一、革命黨宗社黨其他政派ノ統一調和ヲ図ル事

一、政事組織ヲ改善スル事

一、陸海軍ノ訓練ヲ初メトシ外交財政教育殖産司法交通等行政各部ニ日本人ヲ招聘セシメ内政ノ大改革ヲ断行スル

事

人或ハ支那陸海軍訓練ノ結果戈ヲ倒ニシテ我ヲ撃ツヲ恐ルルモノアリ然レトモ如此キハ一片ノ杞憂ニ過ギザル事支那研究者ノ齊シク一致スル所ナリ

(第三) 支那ハ往々謠詐ヲ以テ外交ノ真諦ト見ナスモノナリ故ニ其約諾モトヨリ信ヲ必ス可カラス故ニ我ハ彼ノ信義如何ニ拘ラス又四圍ノ状況如何ニ拘ラス独力ヲ以テシテモ我國是ヲ遂行セザル可カラス從テ之カ準備ヲ為シ又之カ地歩ヲ占メサル可カラス所謂独力平和ヲ維持シ得ヘキ保障トハ之ノ謂ヒナリ

一、南滿洲并ニ内蒙古ヲ日支兩國ノ共同統治ノ区域トナス

ル可シ一大威力ハ我國現ニ之ヲ有セリ一大決心ハ之ヲ当局者ニ望マサルヲ得ズ当局者幸ニ現下ノ情勢ト百年ノ将来トニ鑑ミテ這箇大決心ヲ為サハ直チニ袁世凱ニ對シテ堂々トシテ大局ヲ説キ前三項ノ問題ヲ提起シテ赤誠ヲ披瀝シ牢乎タル決心ヲ以テ之カ貫徹ヲ図ルヘシ彼幸ヒニシテ之ヲ容ルレハ可ナリモシ之ヲ容レズンバ彼ハ則チ東洋ノ平和ヲ無視スルモノニシテ四億万支那人民ヲ代表スルノ資格ナキモノナリ我ハ断然之ヲ排斥シテ引退セシムヘシ彼背德非行ハ神人ノ共ニ怒ル所之ヲ廢黜スルハ天ノ命ナリ我已ニ天命ニヨリテ彼ヲ排斥シタル以上ハ改メテ支那ノ民意ヲ代表シ且ツ東亜ノ大局ニ通曉セル有力ノ士ヲ挙ゲテ政治ノ局ニ當ラシメ之ト共ニ百年ノ大計ヲ協議スベシ余ハ四百余州決シテ其人ニ乏シカラサルヲ信ス

苟モ我ニシテ此ノ決心ヲ示サハ袁世凱ノ利害ニ明敏ナル必ラスヤ我ノ希望ヲ認容スルニ至ル可シ要ハ唯我ノ決心如何アリテ存ス

然レ共袁ノ排斥モ亦容易ノ業ニ非ス且ツ中外ニ對シテ却テ誤解ヲ招クノ虞ナキニアラサルヘシモシ此ノ如キ懸念アラハ我自ラ直接ニ手ヲ下スヲ要セズ

クル底ノ勇斷ヲ以テ之ヲ決行シ以テ百年興隆ノ基礎ヲ定ムカノ普魯西ガ塊國ト共ニ丁抹ヲ撃チ一転シテ塊國ノ大勢力ヲ驅逐シ更ニ塊國ト手ヲ握リテ仏國ヲ破リ六年ニシテ三戰シ益々國運ヲ勃興セシメタル所以ノモノハ一定ノ國是ヲ固持シ万難ヲ排シテ果斷決行シタルニ由ラズンズ非ラズ我邦モシ艱難ヲ恐レ障礙ヲ憚リ首鼠逡巡シテ断然奮起スル事能ハスンバ國家ハ萎縮シテ振ハス國民ハ徒ラニ過去戰勝ノ功名ニ酔ヒ驕慢ニシテ偷安姑息漸ク腐敗ニ陥リカノ世界ニ雄飛スル底ノ精神氣魄ハ復タ見ル可カラサルニ至ル可シ由來我邦ノ外交ハ優柔不斷外國ノ鼻息ヲ窺フノ弊アリカノ朝鮮ニ関スル外交ノ如キモ屢々機宜ヲ失シテ問題ノ解決ヲ遲延セシメ為メニ益々困難ノ域ニ陥リテ非常ナル犠牲ヲ払フノ已ムヲ得サルニ至リタリ

支那ノ問題亦此ノ如シ優柔不斷年所ヲ經過セバ外國ノ圧迫ハ益々其ノ度ヲ増シ保全ノ主義ハ益々破壞セラレテ我國ハ遂ニ東洋ノ平和維持ノ責任ヲ尽スニ足ルベキ地歩ヲ失却シ畢ラントス豈憂フヘキニ非ラスヤ

世或ハ上述ノ外交ニ付キ歐米諸國ノ反對ヲ恐ル、者アリ之一理ナキニ非ス然レ共英露兩國ハ元來明ニ我ノ位置ト責任

我ニハ最モ有力ナル援助者アリ所謂寄貨措クヘキモノ彼ノ革命黨則チ之ナリ今ヤ彼等ノ黨与ハ水ノ地中ニ在ルガ如ク四百余州ニ浸潤シテ潜伏シ其幹部ハ則チ我邦ニ在リ彼等ハ実ニ支那ノ改造者ニシテ最モ進歩セル政治上ノ意見ヲ有シ且ツ我邦ト特殊ナル關係ヲ有スルモノナリ我今彼等ニ仮スニ一挙手一投足ノ力ヲ以テセハ彼等ハ蜂起シテ直チニ袁ヲ排斥シテ支那ノ政權ヲ執リ局面一変支那ハ我ト共ニ提携抱負シテ唇齒輔車ノ実ヲ挙ゲ容易ニ前記三項ノ實現ヲ見ルニ至ルベシ万一彼等微弱ニシテ容易ニ其目的ヲ達スル能ハストスルモ一勝一敗鬭争混雜ノ中ニ処シテ徐ロニ時勢ノ變遷ヲ察シ臨機応変其ノ最モ有德ニシテ四億万ノ希望ヲ繫クニ足ル者ヲ援助シテ局面ヲ收拾シ以テ終局ノ希望ヲ達スルハ易々タルノミ之ヲ彼ノ独露諸國カ巴爾幹ニ其余党ヲ扶殖シ若シクハ米國ガ墨國ニ於ケル憲政軍ヲ援助スルカ如キニ比較スル時ハ其難易実ニ同一ノ談ニ非ルナリ

凡如何ナル新進勃興ノ國ト雖モ列國對峙ノ時ニ當リ外交一度其途ヲ誤レバ國勢挫折シテ萎靡不振ニ陥ルハ歴史ノ証明スル所ナリ

故ニ大政治家ハ審ラカニ形勢ヲ察シテ深謀遠慮シ鬼神モ避

トヲ了解シ又我ノ誠意ヲ疑ハサルモノナリ我モシ彼ノ西藏外蒙其他ニ於ケル權利ヲ確認シテ共ニ支那固有ノ領土ヲ保全セントセハ其喜ンテ之ニ応スヘキヤ疑ヲ容レサル所ナリ況ンヤ歐洲ノ現状彼カ如クニシテ我トノ關係亦昔日ノ比ニ非ラス彼ノ我ニ求ムル所ハ又測リ難キモノアルノ今日ニ當リ我ノ正當ナル主張ニ基ヅク断乎タル決心ニ對シテ抵抗ヲ敢テスルカ如キハ智慮アル兩國政治家ノ執ラサル所ナルヘシ

米國ハモトヨリ正義ヲ重ンズルノ國ナリ我ノ國家生存ノ必要ニ基キ東洋平和ノ基礎ヲ固クセントスルノ政策ニ對シテ異議ヲ挾ムヘキノ理ナシ然レトモ彼ハ管テ人道ヲ無視シテ我移民ヲ虐待シタリ彼ハ管テ南滿鐵道ノ中立ヲ提議シタリ彼ハ嘗テ六國借款團ヨリ脱退シタリ而シテ彼ノ近來ニ於ケル言動ニ察スルニ彼ハ我ノ膠州灣租借又ハ山東鐵道ノ領有ニ對シテモ將ニ強硬ナル反對ヲナサントスルモノ、如シ從テ我ノ對支外交ニ對シ抗議ヲ提出スルヤトモ計ルヘカラス我若シ彼ノ意ニ從ハント欲セハ第一膠州灣山東鐵道ハ先以テ無條件ニテ之ヲ支那ニ還付シ更ニ進ンテ將來提出セラルヘキ突飛ナル要求ニ對シテ一々之ニ応スルノ覺悟ナカルヘ

カラス之レ我ノ忍ビザル所ナリ然ラハ則チ南滿鐵道中立ノ提議若シクハ膠州灣山東鐵道ニ對スル抗議ヲ斥クルト同一ノ筆法ヲ以テ彼ノ抗議ヲ斥ケテ可ナリ彼ハ元來支那ニ關スル政治上經濟上ノ關係頗ル輕微ニシテ列國ト共ニ發言スルノ資格ニ乏シキモノナリタトヘ一旦抗議ヲ提出スルトモ結局無事ニ解決ヲ告クルヲ疑ハスカノ墨西哥ノ關係ノ如キ之ヲ証シテ余アリ然レトモ彼レ若シ驕傲ナル帝國主義ニ動カサレ頑冥不靈好シテ黨ヲ我ニ啓カント欲セハ我モ亦最後ノ決心ヲ以テ之ニ応センノミ今日ノ要ハ只斷ノ一字ニ在リ疑懼スルヲ須キス

大正三年十一月初七

歐洲ノ戰爭正ニ酣ニシテ

青島陥落ノ報到ルノ日

小川 平吉

註 右ハ小池政務局長ニ送付越サレタリ

六〇六 十二月五日

中村 關東都督ヨリ
加藤 外務大臣宛

膠州灣租借地ヲ中国ニ還附ニ際シ報償トシテ
滿洲東蒙古ニ於テ獲得スベキ權益ニ付所見具
申ノ件

(イ) 居住營業ノ權利

(ロ) 不動産所有權若ハ少クモ其ノ用益權

(ハ) 鐵道鉱山其他ノ企業ニ關スル優先權

(ニ) 必要ト認ムル場所ニ領事館ノ設置

第二条 政務就中財務、警務、法務ノ改善ニ關シ我カ帝國政府ノ忠告ヲ容ルルカ為其ノ推薦スル顧問若干名ヲ奉天省巡按使ニ於テ傭聘スル事

第三条 軍政ノ改善ニ關シ我カ帝國政府ノ忠告ヲ容ルルカ為其ノ推薦スル顧問若干名ヲ奉天將軍ニ於テ傭

附屬書 右所見書

特機第九号

(十二月十日接受)

大正三年十二月五日

關東都督男爵 中 村 覺(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

時局解決ニ際シ南滿洲及東蒙古ニ於テ優越ノ地歩ヲ獲得シ將來發展ノ基礎ヲ樹立スルハ最モ緊要ノ処置ナリト信ス依テ別紙所見書提出ニ及ヒ候条採用セラレンコト切望ニ不堪候

追テ内閣總理大臣、陸軍大臣閣下ヘモ同様提出仕置候間
申添候

(附屬書)

所 見 書

膠州灣租借地ハ之ヲ支那政府ニ還附シ我カ帝國政府ノ公明正大ナル誠意ヲ中外ニ表明スルト同時ニ其ノ報償トシテ要求スヘキ全体ノ案件ハ之ヲ廟議ニ譲リ就中朝野多年ノ宿望タル滿蒙問題ニ關シテハ左記条件ヲ參酌シ以テ解決セラレシコトヲ望ム

第一条 南滿洲及東蒙古ニ於テ左ノ利權ヲ獲得スル事

聘スル事

大正三年十二月五日

關東都督 男爵 中村 覺

副 申

關東州租借期限延長問題ハ此際之ヲ提議スルコトナク現在ノ期限滿了ノ時ニ至リ交渉ヲ開始スルヲ以テ得策ナリト思考ス此段申添置候